

80 17

靈智學解説全

エッチ・ピー・ブラヴツキー原著

DEDICATED
BY
"H. P. B."
TO ALL HER PUPILS,
THAT
THEY MAY LEARN AND TEACH
IN THEIR TURN.

明治
43. 12. 22
内交

序

本書の目的は其の表題『靈智學解説』に依りて自ら明かなれば、今別に之を説明せず。元より本書は靈智學の詳細を説き盡さんとするものにあらず、只其の端緒を開き、尙進んで斯學を究めんとする人の資に供せんとするものなり。されば『智惠教』の概略を述べ、其の原理を説明すると同時に、西洋の一般研究者が提起せる諸種の反説を辯じ世人に未だ普及せざる思想を最も簡易明瞭なる語辭を用ひて説き表さんとするものなり。併しながら勿論聊も讀者の腦力を勞せずして悉く靈智學を理解せしめんとするものにはあらず。殊に理解に苦しむ處は之を説明する語辭の間にあらずして、其の學の思想に存す。即ち理の複雑にあらずして、其の深立なる處にありとす。抑も靈智學は、其の研究に意なき者、或は

理解力乏しき者に對しては固より不可思議の事に屬せん。何となれば精神世界の事に就いては、人は自ら考究せざる可らずして、即ち著者は讀者に代りて傳心的に思考し得るものにあらざれば、好し今假に思考し得とせんも讀者には、何の益する處あらざるべければなり。本書の如き解説書の必要は靈智學及び其の會、若しくは其の事業に就きて之を究めんとする人々の間に久しく感じたる處ならん。本書は既に世の靈智學の研究に志し居れども、唯その五里霧中に彷徨して全く之を覺り得ざる者の爲に成るべく平易に之を説明せんとするに外ならず。死後の状態に關しては、亡魂論中いづれが眞にしていづれが偽なるかを區別し、又心靈的現象の眞の性質を表はすに意を用ひたり。さきに此の現象論を試みて、或る人々の烈しき怨恨を招きたる事あり。箇は彼の亡魂論者等は猶かつ世人の多數に漏れず、眞理よりも自己に都合好き事のみを信じ、却つて其

の迷夢を破らんとする人を怨むものなればなり。近來靈智學は亡魂論者等の毒矢の的となり居れり。これ正に半ば悟るものは全く悟らざるものよりも、より多く眞理を悟るものを惡むと云ふが如きもの乎。終に著者は斯學に關して注意或は質疑其の他諸種の助力を寄せられたる靈智學者に對して深く感謝す。而して其の助力は本書をして一層有益のものたらしめたりと確信す。この一事は實に上記の人々に對して最良の報酬となりたることを疑はざるなり。

倫敦に於て

H. P. B.

一千八百八十九年

ポイントローマ版に就て

靈智學を眞面目に研究せんとする人々の爲めに特に著述したる本書は世に大に需要せられ今新に版を重ねるの必要を生じたり。書中論及したる問題の中に、尙一層詳解をなさんがため、或は一千八百九十八年に於ける靈智學會の再設せられし以來、本會運動の大發展をなしたるを以て本書も時世の發達に伴はしめんが爲めに、ブラヴツキー女史の後繼者及び世界的靈智學運動の第二主導者たるジャツジ氏の著述より、又或は余の先進者及び余に就きて斯學を研究したる者の著書より採りたる記事を括み加へたり。此等引用の個所には皆な括弧を施したり。又亞米利加に於て出版したる訂正第二版より省略したる個所は再び記入したれば現今に至るまでの斯學の事は残る所なく知るを得べし。別に註釋を追加し、又

ブラヴツキー女史が其の第二版に加へたる分をも記載し新に索引にも附加したる處あり。本書中にブラヴツキー女史は本會の事を單に『靈智學會』と稱し居れど、其の全名稱は『靈智學及世界同胞會』なりとす。本會が一千八百九十八年に再設せられし以來其の名稱は現今の如く『世界同胞及靈智學會』と改められたり。本會の本部は亞米利加合衆國カリホルニヤ州ポイントローマにあり。尙本書中の註十一及六十を参照せられたし。

ポイントローマに於て

カセリン、チングリー

Katherine Tingley,

Point Loma.

一千九百七年三月十三日

緒言

書中語句の左側に數字を施したるは卷末註解の部に説明せる
學語の番號と對照するに便したるものなり。
本書翻譯に就て平井金三氏が種々の點に於て有益なる助力を
與へられしことを謹んで感謝す。

相州返子に於て

明治四十三年晚秋

譯者

イー、エス、ステアアンズ

宇高兵作

識

靈智學解説目次

第一章 靈智學及靈智學會

名稱の意義……………一

靈智學會の方針……………六

智惠教は何れの世に在ても秘教なり……………一〇

靈智學は佛敎にあらず……………一七

第二章 靈智學の顯部と密部

現代靈智學會の他と異なる點……………二〇

靈智學者及び靈智學會員……………二五

靈智學と秘密學との差異……………三二

靈智學と亡魂論との差別……………三四

靈智學は何故歡迎せらるゝか……………四一

第二章 靈智學會の機能

會の目的…………… 〇九

人類起原の同一なる事…………… 一〇

吾々の他の目的…………… 一〇

誓の神聖に就て…………… 一〇

第三章 靈智學會と靈智學との關係

修養に就て…………… 一〇

有形と無形…………… 一〇

第四章 靈智學の根本的教義

神及祈禱に就て…………… 一〇

祈禱は必要なりや…………… 一〇

祈禱は自恃心を失はしむ…………… 一〇

第五章 自然と人間に關する靈智學の教

人間靈魂の源…………… 一〇

以上に關する佛敎の教…………… 一〇

萬物唯一論…………… 一〇

進化及び幻影…………… 一〇

地球は七部より成ると云ふ説…………… 一〇

人間の七性…………… 一〇

靈智學の本因分類表…………… 一〇

靈魂と精神との區別…………… 一〇

希臘敎…………… 一〇

第六章 死後の状態

肉體的及び靈性的人間…………… 一〇

永久賞罰及び涅槃…………… 一〇

人間の諸本因に就て……………二四二

第八章 輪廻説に就て……………二四二

靈智學の教にては「記憶」は如何なるものか……………二四三

何故に吾々は前生の事を記憶せざるか……………二四四

眞我及び人我に就て……………二四三

自我の賞罰に就て……………二四三

第九章 Kamaloka 及び Devachan 論……………二四三

下位本因の運命に就て……………二四三

靈智學者が純粹精神の歸還を信せざる理由……………二四七

五蘊に就て……………二四七

死後及び生後の意識に就て……………二四九

消滅とは如何なる事を意味するか……………二四九

定まれる物に對する定まれる語……………二四九

第十章 思考本因の性質に就て……………二四四

自我の神秘……………二四四

Mannas の複雑性……………二四三

此の教は聖書の約翰傳にあり……………二四六

第十一章 輪廻説の奧義に就て……………二四九

定期の生れ變り……………二四九

Karma とは如何なるものか……………二四四

「悟る人」とは如何なる人か……………二四三

信仰と智識との差、即ち盲信と合理信との差……………二四六

神は罪を赦す權利有るか……………二四七

第十二章 實用的靈智學とは如何なるものか……………二四七

義務……………二四七

政治的改革と靈智學會との關係……………二六三

犠牲に就て……………二六〇

慈善に就て……………二九五

庶人に對する靈智學……………二九七

如何にせば會員は會を助け得るか……………三〇一

靈智學者の爲す可からざる事……………三〇四

第十三章 靈智學會に對する誤解に就て……………三二五

靈智學と禁慾主義……………三二五

靈智學と結婚……………三三〇

靈智學と教育……………三三二

然らば何故に靈智學會は斯く非難せらるるか……………三三〇

第十四章 靈智學の Mahatmas……………三四一

Mahatmas は「神」か「惡魔」か……………三四一

神聖なる名及び語の濫用……………三三六

結論……………三六一

靈智學の將來……………三六一

註解……………三七一—三六六

靈智學解說

エッチ・ビー・ブラブツキー原著

第一章 靈智學及靈智學會 (註I) (註IIを見よ)

名稱の意義

問

靈智學と其教は、往々新しい宗教と言ひますが、夫は本當ですか。

答

本當では有りません。靈智學は、神聖の知識或は科學で有ります。

問

靈智學と云ふ言葉の正しい意味は何と云ふのですか。

答

神的智慧、希臘語の Theosophia 即ち「神の智慧」から出たのです。Theos は希臘語で「神」と云ふ意味で、即ち神の「一ツ」です。然し、耶穌教の「上帝」の意味では無いのです。だから「神の智慧」と譯するより、「神の有て居る様な智慧」の方が正しいのです。靈智學と云ふ語は、幾

千年も古い言葉です。

問 其名は何處から出たのですか。

答 アレクサンドリアの Philaethian と云ふ一派の哲學者から傳はつたのです。靈智學と云ふ名は、西曆第三世紀に、「折中靈智學」(Eclectic Theosophical system)を創立したる、Ammonius Saccas と其人の弟子から始まつた言葉です。其哲學者等は、又「比喩學者」(Analogicists)とも云はれました。其の譯は醫學博士 Alexander Wilder 教授が其の「新プラトニ學と鍊金術」New Platonism and Alchemy (註)と云ふ本に左の通り説明して居ります。

「其の譯は比喩學者は、總ての神話、神秘及太古の傳説を比喩或は對合 (Correspondence) の法に依て解釋し、恰も此の世に起つた様に、傳へられた出來事を、皆人間の靈魂の働と經驗として解釋したからである。」

[註] A sketch of the Doctrines and Principal Teachers of the Eclectic or Alexandrian School; also an Outline of the Interior Doctrines of the Alchemists of the Middle Ages. Albany. N. Y., 1869.

彼等は又新プラトニ派とも云はれて居ました。靈智學或は折中靈智學は前に云つた通り、第三

世紀に始つたと、普通に言つて居るが、Diogenes Laertius は、其元は、三世紀より餘程前だと
言つて居ります。Diogenes Laertius の言ふ所によれば、埃及の Ptolemy 時代に住んで居た、
Pof Amun と云ふ僧侶が、其折中學派を始めました。此名はエプト語で智慧の神アムン (Amun)
に仕へて居る人の意味です。靈智學は又梵語の Brahmanvidya 即ち「神的知識」と同じ事です。
問 斯の學派の目的は何で有りましたか。

答 其の第一の目的は、大なる道德的眞理を其弟子や、其他眞理を尊ぶ人に教ふる爲です。今の
靈智學會に用ふる「眞理より高き宗教は無」(There is no religion higher than Truth)と云ふ金
言も矢張此意に外なりません。折中靈智學は、三つに分けて有つて、「第一」は一つの絶対、不
可知、無上の神靈、即ち無限の眞體にして一切自然の根本を信ずる事です。「第二」は人の本心
は永久不死なる事を信ずる事、即ち其本心は無限眞體の光より發する一つの光線で有つて其性
質は宇宙靈魂と同質です。「第三」は神術 (Theurgy) 或は神業 (Divine Work) の事です。此の語は
餘程古いけれども、「玄妙教義」の語に屬して居るから、普通に使はなかつたのです。若し人は
自分の心を、神の様に淨めさへすれば、其人は神秘を神から受け又時には、其神を心でも眼
でも見る事が出來ると云ふのが神秘教の一信仰で有ります。

之は今行なはれて居る亡魂論(Spiritualism)や招魂術と云はるゝもの、凡庸なる状態を高く超越したるもので有つたが、段々墮落して、人々に巫術(Necromancy)と誤解されたから、大抵禁じられる様に成つたのです。Jamblicusの神術(Theurgy)の墮落した業は、多少現今の加拔刺信者(Kabalists)の祭禮魔術(Ceremonial Magic)に尙ほ残つて居ます。此の魔術や巫術は兩つながら危険で有るので、今の靈智學は之を排斥して居ます。眞の神的神術(Divine Theurgy)を實行する人に必要な資格は、容易に達せられない清淨神聖な心の有様で有ります。此の最も必要な資格がなければ直ちに巫術や妖術に陥るのです。Theodidaktos(神に教を受くの意)と云ふ異名の有つた Ammonius Saccasの直弟子、例へば Plotinus及び其の弟子 Porphyryは最初「神術」を排斥しましたが終に Jamblicusの感化で、之を承認する様に成りました。Jamblicusは、自分の師 Abannonと云ふ名高い埃及の僧侶の名を用ゐて、De Mysteriisと云ふ本を著しました。Ammonius Saccasの兩親は、基督教信者で有つたが、彼は若い時から、獨斷的基督教に反對して新プラトン派に成りました。而して Jakob Bohemeや外の名高い神秘學者や豫言者の様に天觀や夢想の中に神的神知識を得ました。これが爲に Theodidaktosと云ふ名を受けました。アンモニウス、サツカスは、總ての宗教の元が皆同じで有る事を證明し是等

を皆一致せしめて道德の基礎の上に一つの世界的宗教を創立せんと決心しました。彼の行は非常に清淨で非難がなく、又博學で有つたから、基督教の師父數人は彼から秘密に教を受けました。Clemens Alexandrinusは彼を大層譽めて居ます。Plotinus(Ammeniusの「St. John」)も學問が深く且つ品行が正しかつたから、一般に敬愛されて居ました。三十九歳の時 Plotinusは羅馬帝と其軍隊に同行して Bactriaや、印度の聖人の教へを受けに東洋へ行きました。プロチナスは羅馬市に哲學各校を建て、居つたが、彼の Porphyryと云ふ弟子、即ち希臘に歸化した Malekと云ふ猶太人がプロチナスの書いた書物を悉く集めました。Porphyryも亦た大作者で、Homerの作物の一部を比喩的に解釋しました。Philaletheusの禪法(meditation)は無限觀喜の三昧にして印度の瑜伽(Yoga)に似て居りました。

前に云つた折中學派は Origenや Longinusや Plotinusと云ふアンモニウス、サツカスの直弟子に依つて、創立せられたのです。(註5)

【註5】尙詳しき事はウイエル博士の著書(註2)を見よ。

其折中學派の重なる目的は、現今の靈智學會の三つの趣意の一つで、即ち總ての宗教や宗派や國民を調和して、永久の眞理の土臺の上に、一般共通の教を開くと云ふに有るのです。

問 これは唯不可能の夢計りで無く總ての宗教の基礎は同じ眞理で有ると云ふ事を何に依つて證明しますか。

答 其宗教の比較的研究及び分解に由るのです。昔は此「靈智教」は一般に信じられたもので、太古の宗教的哲學の同一なる事は玄妙の教義 Mysteries が行はれた時代に、秘密正受の人 (Initiates) が學んだ教は皆同質で有つたと云ふ事實に依つて證明せられて居ります。ウイルダ博士は「凡て古い宗教の前には只だ一つの靈智學有りしのみと云ふ事は明らかである。一つの宗教の戸を開ける鍵は總てを開ける筈で有る、もし開けなければ其鍵は本當の鍵では無い」と云つて居ります。

靈智學會の方針

問 アンモニアスの時代に大宗教が數種有つて、埃及やパレスタインのみにても其宗派が、澤山に分れて居りました。何うして之等のものが、調和する事が出来たと思ひますか。

答 吾々が今日して居る様にして調和したのです。新プラトン派は大きな派で有つて、今の靈智學者と同様に色々の宗教哲學の派に屬して居りました。

フィラデルフアス (Philadelphus) と云ふ人の下に、猶太教は、アングザンドリヤ市に創立せられ、それから希臘の學匠等は、バビロンの猶太講法學校の危険なる競争者に成つたのです。「新プラトン學」と云ふ本の著者は下の如く言ふて居ります。

「當時佛教や吠檀多教及邁實教は、希臘の哲學と共に教へられて居つたから、思慮ある人達が此様な理窟の争を中止して、色々の教へから一つの一致した教を組立てる事が出来さうなものと想つたのは、怪むに足らない。…… Pantenus, Athenagoras 及 Clement は、プレトリーの哲學に精通して居て之と東洋諸哲學とは歸する處同一である」と云ふ事を感じたのである。」

其當時に居つた、Aristobulus と云ふ猶太人は、アリストートルの道徳學は、モーゼス法典の意義を表はしたものであると述べ、Philo Judaeus は舊約聖書の初五卷とピサゴラス及プレトリーの學説を調和しやうとしました。それから Josephus は Carmel の Essenes は唯だ埃及の「癩病隠士」と云はれた人々の模倣者に過ぎない事を證明しました。今日でもやはり左様で、吾々はあらゆる基督教の如何なる最小宗派に至る迄も其系統を示す事が出来ます。是等小宗派は元大きな枝の小枝で、皆同じ樹幹、即ち「智慧教」(The Wisdom Religion) から出たもので有ります。是を證明するのがアンモニアスの目的で有りました。而して非猶太人、基督教信者、猶太人

及偶像禮拜者等の奉ずる教の外面は違つても、其内容は同じ真理で、彼等も同じ母の子で有るから、相互の間の争論や、喧嘩を止めさせやうとしたのです。靈智學の目的も、亦やはり其通りです。アンモニアスに就て Moshem が左の通り述べて居ます。

「希臘の哲學も希臘以外の哲學も皆其要點が同じである事を考へて、アンモニアスは是等諸種の學派の教説が同じ根元から出で、同じ目的に向つて進むものであると云ふ事を説明する爲めに全力を盡した」。

エヂインバロ百科全書にアンモニアスの事を書いた筆者は、果して自分で書いた事を理解して居るや否や、兎に角現今の靈智學者と其信仰と其事業とは皆之に現はれて居ます。彼はセオチダクトス（一名アンモニアスカス）に就ては次ぎの様に言つて居ます。

「彼（アンモニアス）は、埃及に行はれた宇宙及神靈の教（其奥義は印度から出て居る）は一つの「總全」である、即ち大世界は不滅であるとの説を採用し、一つの道徳の教を創立した。其道徳の教は、普通人に其國々の法律を守り、自然の示めす處に従ふ事を許したが、賢者には禪定を以て、自分の心を高むべしと要求した」。

問 アレグザンドリア市の古代の靈智學者が此の様で有つたと云ふ證據は何處にありますか。

答 無数の著名な著者です。其中の一人 Moshem と云ふ人によれば、アンモニアスは次ぎの様に教へたと言つて居ます。

「普通奉せられた宗教は哲學に伴ひ人の空想、迷信、虚偽の信仰の爲に段々墮落する運命を共にしたので有る。夫れ故に之を其の墮落から救ひ出し哲學的説明に依つて元の清淨な有様に回復しなければならぬ。基督の大目的は、昔の智慧を其の元の完全なる状態に回復し、其廣く流行した迷信を制して、其通俗の宗教に有る誤謬を解いたり、打消したりするのが趣意で有つた」。

現今の靈智學者も、やはり此と同じ意見を有つて居ます、然しアンモニアスの説は、基督教の Clement & Athenagoras とユダヤ師父及猶太教の大學者、又 Academy や Grove の哲學者から賛成と補助とを受けました。然るに吾々は彼と同じ様に衆人の爲に教を説いて居り乍ら少しも承認を受けないのみならず却つて凌辱や迫害を受けて居るのです。此れに依て見れば一千五百年前の人々が文明を誇つて居る今世紀の人よりも、餘程容忍した事が明らかです。

問 アンモニアスは自分は異教徒にも拘はらず、基督教を教へ基督教信者に成つた爲に教會から獎勵されたり助力されたりしたのですか。

答 決して左様でないのです。彼は基督教信者に生れはしたが、決して教會に説く基督教を信じなかつたのです。ウイルダ博士は彼を次の如く評して居ます。

「アンモニウスはプレトリーやピサゴラスが彼より前に知つて居つた昔の Pillars of Hermes に依つて自分の教義を説き又之に依て其哲學を組織したばかりである。而して彼はジョンの福音書の序文に同じ事が書いてあるのを見て「智慧」の大教を元の完全に回復するのが、耶穌の目的で有ると思つたのは、當然であつた。而して聖書に書いてある物語や神の話が、眞理を證明する比喩であるか、若しくは只取るに足らざる愚説で有ると考へたのである。」

又エチンパロ百科全書には次の様に書て有る。
「アンモニウスは耶穌の君子たる事を承認して居たが、耶穌の目的は神々の崇拜を廢するにあらずして只昔の宗教を清淨にするのが其趣意で有つたと云ふ事を確言した。」

智慧教は何れの世に在ても秘教なり

問 アンモニウスは何も著はして居ないのに、彼は其の様な事を教へて居たと云ふ事が如何して證明されますか。

答 釋迦、ピサゴラス、オーフィアス、ソクラテス、耶穌—是等の人々も著作は何も残さなかつたが、彼等はたゞ歴史の上の人で其の教が残つて居るのです。アンモニウスの弟子の中で Origen 及 Erennius が論説を書いて其師の唱へた倫理を説明しました。此論説は、儘に使徒の書位、或は夫れ以上に歴史的の價値があります。而してオリゲン、プロチナス及ロンギナス (Zenobia 女王の顧問) と云ふ他の弟子もフィラレシアン派に就て幾巻も記録を残して居ます。兎に角公にされた丈の教を傳へて居るのです。フィラレシアン派は公然教と秘教との二つに別れて居ます。

問 眞の「智慧教」が秘密的であるならば、如何して其教が今迄傳はつたのですか。

答 「智慧教」は永久不變です。而して人間知識の終極の語で有るから、大切に保存されたのです。其「智慧」はアレクザンドリア市の靈智學者よりも先に先行はれて、現今の靈智學者に達し、更に未來に於ては凡べての宗教や哲學よりも後まで存續するに違ひ無いのです。

問 何處に又何人によりて保存されて居つたのですか。

答 萬國に於ける秘密正受の人や眞理を求むる人や又其弟子の間に保存されて居たのです。其場所は、其問題を尊重して研究する處、即ち印度、中亞細亞、及波斯であります。其眞理の秘密的で有つた證據が有りますか。

一二
答 最良なる證據は昔の宗教の各派、或は寧ろ哲學の各派が、秘密及公然の二教より成り立て居つた事です。其上に、昔の「玄妙の教義」(Mysteries)は大玄妙及小玄妙を含んで居つた事は能く知れて居る事實です。例へば、希臘の名高い Eleusinia の神祭の様なもので、Demochrae の教僧及印度に於ける秘密正受の婆羅門を始め後代の猶太の大學者時代迄は濫用する恐が有つたから眞の信仰を秘密にして置いたのです。猶太の大學者は其世俗の教を Mercaiah 即ち顯教と言つて居たのです。此名稱は内に隠れて居る靈、即ち其一番高い秘密の知識を含んで居る弟子即ち覆ひ物の意味でした。古代の僧侶は其眞の哲學的秘教を一度も公にしないで、單に其殻だけを群衆に與へたのです。北方佛敎にはマハヤナと云ふ大乘及ヒナヤナと云ふ小乗が有つてマハヤナは秘敎的でヒナヤナは顯敎的でした。何となれば、羊に草の代りに植物學の書物を與へても、無益であると同じく、佛敎に秘密の部分があつて、普通の人には之を教へぬと云ふ事は何人も答る事が出来ないのです。ピサゴラスは己の知識を「事物其儘の知識」と名付けて、其高弟、即ち其教を消化して理解し得る人に此の秘密教を授けたのです。而して教を受けた弟子は其秘密を守つて他言しない様に誓はしたのです。秘密の字母や暗號文は埃及の聖字の發達したもので聖文法學者即ち秘密正受の僧の外に誰も此秘密を知らなかつたのです。アン

モニアス、サカスの傳記によれば彼れの弟子は多少豫備的の素養有り、且つ決して他言せぬと誓つた者の外には其最高の教を洩さない様に誓はされたのです。矢張り初期の基督教や、ノスタック教徒も其の通りではありませんでしたか。耶蘇は自分の教でさへも其通りで、二つの意味のある譬話を以て群衆に教へ其道理は弟子にのみ説明したのでありませんか。
耶蘇の言ふには「汝等は神の國の妙理を知る事を允されたれども門外漢には都て譬喩を以てす」(註4)又新プラトン學の著者は次の様に云つて居ます。(註5) Mark IV. 11.
「Juden や Carmel の Essenes も亦同じ區別をして、其信仰者を「新信者」「同胞」及び「成就」に分つて居つた。」

此の様な例はあらゆる國から引く事が出来ます。

問 「秘密の智慧」は只研究しなへすれば學び得られるものですか。百科全書に書いてある靈智學の定義はツエプスターの辭書のに殆んど似て「天帝及崇高なる靈と交通し之が爲め物理的……若くは……化學的作用により人間以上の知識を得るとの想像」と書いてあるがこれは果して出来るものですか。

答 出来ますまい。而して人間以上の智慧は物理や化學的作用で得る事が出来るなど云ふことを

説明し得る辭書の著者はまさか有りますまい。ウエブスターが形而上學的及鍊金術的方法で得らるゝと書いたならば其の定義は殆んど正確でしやうが現在の定義では不合理です。古今の靈智學者は無限のものは有限のもの即ち有限自我に依つて悟る事は出来ない、然し人間の高尚なる靈性自我は神的精神氣を三昧の状態中にて受る事が出来ると確言致します。此状態は催眠術の様に所謂物理や化學の作用では出来るもので無いのです。

問 三昧の状態を如何して説明しますか。

答 プロチナスの定義によれば、三昧は「人間の心を有限意識より超脱せしめて『無限』と一致する事である」。ウイルダー博士は、是は最高の状態であるが、長くは續かない、而して此状態に達する人は極めて少数であると云ふて居ます。此三昧は印度に知られて居る三昧、即ち定若くは正定と同じもので、是を實行する瑜伽の行者は三昧に達する手段として、飲食を嚴節し心を淨め高める事を始終修行して居る。禪定は沈黙の祈禱である、ブレトローは之を次の如く述べて居ります。

「禪定は心を熱心に神靈に向ける事である、但し特別の利益を乞ふ爲に（普通の祈禱の様に）ではなく、單に善其のもの、即ち宇宙的最上の善を得る爲にするのである（吾々は此の宇宙

的最上の善の一部分で、其精氣から出た靈である）。それ故に神々が汝等の目の前の雲を拂ひ、而して其出せる光によりて汝等が只善と思ふ事ではなく、眞に善なるものを認めるに至る迄は其の神々の前に於て沈黙せよ」。

「新プラトン學」と云ふ本の著者なる學者ウイルダー博士は「靈性の寫眞術」として下の如くに述べて居ります。

「人間の靈魂は過去、現在、未來の事實や事件が、皆含まれて居る寫眞鏡であつて心が段々それを知覺する様に成る。範圍のある此の浮世以外では時間と状態には區畫がない、即ち過去及未來は皆現在に含まれて居る（浮世に於ける最後の三昧は死である）。それから靈魂は肉體の制限を脱して其最聖なる部分は超凡の性と結合して、人間以上の知慧及豫知の力を受ける様になる。」

眞の靈智學は神秘學者に取つて Apollonius of Tyana が述べた通りであります、即ち

「余は清き鏡に映した如く、現在も未來も見ざる事が出来る。聖人は浮世の雲霧や腐敗の空氣の去るを待たずして起る事を豫知する事が出来る。…神々は未來を見、凡人は現在を見、聖人は將に起らんとする事を見る。」

彼が所謂聖人の靈智學とは「上帝の王國は汝等の心中にある」と云ふ格言によりて、適切に言ひ表はされて居ります。

問 それでは、或人の云ふ通り靈智學は新發明の教では無いでしやう。

答 無學の人でなければ其の様は事は云ひません。靈智學は總ての教中で、最も廣く、最も概括的で、其名稱こそ違へ、其教と倫理とは世界が始つてから今に續いて在るのです。

問 それでは何ふ言ふ譯で、西洋に永く知れずに居たのですか。何ふして文明、進歩を誇る人種の間靈智學が知られて居なかつたのですか。

答 昔は吾々程開化して居つて、精神的には吾々よりも進歩した國民が色々有つたと信じます。然し西洋の人が靈智學をわざと研究しなかつた譯は種々あります。其一つは、ポールが嘗てかの修養を積みたるアゼンス人に云つた通りであります——長き世紀の間人は餘り感情的の事に耽つて居つて、獨斷的及儀式的宗教の奴隷に成つて居たが爲めに本當の靈性的達觀も、又之に對する趣味をも合せ失つて仕舞つたのです。然し夫を知らなかつた第一の譯は眞の靈智學が何時も秘密にして置かれたからです。

問 秘密にして置かれた證據は分りましたが、何故に秘密にせられたのですか。

答 其譯は第一、凡人には横逆心と利己心とがあつて何時も近親や隣人の害を顧ずして自分の慾を満たしたがるものです。其様な人に神聖の秘密を任かす事は出来ないのです。第二は其様な人は神聖の智識を穢さない様にする事は出来ません、最も高尚な眞理や記號を倒亂し靈性上の事を變化して神人を同形とする有形的野鄙なる相に段々墮落せしめました。即ち神に就ての觀念が小さくして偶像禮拜に成つたのも其原因は此神聖の智識が穢された事に在るのです。

靈智學は佛教にあらず

問 靈智學者は往々秘密佛教徒と言はれますが、貴君方は皆釋迦を信仰されますか。

答 音樂家は皆ワグナーの崇拜者で無いと同じく吾々も皆は佛教徒でありませぬ。吾々の中には佛教徒も有るが、印度教や婆羅門教徒の方が餘程多いのです。而して改宗して佛教徒となつた者よりも基督教徒に生れた歐羅巴人や米國人の方が多いのです。此間達は釋迦の教を基礎とした宗教なる Buddhism と Buddhism との混雜から來たのです。一つのよで綴つた Buddhism

(梵語の Bodhi, bodhi 即ち智慧又睿智の意味)は智慧教の意味です。而して前に言つた通り、靈智學(Theosophy)は智慧教です。

問 迦毗羅衛の太子(釋迦)が創立した「ぶつだ教」と「ぶだ教」即ち貴君が靈智學と同意味であると云ふ智惠教との差別は何處に有るのですか。

答 近世基督教會、其宗派の教義、又は其獨斷的神學と、基督の天國の玄妙義と云ふ秘密の教との差別と丁度同様です。「ぶつだ」(Buddha)と云ふ名は、梵語で「覺悟」又は「智慧」の意味で「大覺」の義です。此教は皆釋迦が選んだ阿羅漢丈に授けた秘密教に屬する様に成つたのです。

問 然し或る東洋學者は釋迦が秘密教を教へたと云ふ事を否認して居ます。

答 それを否認するなら、天然には科學者にも解らぬ秘密がある事も否認し得られるのです。釋迦には秘密教があつたと云ふ事は阿難陀と云ふ弟子との對話によりこれから證明します。釋迦の秘密教は、只昔の婆羅門の秘密學と云ふ秘教であつて、其解釋は今の婆羅門教徒の少數を除いては、悉く失つて仕舞つたのです。而して此「學」は北方佛教の大乗の奧義に屬する様に成つたのです。此事を否認する人は只東洋學の風を裝ふ人のみです。貴君は僧エドキンス(Eddies)の支那佛教——特に顯教や密教に關する章をお讀みなさい、その上で之に就て古代より傳はつて居る證據を御比へなさい。

問 然し靈智學の道德と釋迦が教へた道德とは同じ事ではありませんか。

答 儘に同様です、何となれば此道德は智惠教の精神であつて、嘗て萬國の秘密正受者が一般に知つて居た事です。然し最初に此道德を公開の教説に入れ、又此の顯教の土臺及眞髓としたのは釋迦です。佛教の顯教とすべて他の宗教との最大差別は此處にあるのです、即ち外の宗教には儀式及び獨斷を最も重んじて居るけれども、佛教は何時でも道德の方を最も強く主張して來ました。靈智學の道德と佛教の道德とが殆ど同様なのは此譯です。

問 靈智學と佛教とに大なる差異の點が有りますか。

答 靈智學と佛教の顯教との大なる差異の一つは、後者を代表して居る南方佛教にては(一には)如何なる神靈の存在をも否認し、(二には)人間死後の意識的生存、又進んでは人の死後に如何なる自覺的眞我の存續する事をも否認して居ます。兎に角今最も純正と思はれて居る暹羅の顯教の道は左様です。釋迦の顯教ばかりを申せば亦斯様で有つたのです。釋迦が此點に於て斯く控へて置いた譯は、以後に述べる積りです。然し佛が死んだ後に、彼の秘密正受の阿羅漢等が退隱した國々に起つた北方佛教の各派では、今の靈智學と稱せらるゝものを凡て教へて居ます。其譯は靈智學に説く處は凡て秘密正受の人々が有する智識の部分で有るからです。之を見ても南方佛教が正教を固守するに熱心の餘り死文字の爲に佛の眞意を犠牲にした事が分ります。然し乍

ら、此死文字でさへも、外の宗教や教會の教よりは何れ程貴く、高尚で又、哲學的、科學的
で有るか知れないのです。夫でも靈智學は佛教ではないのです。

第二章 靈智學の顯部と密部

現代靈智學會の他と異なる點

問 夫では靈智學の教は佛教の復活でも無く、新プラトン派靈智學を悉く真似たものでも無いの
ですか。

答 左様です。靈智學の教は只だ前に述べた智慧教の最近發現です。それ故に此の教は昔智慧教の
基礎で有つた真理と同じ永久の真理を含有して居ります。而して基督教の師父等の説によれば、
耶穌も此真理を回復する事を力めたのです。此の真理は新プラトン學や佛教計りで無く、開祖
が最初に教へたまふの純正なる宗教、又は昔の大哲學等も、皆此の真理を基礎としたのです。
靈智學會の目的も矢張り其通り、此永久の真理の智識を人間の心に復活させると云ふ事に在る
のです。何となれば人生の希望は皆な此の真理に頼つて居るからです。人間の精神は同一であ

ると云ふ事實を根據として居る世界同胞主義が、人間界に忘れられて仕舞つたが爲めに、利己
主義や、物質論の横暴なる方の爲に、文明の破滅を來たす恐が有るのです。此點に就て靈智學
會の首長ブラワツキーの後繼者ジャツシ(W. Q. Judge)氏は左の如く述べて居ります。

「運期の法則によれば、人間歴史の暗黒時代には眞の哲學は一時隠れる。然し同じ法則により
人間が又夫を覺る様に成つた時には太陽が昇るのと同じく、其眞は儘に亦表はれる。然れども
或る事業は夫子(The Master)でなければ出來ぬ。又他の事業は僚友の補助を受けねばならぬ。
此の眞の哲學を保存するのは夫子のする事であるが、是を又再び發見して宣傳するには僚友の
補助を求めねばならぬ。今や再び長兄等(仙人のこと後章に説明す)は眞理即ち靈智學の發見
せられる處を教示した、それで世界の處々に居る僚友は廣く此眞理を宣布する爲めに之を取出
す事に力めて居る。

斯の如き驚くべき智識を有する人々が、何時の世にも在つて、今日も存在して居る證據は澤山
ある。昔の玄妙の教(Mysteries)は常に斯の様な人々があると云つて居る。又古代埃及の大王に
して秘密を正受する「太陽の子」と云はれ、又「大神の友」と呼ばれる者は此人々であつた。近世
の人々が古人を輕視するのは反て近世の人が輕視せらるべき譯である。…かのアポロニアス、

オヴ、タイアナは此古代の大智者の一人であつて此暗黒になりさうな時代に現れた人である。彼の此世に表はれたのは、つまり後世の爲に斯の様な大智識が昔あつたと云ふ事を證する爲めである。

さて、次に印度に就て見るに、強慾にして利己心強く戦争や貿易に熱中して居る西洋は知らなくとも、實に印度には此驚く可き人の傳記が澤山ある：亞米利加殊に中部及南亞米利加の歴史や人種學に關する古跡を無暗に焼き棄てた新世界征服者が、若し此印度に英國行政以前に書籍や棕櫚の葉に書いた傳記があつたと云ふ事を知つて居たならば、亞米利加の古跡を破滅した如く、又夫より前の人がアレクザンドリア市の圖書館を破壊せんとせし如く、是等をも破壊したので有つたらう。然し幸に破壊せられなかつたのである。

印度の文學には、人民に能く知られた大智識の名は澤山有る。此の大智識は皆同じ事、即ち人間精神の大史詩を教へたのである……。

もし靈智學、即ち此の大智識の教は以上に述べた通り科學的にして且つ宗教的で有りませば、道德的方面の證明に至ては尙更ら多く有る。道德に基き、之に依つて教導して居る有力なる三位一體は釋迦、孔子、耶穌である。印度の釋迦は基督教よりも今日では信者の餘程多い宗教を

創立し、基督が教へた倫理と同じものを基督よりも數世紀前に教へたのである。又實際此の教は釋迦よりも餘程前に教へられて居た。耶穌は其時代の人を改革する爲めに、亦孔子は古い尊い支那を改革する爲めに、此の昔の倫理を再び教へたのである。

此等大智識は皆同一の教理を有する一つの同胞會を代表する會員で有ると靈智學者は云ふ。而して時々西洋文明が生む所の稀世の人物、即ち St. Germain, Jakob Böhme, Carl Gustav Paracelsus, Mesmer, Count St. Martin 及 H. P. Blavatsky 等は 此大集團の事業を適當な時に於て爲す代表人である。彼等が常に欺騙漢の様に思はれて、輕蔑されて居るのは事實であるが、彼等が常に人間に利益を興へ、亦科學の爲に大に價値ある理論や發見を残し乍ら如何なる理由で斯の様に思はれて居るかと云ふ事は誰も知る事は出來ない。然し耶穌でさへも今日若し紐育の芝居的會堂に現はれて自稱耶穌教信者を非難したとすれば、欺騙漢と言はれるに違ひ無い……。プラツキーは此「集團」(Lodge)が以前から知つて居つた、人間及びその本性運命に關する大事な教を齎らし再び之に向て西洋の注意を促がしたのである。然し自國の哲學としては無し、乞食や罪人の數が他國に類の無い程多い西洋の人々からは、かゝる大智者は皆同じく欺騙漢と言はれた。繰り返して言ふが、此眞の教は一時隠れても人間の心の奥に刻んであり、又「集團」の

力に依つて永久に保護せられて居るから、必ず亦現れて来る。」

問 それでは佛敎道德の外に何敎を信せんとしますか。

答 何れでも悉くは信じませんが、幾らかは信じます。即ち某特別の宗教や哲學を信じませんが各宜い處を認めて撰び採ります。然し此處に亦繰り反さなければならぬ事は、靈智學は皆昔の他の敎と同じく、顯敎と秘敎とに分けて有ると云ふ事です。

問 何んな差別がありますか。

答 靈智學會の普通會員は、會の三つの目的の中、何れかに賛成して之を實行する積りで有つたら、如何なる宗教や哲學を信するも又信せぬも、隨意です。此會は同胞の觀念を理論よりは實行に宣傳せんとする博愛的、科學的の會です。其故に會員は如何なる宗教や宗派に屬しても差支ないが會の第一の目的及規則（註5）に賛成しなければなりません。此精神がなければ、入會する必要がありません。

〔註5〕 現在の會の名稱は世界同胞靈智學會と云ふ。此會主要の目的は同胞主義を教へ、此主義は天然の事實で有ると云ふ證據を立て、此主義を人生の活動力たらしむる様にする事である。第二の目的は古今の宗教、哲學、科學及美術を研究し、且つ自然の法則及び人間が固有する神靈的力を研究する事である。

地方會員（註6）及中央會員より成り立つて居る顯部會員の大半は上に申す如くです。此等の會員は眞の意味の靈智學者に成るか、成らぬか知れぬが、兎に角彼等は入會したからには、會員であります。然し一切の事物が神靈に契合すると云ふ觀念のなき人、或は自分の宗派的及自己的に靈智學を解釋する人を、入會させた丈では、靈智學者に造くり上げることは出来ません。つまり「美德の人は美德を實行する人である」と云ふ諺を云ひ替ふれば靈智學者は靈智學を實行する人で有ります。

〔註6〕 地方會員の意味は世界同胞靈智學會の支部の會員に成つた人で、中央會員は支部の會員に成らないけれども手紙などで加州ポイントロー（Point Loma, California）に在る本會と關係を有する人である。

靈智學者及靈智學會員

問 今云はれた事は普通會員に就ての事でしょうか、秘密靈智學を學ぶ人の事は如何ですか。

彼等は眞の靈智學者（Theosophists）ですか。

答 靈智學者たる事を行に表はす迄は必ずしも左様とは云はれません。彼等は密部に入つて、出来る丈固く其の規則の實行を誓ひますが、其第一の規則は自分の身を犠牲にし、即ち自分の

事を計るよりも全く利他主義の人に成つて、密部の會友計りでなく、人間一般の利益を計り、自分の虚榮心や高慢心などを捨てなければならぬから、是は餘程むづかしい事です。而して若し秘密の教訓によりて益を得んとせば何事にも節約を専らとし自分の慾を壓へて固く道徳を守り、社會に對して、自分の本分を盡さなければなりません。會員中小数の真正靈智學者は斯の様に有ります。併し斯く云へばとて、靈智學會や其秘密部員の外に靈智學者が無いと云ふ意味ではありません。靈智學者は知れて居るよりも以上に多く有ります。普通會員中にあるよりも慥に餘程多く有ります。

問 それでは所謂靈智學會に這入れば、何う言ふ益が有りますか、而して其之に誘導する力は何處に有りますか。

答 何も有りませんが、只だ秘密の教を受ける益と會の眞の目的を實行する様に成つたら、會員は相互の補助と同情を多く受ける益が有ると云ふのみです。一致は力と調和とを生じます。而して克く整頓したる同時の働は驚く可き結果を生じます。是は古今總ての會や組合の秘訣です。併し氣力富み忍耐強くして心の正しい、意志の強い人もし獨力で働くならば、何故に秘密學者や大智識(Adepts)に成る事が出来ないのですか。

答 出来ない事は有りませんが、併し成功するのは萬一の事です。其の成功しない譯が色々有ります。其の二つは秘密學(Occultism)或は神術(Theurgy)の書にして鍊金術や中世靈智學の秘密を明らかに書いてある物は今日残つて居りません。何れも表號的や比喩的に書いてあつて之を解く鍵は幾代の間、西洋には紛失なつたのであるから其書物を読み又研究する人が其眞の意味を如何して解し得ませうか。此を研究するに伴ふ大危険は其處に有るので、即ち或妖魔法術、或は無力なる巫術に陥る危険です。秘密正受の人を師としない人は此危い研究を爲ない方が宜いのです。世界の有様を見て考へて御覽なさい、文明社會の三分の二は靈智學、秘密學、降魂術或は隱秘釋義法、何物にもせよ、實とすべき點が有ると云ふ考をさへ侮つて之を冷笑し、餘の三分の一は互に相反對して居る種々雑多の信者です。或人は神秘、或は自然以上の事でも信じます、併し何れも自分勝手信仰です。又或人は隱秘釋義法、靈氣論(Psychism)、催眠術、降魂術及び、其外色々神秘的研究を無闇にするが、其結果として意見を同じくし又秘教の根本的主義に於て、同思想を有つて居る人は二人とは無いのです、併し自ら學問の最極を有する者と稱し、他人の目に完全なる「大智識」(Adepts)として映せんと欲する人は少くないのです。西洋にては秘密學の科學的正確なる智識—秘密學の支流にして、其顯教には既に定つて法則系統が有る眞の占星

學の智識すら一を得ることは出来ぬのみならず、眞の秘密學の意味でさへも知つて居る人は無いのです。或人は古の智惠の教は秘釋法や猶太の Noia (書名) のみにあると云ひ、而して之を猶太教學者の説明法に用ゐる死文字の意味に依つて各勝手に解釋して居ります。又 Swedenborg や Boehme は最高の智者で有ると思ふ人も有れば、古代法術の大秘密は催眠術に在りと思ふ人も有ります。其理論を實行する人々は皆な此事を知らないが爲に直ちに惡魔法に陥るのです。其眞不眞を區別すべき試験法や標準が無いから惡魔法を免れる人々は寧ろ幸です。

問 靈智會の密部會員は眞の正受者や秘密智慧の夫子から教を受けると云ふ事は事實ですか。

答 直接には受けません。斯の如き夫子に直接接する必要は無いのです。夫子の教に依つて多年研究し、自分の命を捧げて夫子に仕へて來た人から、教を受ければよいのです。夫れから是等の人々は夫子から受けた教を直接に學ぶ機會の無い人に教へる事が出来るのです。眞の智識は幾ら少しでも、不消化半解に終る學問よりも遙かに勝るのです。一オンスの純金は一噸の塵芥よりも貴いのです。

問 併し純金か賸物か何うして分りますか。

答 木は其實で分り、教は其結果で分るのです。古來秘密學の研究者の中で、只一人でも指導者な

くして亡魂媒介や間違つた靈氣論者や山師などに成らずに、アンモニアス、サカスの様な神聖なる大智識、或はプロチナスやジャンブリカスの様な神術者、或はセント、ジャメーンが爲したと云はれて居る如き業を行なつた者があると云ふ事を我々の反對者が證明する事が出来るなら、我々は自ら間違つて居ると自認するのです。併し是を證明する迄靈智學者は神聖なる斯學の傳られ來た確な法則に従ふ事を好のです。神秘學者の中には、化學や物理學に於て鍊金法や秘密學に近い發見をした者もあります。又只だ天才により不可解なる言葉に屬する文字を多少再び發見しそれが爲め希伯來語の卷物を正確に讀む事が出来る様にもなつたのです。又自然界の隠れたる秘密の幾分を不思議にも悟り得た達觀者も有ります。併し是等の人は皆な専門家です。彼等の一人は學理上の發見者で、一人は猶太人、即ち宗派的秘釋法信者で、今一人は近代の Swedenborg であつて、自分の科學や宗教以外の事を皆な否認して居ります。彼等の中には世界或は一國、否自分の利益に成る事をしたと誇ることの出来るものは一人もありません。英國醫科大學では數醫者と言ふに相違無い治療者の小數を除けば、自分の科學を用ひて一般の人間或は自分の社會の人でも助けた者はありません。昔の符咒に依つては無く、草根木皮で不思議な治療をしたカルデア人の様な人は、現今何處に居りますか。如何なる氣候、如何なる事情の

下(もと)にても、病者(びやうしゃ)を癒(なほ)し、死者(しや)を立(た)たしたヂヤナのアポロニアスの如(ごと)き人は今(いま)何處(どこ)に居(ゐ)ますか。前者(ぜんしや)に屬(ぞく)する専門家(せんもんか)は歐羅巴(ヨーロッパ)にも居(ゐ)るが、後者(こうしや)に屬(ぞく)する者は死中(しちゆう)に在(あ)つて生(う)まへる瑜祇(ヨギ)の秘密(ひみつ)が今(いま)尚(なほ)保(ほ)存(ぞん)せられて居(ゐ)る亞細亞(アジヤ)以外(いがい)には居(ゐ)ないのです。

問 左様(さやう)云(い)ふ治療上(ちりやうじやう)の大智識(だいぢしき) (Adepts) を造(つく)るのが、靈智學(れいちがく)の目的(もくてき)ですか。

答 靈智學(れいちがく)の目的(もくてき)は、色々(いろくろ)有(あ)るが、其(その)主要(しゆよう)なるものは人間(にんげん)の精神(せいしん)的(てき)及(およ)び物質(ぶつしつ)的(てき)のあらゆる苦(くる)みを除(のぞ)くことです。而(しか)して前者(ぜんしや)は後者(こうしや)より遙(はる)かに大事(だいじ)であると思(おも)ひます。靈智學(れいちがく)では道徳(だうとく)を教(おし)へ込まなければならぬのです。又(また)身體(みんたい)の苦痛(くつう)を除(のぞ)く爲(ため)に心(こころ)を清淨(せいじやう)にしなければなりません。如何(いかん)となれば、過失(くわしつ)の場合(ばあひ)を除(のぞ)けば身體(みんたい)の病氣(びやうき)は皆遺傳(みなでんでん)的(てき)です。自分(じぶん)勝手(かたて)の目的(もくてき)、即(すなは)ち野心(やんしん)や自慢心(じまんしん)を満(み)たすが爲(ため)に、秘密學(ひみつがく)を研究(けんきゆう)する人は、眞(まこと)の目的(もくてき)地(ぢ)に達(たつ)する事は出来(でき)ません。即(すなは)ち苦痛(くつう)で苦しんで居(ゐ)る人間(にんげん)を助(たす)ける様に成(な)る事は逆(さか)も出来(でき)ないのです。又(また)秘密學(ひみつがく)には秘密哲學(ひみつてつがく)の一部(いぶ)分(ぶん)計(けい)りを研究(けんきゆう)したのでは成(な)れません。たとへ精進(せいじん)する迄(まで)なくとも、兎(と)に角(かく)全部(ぜんぶ)を研究(けんきゆう)しなければならぬのです。

問 然(しか)らば此(この)大(だい)切(せつ)な目的(もくてき)を達(たつ)せんとして秘密科學(ひみつがく)を研究(けんきゆう)する人々(ひとびと)のみが助力(じょりき)を與(あた)へられるのですか。

答 決(きつ)して左様(さやう)でありません。希望(きぼう)さへ有(あ)れば、只(ただ)の會員(くわいん)でも皆大體(みなたい)の教(おし)えを受ける事(こと)が出來(でき)ます。併(しか)し「活動會員(くわつどうくわいん)」に成(な)りたいと云(い)ふ人は少(すく)ないのです。大概(たいたい)は靈智學會(れいちがくかい)の居(ゐ)る候(さう)に成(な)りたがるのです。個人(こじん)的研究(けんきゆう)は顯教(けんきやう)と秘教(ひきやう)、即(すなは)ち妖術(まじまじ)と法術(はふじゆつ)とを隔(へだ)つる境界(きやうがい)を越(こ)さへしなければ、其(その)研究(けんきゆう)は靈智學會(れいちがくかい)で奨励(しょうれい)して居(ゐ)ります。

靈智學と秘密學との差異

問 貴方(あなた)は靈智學(れいちがく)又(また)秘密學(ひみつがく)と云(い)ふ事(こと)を仰(あや)ますが、兩方(りやうほう)同じ物(もの)ですか。

答 決(きつ)して同じ(おな)じではありません。會員(くわいん)で有(あ)る無し(なし)に拘(か)はらず、善良(ぜんりやう)なる靈智學者(れいちがくしゃ)たる事(こと)が出來(でき)ます。さればとて必(かならず)しも秘密學者(ひみつがくしゃ)で有(あ)るとは限(かぎ)らないのです。然(しか)し眞(まこと)の靈智學者(れいちがくしゃ)で無(な)ければ、眞(まこと)の秘密學者(ひみつがくしゃ)たる事(こと)は出來(でき)ません。左様(さやう)でなければ其(その)秘密學者(ひみつがくしゃ)は意識(いしぎ)的(てき)、無意識(むいしぎ)的(てき)に拘(か)はらず只(ただ)惡魔術者(あくまじゆつしゃ)です。

問 それは何(なに)う云(い)ふ意味(いみ)ですか。

答 前(まへ)にも述(の)べた通り(とほ)、眞(まこと)の靈智學者(れいちがくしゃ)は最高(さいこう)の道徳的(だうとくてき)理想(りやうきやう)を實(じつ)行(かう)しなければならぬのです。而(しか)して己(おのれ)と全人類(ぜんじんるい)との融會(ゆうかい)を實(じつ)現(げん)し、他人(たにん)の爲(ため)に絶(た)へず働(はたら)かなければならぬのです。それで秘(ひ)

密學者が若し之をしないとするれば、其働は自分の利益を得んとする利己的のものに違ひないので。而して斯う云ふ人が外の人よりも多く力を得たとすれば、世界や其周圍に對して普通の人よりも危険な敵に成るので。是は明なる事です。

問 それでは秘密學者とは只だ外の人よりも多く力を得た人ですか。

答 否、決して左様ではありません、單に名のみの秘密學者でなく、智識の深い眞の實際的秘術學者で有るならば其力は他人のよりも遙に優れて居るので。秘術科學は決して百科全書に書いてある如く秘密的性質或は自然以上の力、即ち鍊金術、魔術、巫術及び占星學の假定的作用や勢力に關する中世時代の想像的科學では無いのです。これ等こそ眞に實地の甚だ危険な科學です。此科學は自然に於ける事物の隠れたる力を教へ、人間に潜伏せる秘密の力を發育養成するので、それ故に之を知らない人よりも非常な利益を與へるので。現今科學界に眞面目な研究問題と成つて居る催眠術は其適例です。催眠術は殆んど偶然の事で發見されましたが、メスメル催眠法が斯道の下地となつたのです。そうして今は熟練なる催眠術者は人に無意識に馬鹿な事をさせたり罪を犯させたり、殆んど總ての事をさせる事が出來て、往々施術者の代人たらしめ又利益たらしむることを得るので。是が若し無法の人の手に授けられたならば、恐

るべき力ではありませんか。而して此催眠術は秘密學の只だ一小部分に過ぎないと云ふ事を覺へて居て貰ひたいのです。

問 然し最も教育もあり學問もある人々は此秘密學、魔法、妖術を只だ昔の無學や迷信の遺物で有ると思つて居るではありませんか。

答 其お話は兩様にあてはまると云ふ事を注意して貰ひたいのです。諸君の中最も教育あり學問ある人々が基督教其他あらゆる宗教は、矢張無學や迷信の遺物である様に思つて居ります。併し兎に角今一般の人々は追々催眠術を信じる様になつて來ました。而して或人は（最も教育ある人でも）靈智學及び心靈現出を信する様になりました。併し其人々の中で耶穌教僧侶や狂信者の外に聖書の奇蹟を誰が信じると云ひませうか。差別の要點は此處に有るので、即ち自然以上の事及び神的奇蹟迄も信じる眞の靈智學者が有つても、秘密學者は決して之を信じないのです。なせなれば秘密學者は自然界の秘密作用の正確な智識に基づいて科學的靈智學を實行するが、靈智學者は秘密學の智識無くして異常の力を用ひるならば、危険なる巫術に傾くのです。なせなれば靈智學及其最高道德を信じて居ても、彼は誠意ではあるが盲信のみを以て無闇に之を用ひるからであります。靈智學者でも亡魂論者でも如何なる人でも、是等の力の哲學

的理論の智識がなくて秘密科學の枝葉、例へば催眠術又は物質的心靈現象を現はす秘法などを修養せんとする人は荒海に漂ふ舵なき舟の様であります。

靈智學と亡魂論の差別

問 併し貴君は亡魂論を信じませんか。

答 亡魂論とは亡魂論者が或る異常の現象を解釋する如き意味のものならば、吾々は斷然信じません。彼等の云ふには此の現象は皆な亡者(大概は彼等の親族)の亡魂が行ふので、此亡魂は生前に愛した人或は縁の有る人と交通するが爲に、此世へ歸ると云ふのです。併し吾々は斷然之を否認します。死人の魂は非常に稀なる場合(これは後に述べます)の外は此世へ歸る事が出来ないと斷言します。又靈魂は主觀的方法の外、人と交通する事は出来ないので、目の前に現はれて見ゆる者は、單に生前の肉體的人間の浮象のみで有ります。併し吾々は心靈的、言はゞ靈性的靈魂論を固く信じます。

問 貴君は其の現象も否認しますか。

答 詐偽的でなければ否認しません。

問 それでは何うしてその現象を理解しますか。

答 種々の方法があります。所謂現象の原因は亡魂論者が思ふ程單純では有りません。第一、所謂物質的幽靈招なるものは大抵媒介者、或は他の居合はせる人の靈氣體、即ち複體です。此靈氣體は人手なしで石盤に物を書く事、(slate-writing)或は Davenport (有名の巫の名)的現象の發動力で有ります。

問 貴君は「大抵」と云ひますが、其の他の原因は何ですか。

答 それは現象の性質に依ります。或時は其發動力は靈氣體、即ち死消せし人我、欲界に於ける殼であり、又或時は靈鬼 (Elementals)です。「魂」と云ふ語は意味が廣くて、様々に用ひられます。亡魂論者が云ふ此の語の意味は知らないけれども、彼等の主張は、吾々の理解する所では、所謂物質的靈性現象は轉生する自我、即ち靈性にして不死の眞我であると云つて居るのです。吾々は此臆説を全然否認するのです。如何となれば肉體から離れた人間の意識的自己は物質的に發現する事は出来ません。又自分の心の神位區域から此世の客觀的狀態に歸る事は出来ないので。

問 併し所謂亡魂から受ける通信は道理に稱ふた智慧の作用が有ることを示すのみでなく、媒介

者が知らぬ事や、研究者又は傍聴者の考へ及ばない事柄を知つて居る事がありません。
答 左様で有るからとて其智慧及び智識が必しも亡魂に在るとか、或は肉體より離れた精神から來ると云ふ事は證明されないのです。

睡遊中の人（催眠術に掛つた人）は嘗て音楽や詩、或は數學を學んだことがなくても、夢中で樂譜や詩を作り、又數學の問題を解いた験があります。又或る人は熟睡中に、目の覺めて居る時は少しも知らぬ希伯來語や羅旬語などの様な言語で立派に質問に答へ、又は其語で話さへした事があります。貴君は是もやはり亡魂が行つたものと主張しますか。

問 併しそれよりは、貴君方の解釋を伺ひたいものです。

答 人間に有る神的光輝の精は宇宙靈と同一であるから、吾々の靈性自我は實際全知性で有ると斷言します。併し物質に妨害されて其智識を現はす事が出来ないのです。今此妨害が減少するに従つて——即ち肉體が熟睡、入定或は病氣に於ける如く其自由の働き又は知覺が麻痺して居れば居る程——此世界に内我が現はれ得るのです。是は即ち否定すべからざる智識が現はれる高上なる驚くべき現象の説明法です。之より劣等なる現象、即ち物質的現象或は無意味で、有り觸れた亡魂の話に就ては其の問題中、最も肝要な教を説明するのでも此處では餘計な紙面と時

間が掛るのです。吾々は亡魂論者の信仰に對しては他の信仰と同じく、干渉する事を欲しないのです。之を證明する義務は「亡魂」を信する人に有るのです。今では亡魂論者の重なる人々は高尚な現象は矢張り體から離れた靈魂から來ると確信して居ますが、其中の最も學識を有する人々は其現象が悉く亡魂から來るもので無いと云ふ事を先づ自認して居ます。彼等は段々と眞理を全く認める様に成りませうが、今日の所では、吾々の意見に是等の人々を改信せしむ權利も望みも有りません。如何となれば、眞の心靈的及靈性的現象の場合に於ては、吾々とても生きて居る人間の靈魂と身體から離れた人我との交通を信じるからです（註ア）

〔註ア〕 其様な場合には、吾々は死んだ人の靈魂が此世へ降るのではなく、生きて居る人の靈魂が清淨なる靈性精神へ昇るのであると言ひますが、實は降りも昇りもせず、只だ媒介者の状態が變るのです。即ち身體が麻痺或は恍惚の状態に成つて、靈性自己は其羈絆から脱出し、身體から離れた靈魂と同じ知覺の状態に成るのです。然らば若し兩者の間に靈性的引力があるものならば、往々夢でする如く双方が交通する事が出来るのです。媒介的心狀と無感覺心狀との差違は次ぎの點に在る。即ち脱出した媒介者の靈魂は入定状態の身體の受動的機關を動かす機會と便宜とを有し夫を自由に動かしたり、談をさせたり、字を書かせたりする、即ち自己は身體から離れた實體の思想を丁度自分の思想と同じく恰も反響の如くに繰り返へさせる事が出来る。併し餘程積極的な人の容受力の少ない、不感覺的な組織に於ては此の様な影響を受ける事が出来ない。それ故に身體が熟睡中には死に別れた人と交通する事は殆んどあらゆる人間の爲す事では有る。併し身體の積極的で

あつて容受力の少いが爲に、目が醒めた後に其の記憶が悉く消へてしまふか、左もなければ只だ夢の様な記憶がほのかに残るのみである。

問 夫では諸君が靈魂論の哲學を悉く否定する譯になりませう。

答 「哲學」とおつしやるが、それは亡魂論の幼稚なる理論を意味するならば吾々は之を否定します。實際これには、哲學がないのです。亡魂論を辯護する人は最も智力の優れた熱心な者でも左様言つて居ます。亡魂論の唯一の否認し得可からざる根本的真理、即ち眼に見えぬ力と智慧に支配せられたる媒介者を通じて現象が起る事はハックスレー派の物質論者の外には否定する人が無いのです。亡魂論者の哲學に就て「光」(Light)と云ふ雑誌の博學熱心なる主筆が云つて居る事を紹介させよう。彼は少數哲學的亡魂論者の一人であるが M. A. O'KON と名乗つて居ます。此の人が亡魂論者には組織が無い事、及び其の盲信的拘泥に就て、次の様に述べて居ります。

「此問題は非常に肝要で、研究する價值がある。吾々の有する經驗と智識は總て他の智識に比ぶれば比較的勝つて居る。若し誰か亡魂論者の未來や來生に就いて唱へる説を否定しようとするれば、通例の亡魂論者は怒ります。他の人々が弱き手を伸べて暗黒な未來を手探

ぐりして居るに彼は海圖を有て行先を知つて居る人の様に慥する色無く歩み行きます。他人は只だ信心の希望に止まり、或は親から受けて居る信仰に満足して居る。亡魂論者は此の事を知つて居るのを誇り、又單に希望に基いた宗教を己の智識で補ふ事が出来ると誇つて居る。又彼は他人の最も大事に懷いて居る希望を評する事が大々得意であつて、斯様な事を言ひさうです。「私は諸君の希望を證明する事が出来る、諸君は傳説を信じて居るが、私などは最も科學的法則に依つてそれを證明する事が出来る。古い宗教は段々衰へて來るから、其様な宗教は放棄しなさい。其れには眞も有れども虚も有る、基礎が堅固でなければ信仰は儘で無い。古い宗教は皆な廢たれて居るから、夫を放棄なさる方が宜い」と先づ斯様に誇つて居る人を實際に相手にすると如何なるでせう。餘程奇妙で失望するに相違ない、自分の論據が儘で有ると確信し過ぎるから、其事實に就て他人の解釋を少しも顧みない。彼が證明されて居ると思ふ事に就ては昔から積まれたる智識が澤山あるのに、彼は其の研究に傍目も振らない。又仲間の信者とさへも意見が一致しない。爰に一つの嘶がある。蘇國の或老婦人が良人と一所に教會を創立して、自分等夫婦の手にのみ極樂へ行かば許可を受けて居ると思つて居た。いや寧ろ自分のみが獨り其許可を有つて居つて、良人は少し疑はしいと思つたといふ事

です。彼の無数にわかれて居る亡魂論の宗派は先づ此流儀に相互に疑つて居る。

人間のあらゆる経験は、次ぎの點に就て、儘で不變です、即ち合同すれば強く成り、散ずれば弱く成つて、失敗の基に成る。只の群集でも訓練や訓練さへすれば立派な軍隊と成つて、其一人は訓練の無き敵軍の百人にも優る。人生の如何なる事業に於ても組織は成功を意味し、時間と努力との経済となり、又利益の増進、發達の迅速となる。之に反して無法則、無方針、動搖、不定の行動、何等の規律訓練なき努力等は見苦しい失敗に成るのです。人間の大聲は之を證明して居ます。亡魂論者は果して此斷案を自認して其通りに行ふでせうか。斷じて行ひません。彼等は組織をせずに獨立して居つて同輩を煩はすのです。』(註8)

〔註8〕「光」(Light)の一八八九年六月廿二日號

問 靈智學會は元來亡魂論及人間の自我が死後殘存すると云ふ信仰を破毀するが爲に、創立されたものであると私は聞きました、それに相違ありませんか。

答 それは間違つて居ます。吾々の信仰は凡べて不死の眞我(或は轉生我)に基いて居るのです。併し貴君は世人と同じく人我(Personality)と眞我(Individuality)とを混同して居ます。西洋の心理學者は此兩者の區別を分明にして居ないと見へます。併し此區別こそ東洋の哲學を了

解するに必要の點で有り、靈智學及亡魂論の根本的差異も此處に在るのです。而して吾々は或亡魂論者から一層敵意を買ふかも知れないが、此處に述べなければならぬ事があります、即ち眞に純粹なる靈魂論(即ち靈性論)は靈智學で有ると云ふ事です。現今世間で、行はれて居る靈性論(即ち亡魂論)と名付けて居るものは、只だ超絶的物質論に外ならぬのです。

問 その説明をも少し明瞭に願ひます。

答 私は次の事を意味するのです。即ち吾々の教は靈魂と物質は同一であるといふ事を主張します。そして氷は固まつた蒸氣であるが如く靈魂は只だ可能的物質で有ると、吾々は言ふのです。併し宇宙全體の根本的常久の状態は靈魂でなく、寧ろ「超靈魂」(meta-spirit)とでも言ふ可いものです(目に見える固形の物質は、只だ其の定期的發現に過ぎないのです)。それ故に靈魂と云ふ名稱は、單に眞我にのみ適用するもので有ると吾々は主張致します。

問 併し此「眞我」と吾々が皆な知覺して居る「我」或は「自我」とは何う違ひますか。

答 「我」或は「自我」と云ふ意味が極まらなければ、答へる事が出来ません。吾々は單純なる自覺と云ふ事——即ち「我は我なり」と云ふ感覺——と「余は田中なり」とか或は「余は伊藤なり」とか云ふ複雑な思想とを區別します。吾々は、同じ自己が度々生れ變る事を、信じて居る

四二
から、此區別は吾等の自我と云ふ者の根本となる點で有ります。例へば田中といふ者は、只日々の經驗の長い連続が、記憶の糸で聯絡されたるものです。而してそれが田中が「自分」と稱する所に成るのであります。併し此經驗は眞の自我では無く、又田中なる者に自分が自身で有るといふ感覺を與へもしないのです。なせなれば、田中は日々の經驗の大部分を忘れて居つて、其經驗が續く間だけ、「己は己なり」と云ふ感覺を生ずるからであります。それ故に吾々は此經驗の連續を「虚偽の自我」と云ひます（有限で消散するから）。而して此經驗と人間の「我は我なり」の感覺を生ずる部分とを區別するのであります。眞の「我」は此「我は我なり」であります。而して此「我」或は眞我は役者の様に人世の舞臺で、色々の役を務めるのです（註の）例へば、同じ「我」の生れ變りば、芝居の一夜で有つて、或夜は其役者（即ち眞我）はマクベスに成つて出、其次の夜にはシャイロックと成て出、又其次の夜にはローミヨと成つて出、又其次にはハムレットとかリヤ王とかに成つて出るのであります。總ての生れ變りをして仕舞ふ迄は斯うして續けるのです。眞我は Ariel か Puck の 様な化物に成て人生の旅路を始め、それから下役を務め、それから僕に成り、淨瑠璃語りに成り、兵士に成り、夫から上役に出世して、重な役（時々端役に成つて）を務めて、終に Prospero と云ふ法術者と成つて舞臺を退くのです。

〔註リ〕 第八章の「眞我と自我」を見よ。

問 分りました、それでは此の眞我は死後、此世へ歸へる事が出来ないといふのですか。併し所謂役者は自我に就て知覺を保存して居るならば、生前の舞臺へ自由に歸へれる筈ではありませんか。

答 吾々はそれを否定します、なせならば此世へ歸へる事は死後の完全なる、天福と兩立しないからであります。是は證明する事が出来ます。人間は生きて居る間に、或は他人の爲に、或は自分の境遇の爲に、罪なき不幸を被ります。それ故に、又生れ變る前に、天福とまでは行かなくても、大なる休息と安靜を得る権利が有ると、吾々は言ひます。併し此點を論ずる機會は後に出て來ます。

靈智學は何故歡迎せらるゝか

問 餘程分りましたが、諸君の教は亡魂論や現今の宗教思想よりも、餘程複雑にして、形而上學的の様です。諸君の主張なる靈智學は何故世界に是れ程の興味と、又同時に怨恨とを引き起すのですか。

答 其譯は色々有ると思ひます。其中で、「第一」は今日科學者の間に流行して居る粗慢な物質論の大反動です。「第二」は基督教會の様々な假偽的神學及び日毎に増加し、且つ相争つて居る宗派に對する一般の不足です。「第三」は明に矛盾して相互の間に否認されて居る種々の教派信條が皆な真正で有る筈は無く、又無證據の申分は何れも眞實でないと言ふ事實が、段々に分つて來て、此形式的宗教が、何れも其宗教の道徳を保持し、社會人民を導化する事が、到底出來ないから、其不信用は、只だ増すのみであります。「第四」は科學的であつて、想像的でなく、哲學的、且つ宗教的教系が、何處かに有る筈だと、云ふ事を多くの人は信じ小數の人は實際に之を知つて居る事です。最後に「第五」は如何なる近世の信仰よりも、溯つて餘程古い教にそんな教系を求めなければならぬと言ふ信念で有ります。

問 併し此教系が、何うして現今に現はれる様になつたのですか。

答 只だ時が熟したからです。それは取も直さず、如何なる代價を拂つても、又何處に隠れて居るとしても、是非とも、眞理に達せんとする、多くの熱心なる、研究者の努力に依つて、證明されたる事實です。是を見て此眞理の保護者は其眞理の幾分を、發表する事を許しました。若し靈智學會が、數年間も未だ出來なかつたなら、文明國民の半分は、今迄には全々物質論者に

成り、又他の半分は神人同形論者及び亡魂現象論者に成つたに違ひないのです。

問 靈智學は何か新しい神の示現の様なものですか。

答 決して左様ではありません、自然以上、少くとも人間以上の者から、新しく直接に示現されたと云ふ、意味でもありません。只だ今迄に其眞理を知らなかつた人、又其様な古い智識が有つて保存されて居つた事さへも、知らなかつた人に向つて、隠れたる眞理を示現したのに過ぎないのです。

埃及人、希臘人、或は羅馬人の様な文明の大國民の玄妙學には、僧侶の欺騙より外に何も無いと、嘲る事が此頃流行して來ました。Rosicrucian 派の方士をさへも、只だ半狂、半惡人に過ぎない位に言つて居ます。此派の事に就ては色々の書物も書かれて、三四年前には、其名さへも知らなかつた初學者が、物識りの風を裝つて鍊金術、火靈哲學者及神秘學の大體に就て、大批評家の積りで打て出しました。併し埃及、カルデア及亞刺比亞の教僧等を始め、希臘及西洋の最も偉い哲學者や聖人は、智惠及神聖科學の名稱の下に、あらゆる智識を包有して居たと云ふ事は認められました。如何となれば、彼等の意見によれば、總ての技術及科學の根本は其本質に於て神聖で有ると思つたからです。プレートは玄妙理學を最も神聖なるものと認め、

又 Eusebia 玄妙理學の奧義を正受して居つた Clemens Alexandrinus は斯學で教へられた教理は人間智識の最極を、包有したもので有ると言つて居ます。プレート及クレメンヌは惡漢ですか、又は馬鹿者ですか、或は兩方ですか。

問 貴君は前に怨恨と仰でしたが、若し眞理が靈智學の言ふ通りであるならば、何う云ふ譯で、此様に反對されて、一般に信せられないのですか。

答 其譯も亦色々有ります、其一つは世人が、改新のものに對して抱く嫌忌であります。利己主義といふものは、全く保守的であつて攪き亂さるゝ事を嫌ふものです。若し眞理が人の樂を少しでも犠牲にせよと云ふならば、利己主義は最大の眞理よりも、氣樂で苦みの無い偽の方を好むのです。直ちに利益或は報酬を得られない場合には、人間の心の惰性は強いものです。今の時代は大に物質的で現實的です。其上に靈智學の教は人が未だ聽き慣れて居ず、且つ非常に奧妙で有つて、其所說の中には世俗の信仰に染み込で居る宗派的幻想を、斷然否定する所があるからです。更に之に加へて秘密部の弟子に成らうとする人は、非常な努力を要し、操行が清淨でなければならぬと云ふ事を考へ、又全然無我の教を聽受せしむべき人の極めて少數なる事を考へて見れば、靈智學の傳道は遲緩で、困難なる譯が輒く分るでせう。靈智學は苦しんで居る人、又他の方法で人生の墮落せる境遇から助け出される望のない人に、特に必要の哲學です。何んな信仰、或は道德の教系の歴史を見ても、其始めて一國に紹介される場合には曖昧主義及自己主義の爲に非常なる妨害を受けるのが常であります。兎に角腐朽した建物を取り毀すには、多少の危険を犯す事は止むを得ない事でありませう。

問 以上の事は皆な靈智學の道德や、哲學に關して居りますが、靈智學會や其目的及規則の大體を教へて下さいませんか。

答 此事は決して、秘密にして有つた事はありません。質問なされれば正確にお答申します。

問 併し貴君方は其の教を洩さぬ様に誓つて居るさうです。

答 それは秘密部の事だけですが。

問 而して或る會員は脱會すれば其の誓を守らなくても宜いさうですが、左様しても宜いのですか。

答 それは彼等の體面を重んずる心の缺けて居る事を示すものです。それが何うして宜しい筈がありませんか。靈智學會の機關、H. P. (註10) と云ふ雜誌に斯の様な場合に就て、次ぎの如く書いてあります。「例へば兵士が誓や規則を破つたが爲に、裁判されて、軍隊から放逐された

と假定します。其の時、當然に受けた罰を怨んで前の長官に對する復讐として間諜、謀叛者の如く秘密を敵軍に知らせ、自分は罰を受けて居るから誓を立てる義務はないと言つたとすれば、それは正當だと思ひますか。彼は自己の體面を辱かしむる卑怯者と云つても宜いではありませんか。」

〔註10〕 其の創立者及主筆は William の Judge で有つた。今(一八八六年)は Katherine Tingley が主筆に成つて The Century Path と改名して續けて居る。發行所は北米加州の Point Loma と云ふ處だ。

問 私には左様思ひますが、左様思はない人もあります。

答 左様思はなければ其人の耻です。併し此の問題に就ては後に御話ませう。

第三章 靈智會の機能 (註11)

〔註11〕 多年の間此會は靈智學及世界同胞會として知られて居つて、靈智學と云ふ哲學は、西曆一八七五年に初めて、西洋の思想界に接觸した。其會は間もなく只靈智學會 (Theosophical Society) として、世間に知れる様になつた。其名稱の後半、即ち此會の第一の目的なる世界同胞主義を表はす處は殆んど見落される様になつた。

一八九八年一月十三日に此會は Katherine Tingley と云ふ三代目の會長によりて、世界同胞會 (Universal

Brotherhood) として再興されたので有る。是は靈智學會の自然的發展で、其名稱は會が創立された眞の目的を言ひ表して居る。一八九八年二月十八日に靈智學會は正式に世界同胞會と合併して、其憲法を採用し、其の一部になつた。

會の全名稱は「世界同胞及靈智學會」(The Universal Brotherhood and Theosophical Society) として「世界の人類及萬物の爲に創立されて居る」。會の目的を述べれば、「此會は同胞主義を以て自然界に於ける一事實で有ると宣言する。會の主なる目的は同胞主義を教へて此事が自然界の一事實で有る事を證明し、之を以て人生の活動力たらしむる様にする。又其第二の目的は古今の宗教、哲學、科學及美術を研究し、且つ自然の法則或は人間に有る神聖の力等を研究するのである(又註60を見よ)。

會の目的

問 靈智學會の目的は何ですか。

答 始から目的は三つ有ります。「第一」は人種、男女、階級、或は信仰の差別を問はず人類の世界同胞主義の中心を組織するが爲めです。「第二」はアリアン及他の經典、又世界の宗教及科學の研究を奨励し、又婆羅門教、佛教、及ゾロアスタル教の諸哲學の如き古代の亞細亞文學の重要な事を證する爲です。「第三」はあらゆる状態の下に隠れたる自然の秘密を研究し、又殊に

人間に隠れたる靈及靈精の力を研究する爲です。概して言へば此等が靈智學會の重なる目的です。

問 此れ等に就て、もつと精しく説明して下さいませう。

答 其の三つの目的を必要に應じ、箇條に分つて、説明しても宜しいのです。

問 それでは第一から始めませう。かの千差萬別の宗教、風俗、信仰及思想の習慣を有する各人類に同胞主義を奨励するには、如何なる手段を用ゐる積りですか。

答 貴君は口に云ふことを御厭ひでしょうが、言ふまでもなく、何れの國民も——現在のパーシ—及猶太人を除いては——大概皆な他國民とのみならず自國民とも相争つて居ります。此の争は、所謂文明の基督教國民間に特に烈しいのです。それ故に本會の第一の目的が、一の理想境を夢みるに過ぎぬ様に見えて、貴君の疑を招いた譯です。左様では有りませんか。

問 先づそんなものですが、之に對する御意見は何うですか。

答 其事實に對する意見は何もありません、併し現今世界同胞主義を夢想的ならしむる原因を除くべき急務に就ては意見が澤山有ります。

問 其原因は何であると御考ですか。

答 先づ第一に人間固有の利己主義です。此利己主義は、今の宗教の教へ方に依つて衰へるところでなく、却つて日々に盛になり、刺戟されて居るが故に、益強烈となり、之を防止する事が困難となるのです。なんとすれば、今の宗教は所謂利己主義を奨励するのみならず、之を正理と認めしむる傾向があるからです。猶太の聖書に盲從せるが爲に、人の善惡に對する觀念は悉く顛倒される様になつたのです。耶穌の利他主義の教は只だ教壇に於ける才辯の爲めにする理論の題目とせらるゝ様になり、又一方に於てはモーゼー聖書中の實地的利己主義の教は西洋國民の性質の心髓迄染み込む様になつたのです。耶穌はこれを撲滅せんと努めたけれど、効を奏しませんでした。

「怨に酬ゆるに怨を以てす」と云ふ事は、西洋の法律の第一の格言に成つて居ます。今この耶穌教、又は他の多くの宗教の墮落を根絶する事が出来るものは、靈智學のみで有ると私は公然憚らず確言致します。

人類起原の同一なる事

問 何うして其の墮落を根絶する事が出来ますか。

答 理論、哲學、形而上學及科學の論據に依て次ぎの事を證明すれば出來ます。即ち(イ)あらゆる人間は精神的及肉體的に、その根元が同じで有る事。之は靈智學根本の教であります。(ロ)人類なるものは、同一の本質を有し、而して其本質は唯一つである——之を神と言ふも自然と云ふも其本質は無限にして、創造せられたるものではなく、無窮のもので有る——故に一國一人の上に及ぼす影響は、必らず他國、又は他人の上に影響を及ぼすのです。池に石を投ずれば早晚其水を一滴も残らず動かすのは慥で有るが如く、此影響も慥で有ります。

問 併し之は耶穌の教ではなく、寧ろ萬有神教の考へです。

答 貴君の誤解の點は、其處に有るのです。此考は、純粹の耶穌教ですが、猶太教ではありません。それ故に、所謂耶穌教國民は、此教を無視するのです。

問 其非難は玉も石も一擲にした酷評に過ぎません。そんな事を言ふ證據は何所に有りますか。

答 直ぐ手の中に有ります。耶穌は次ぎの如く申したと言はれて居ます、「爾曹相互に愛めよ」又は「爾曹の敵を愛めよ」、「爾曹おのれを愛する者を愛するは、何の報償かあらん税吏(註12)も然せざらん乎。安否を兄弟にのみ問ふは人より何の過たる事かあらん、税吏も然せざらん乎」。此等は耶穌の言葉ですが、創世記第九章第二十五節に次ぎの如く書てあります。「カ

ナン誼はれよ、彼は僕輩の僕となりて其兄弟に事へん。それ故にかの眞の耶穌教信者でない所の聖書死文字的信者は、耶穌の愛の教よりもモーゼーの教の方を好むのです。彼等の劣等なりと思ふ人種を、征服、奪略及壓制する政治の法律は彼等の情慾を勧誘する舊約全書に基いて作るのです。此創世記に書いて有る、非道なる文句を死文字的に解釋したならば、之に基いて、どの様な罪惡が犯されたかと云ふ事は歴史によれば不充ながら想像が出來ます(註13)。

〔註12〕 税吏は其頭盜人や擄徒の様に見做されて居た。猶太人の間には税吏と云ふ名稱及職務は世界中で最も憎む可きもので有つた。彼等は會堂へ遣入る事を許されなかつたので、馬太傳第十八章第十七節には税吏を邪教徒と同様なものであると言つて有る。併し此税吏は印度や他の征服したる國に於ける英國の役人と同じ役を務めて居つた羅馬の税吏に過ぎなかつた。

〔註13〕 中世の終に、道徳の力に依つて、奴隷賣買は、歐羅巴にては大抵無くなつて仕舞つた。併し歐羅巴社會に活動して居た道徳の力を壓服した大事件が、二つ起つて非常な大罪惡を引き起した。此事件の一つは人類を普通の商品同様に思つて居た野蠻國へ初めて航海した事である。他の事件は礦夫を輸入する事が出來さへすれば、立派な金礦が誰でも得られた新世界の發見であつた。四百年の間老若男女は其の親類や相愛する人から引裂かれて、亞弗利加で外國商人に賣られた。此等奴隷は此恐しき航海中往々死んだものと俱に鎖で船中に繋られた。而して公平なる歴史家の Bancroft 氏の著書に依れば、三百二十五萬人の内二十五萬人は其不幸な航海中に海中へ投ぜられたと云ふ事である。而して生殘つたものは礦山で恐ろしい困難に逢はされ、或は甘蔗や稻の畠で鞭撻されて、使はれたので有る。此大罪惡の責任は耶穌教會に歸するのです。最も神聖なる「三位一

體」の名の下に西班牙の政府は五十萬の人間を賣り渡す條約を十も許可した。一五六二年に Sir John Hawkins と云ふ人は「耶穌號」といふ神聖な名を有する船に乗り、亞弗利加で奴隷を買ひ、西印度へ賣りに行つた。然るに耶穌新教徒なるエリザベス女王は、其非人道なる商業に初めて成功をした英國人の賞與として、繩で縛つた黑人、即ち手桶をかけた奴隷を彼の紋章として着ける事を許した(The Agnostic Journal よりとる)

問 人間の肉體的本原は皆同一なる事を科學に依つて證明し、其の精神的本原は智慧教に依つて證明して居ると、貴君は仰でしたが、進化論者ダーウキン派の學者が説く處は大なる博愛の精神を言表はして居るとは思へません。

答 全く左様です。之は物質論者の足りない所を示して吾等靈智學者の正當なる事を證明して居るのです。吾々の肉體の起原の同一なる事は人間の高尚なる精神に、何等の感動も與へないのです。靈魂精神即ち神靈の本質を除去たる物質は人の心情を動かすことは出来ません。併し不死の人間の靈魂及精神は皆同一なる事が、一度證明されて深く吾々の心に染み渡れば、始めて眞の仁愛及同胞的好意の道に向ふやうになるのです。

問 併し靈智學は人間起原の同一なる事を何うして證明しますか。

答 客觀的たる主觀的たるを問はず自然界一切の根本、又見ゆ物と見えぬ物とに係らず、宇宙間のあらゆる事物は、時の古今を問はず單一絶對の眞體で、夫より總てのものが初まり、又

總てのものが夫に歸へるのです。之は吠檀多及佛敎のみによく表はれて居るアリアン哲學です。此目的を以て靈智學者は萬國に無宗派的敎育を奨勵する事を本務とします。

問 有形界に於て、他にすべき事は何んですか。

答 各國民の間に同胞的感情を引起す爲に、信用すべき人や會と共同して、或は忠告により或は敎育により、有用なる技術及産物の交換を助けねばなりません。而して人間の本原が唯一であるならば、又種々の宗教に多少現はれて居る眞理も必ず唯一に違いないと云ふ觀念を人々の心に銘せねばなりません。

問 之は宗教起原の同一なることに關して居つて、御説の通りで有りましたようが、有形界に於ける實際の同胞主義に、何の關係が有りますか。

答 第一には無形界に於ける眞理は又有形界に於ても、必ず眞理で有るからです。第二には宗教の争程惡感情を引起すものは無いからです。一方が自分丈絶對的眞理を有つて居ると思へば、他の方は悉く邪道惡魔に魅せられて居ると思ふのは敢て怪むに足らない事です。併し如何なる宗教も全體が眞理でなく、互に他の補欠となるべきもので、完全なる眞理は各々の宗教から間違つた部分を取除き、其の善い部分を取合はせて初めて出来るものであると云ふ事を、

一旦人に覺らせるならば、その時初めて宗教に於ける眞の同胞的關係と云ふ事が、事實に成るのです。物質的世界に於ても矢張り其の通です。

問 もつと説明して下さい。

答 例へば植物は根幹及多くの枝葉から成立つて居つて、幹は其一本の植物全體を一つにしたもので有るが如く、人類全體は靈性の根から出る所の幹です。而して其幹を害すれば總ての枝葉が苦しむのは明らかです。

問 併し一枝一葉を害したとて、植物全體の害にはなりません。

答 それでは一人を害しても人類一般の害には成らぬと思ひますか。併し害に成らぬ事が何うして貴君に分りますか。物質的科學でさへ植物は少しでも害を受ければ、其成長及發達の上に、影響を及ぼすと云ふことを教へます。故に貴君の考は間違であつて、此の二つの比喩は正しく當つて居ます。併し若し貴君が指一本切つた爲に、往々全身が苦しく成つて、神経系全部に反動を起す事があると云ふ事實を御承知ないならば尙更らの事、次の事實に御注意を促さなければなりません。即ち人間のみならず植物や動物をも支配する他の精神的法則があり得べしと云ふことです。尤も植物や動物には其働が見えないが爲に、其法則の有る事を貴君は否定な

さるかも知れません。

問 何んな法則ですか。

答 吾々は其法則を Darwin の法則、即「業法」と云ひます。併し秘密學を研究しなければ、其意味を十分に解する事は出来ません。併し私の議論は只此法則があると假定してするので無く實際其植物の對比に基づいて居るのです。此對比の考へを推廣一切の上に應用して御覽なさい、眞の哲學に於てはあらゆる有形的動作は道義的及永久的の結果を生ずると云ふ事が、直ぐに分るでせう。人の體を害しても、其人の苦みは、他國民迄は尙更の事、隣人にも及ばないと、貴君方は思はれるかも知れないが、決して左様ではありません。早晚及ぶもので有ると、吾々は確言します。それ故に一人を害すれば自分を害するのみならず、終には人類全體を害すると云ふ事を、總ての人に悟らせ、之は一つの公理的眞理である事を信じさせなければ、教化の偉人——殊に釋迦及耶穌——の教へた様な、同胞的感情は此世に起りません。

吾々の他の目的

問 今度は貴君方が第二の目的を實行せんとする方法を説明して下さいませんか。

答 會の本部〔註14〕の圖書館に、世界の宗教に關する善い書物を、出来る丈集める事、昔の種々の哲學、傳説及昔話に關する正確なる智識を筆録し、其價値有る原書を翻譯し又之を出版し、更に又其拔萃註解を公刊し、すべて實地的方法を以て、之を布教する事、又時として専門家が各自の分擔する處を會長の是認を受けて口授する事等であります。

〔註14〕今は米國加州のホイント、ローマに在る。

問 第三の目的、即ち隠れたる自然の法則及人間に潜める心靈的及靈性的力を研究するには如何なる法がありますか。

答 それは講演や口授の出来ない場合には、印刷物を以て爲なければならぬのです。吾々の義務は人間の靈性直覺を覺醒保存する事です。而して、正確に調べて理に合はない事を、證明した以上は、宗教上、科學上或は社會の習慣上の固執に反對し、殊に宗派的或は奇蹟不可思議の信仰に關する、種々の套語に反對して之を撲滅する事です。吾々のなすべき事は、總て自然の法則に關する智識を得ん事を勉め、此智識を廣める事です。即ち人の知らない所謂秘密科學(Ocult Sciences)の法則の研究を奨励することです。此秘密科學は、現今の様に盲信に基づいた迷信的信仰でなくて、自然に對する眞の智識に基づいて居るのであります。彼の俗間の傳説な

どは甚だ奇怪な様であるけれども、能く之を精査すれば、永く世に忘れられた自然の大事な秘密を發見するに到る事があるのです。それ故に我が會は此方面を研究して、科學及哲學の研究範圍を廣める事を目的とするのであります。

誓の神聖に就て

問 貴會では何か實行すべき道義の制度がありますか。

答 我會には之を守る人には明白なる道義が備つて居るのです。之は世界大改善者の教から採集めた、世界道義の粹で有ります。故に我會の道徳の内には、孔子、老子、ゾロアスター、Hic Bhagavad-Gita (と云ふ本) 又は釋迦、耶穌、Hind、ピサゴラス、ソクラテイス、プレート等の教が皆含まれて居ります。

問 貴會の會員は此道徳の教を實行するのですか。會員間に烈しい争や喧嘩が有る様に聞きました。

答 それは當然の事です。何故なれば、吾等が執る人間改善の此方法は革新であつても改善すべき人間は、例の缺點の多い人間で有るからです。前にも言つた通り、熱心に働いて居る會員は少

數で有るが、成るべく會と自分との理想通りに實行せんとする心掛の宜い誠實の人は少なくな
いのです。吾々の義務は會員の智力的、道德的及精神的の修養進歩を奨励して、之を助けるの
であつて、失敗する人を咎めたり、非難するものではありません。正確に言へば、會殊に秘密
部に這入りたいと云ふ人を拒む權利はないのです。秘密部に這入る人は新に生れた人の様で
す。併し會員にして此の生れ變りの後に體面を重んずる言葉を以て不死の「自己」に對して爲し
たる神聖なる誓を顧みず、從來の悪行や缺點を改める事なく、入會後も矢張り之れに耽るなら
ば、勿論其時には其人に退會を勧め、又退會を肯せざる場合には、會の方から放逐しませう。
此様な場合には會の規則は中々厳しいのです。

問 其規則を擧げて御示し下さる事が出来ますか。

答 出來ます、先づ第一に、會員は顯部會員と密部會員とを問はず、自分の意見を他の會員に強
ふる權利は無いのです。之は會一般に對する反則の一つです。今秘密部と稱する内部に關して
既に西曆一八八〇年に、次ぎの規則を設けました。即ち「會員たるものは「第一部」(今の高級)
の會員より受けた智識を、私慾の爲に濫用す可からず。此規則を犯したる者は其罰として退會せ
しめらる可し」と云ふ規則です。併し今では此様な智識を受けない内に入會希望者は此智識を

私慾の爲に用ゐぬ事又許可なくして教られた事を洩さぬ事を固く誓はなければなりません(註15)。

〔註15〕 斯く用意をした譯は或る會員が會員としての義務を盡さないで、脱會した時、自分が受けた教を賣ら
うとしてブラヅツキーの事業に不名譽を被らす恐が有つたからです。ブラヅツキーが與へた教は報酬を少しも
取らないでしたと云ふ事は能く知られて居る。又彼女の後繼者たるツヤツツ及カセリンチンギーも此主義を
固く守つて居る。

問 併し會から放逐された人、或は退會した人は、其後勝手に自分が學んだ事を洩したり、或は

自分がした誓を破つても宜いのですか。

答 決して宜くないのです。

問 併し之は正當ですか。

答 勿論正當ですとも、少しでも吾尊榮を慮るならば其高位の自己即ち自己内の神に對し、體
面を重ずる言葉を以てなしたる秘密の誓言を死ぬる迄守る義務があるのです。而して誓へ自分
が脱會しても 苟も自己の尊榮を重ずる人が、其様に誓約した所の會を攻撃したり、害したり
しやうと思ふものは有りませぬまい。

問 併し之は餘り酷くは有りませんか。

答 現今の低い道德の標準に依れば、或は左様かも知れませぬ。併し此位の程度迄束縛の力がな

ければ、一體誓と云ふものは何の益に立ちますか。若し自分がした約束を皆自由に破る事が出来るならば、秘密の智識を何うして、人から教へられませうか。もし此様な誓に、眞の束縛力が少しも無いならば、人間に安全や信用と云ふ事が何うして有りませうか。必ず應報の理(Karma)は斯く自分の誓を破る人に違からず報ひ来るに相違ないので、否、恐らくは此世でも氣節を重する人々に輕蔑せられると、直ちに其報があるのです。此問題に就ては、直ぐ前に述べた西曆一八八九年七月の「タイムズ」(と云雑誌)に明かに載せてある通り、「誓は一度すれば道徳界及び精神界に於て永久之を守るの義務がある。若し一旦之を破り、罰を受けたからとて、それが爲め再び其約束を破つても宜いと言ふことは出来ませぬ。而して其約束を破る間は、何時迄も應報の大法が必ず其人に報ひ来るのであります。」

第四章 靈智學會と靈智學との關係

修養に就て

問 それでは道徳を高めることが貴會の目的の重なる點ですか。

答 無論左様です。眞の靈智學者に成りたい人は、靈智學者たる實を行ひに現はさなければなりません。

問 果して然らば、私が前に述べた通り、或る會員の行は、此根本的規則に違反して居ます。

答 如何にも左様です。耶穌教信者と自稱する人の中に、惡黨の行をするものが有る通り、斯の如き事は、吾々の間にも免れ難い事です。之は我が會の憲法及規則が悪いのではなくて、人間の性質が悪いからです。顯部の或る支會に於ても、其會員たるものは靈智學が定めた通りに行をする事を、我が「高位の自己」に誓約して居るのです。彼等は自分の生涯の毎日毎時、一切の考も行も自分の「眞我」の指導に任かさねばならぬのです、即ち眞の靈智學者の行は正當で謙遜でなければならぬのです。

問 それは何う云ふ意味ですか。

答 それは即ち一つの「自我」を他の多くの「自我」の爲に犠牲にせねばならぬのです。會員中の或る眞の眞理を愛する人が次ぎの様に云つて居る、「人の第一に最も必要な事は、己を知る事である。夫から自分の性質の短處と長處を正直に計算する事である。それで短處の方が幾ら多くても、若し熱心に努むれば償ひの出来ない事はない。」

併し此通にする人が幾人有りませうか。人は皆自分の發達や進歩の爲には悦んで盡力するが、他人の爲にする者は極めて少いのです。尙ほ一つ右の著者の言ふた事を引いて言へば「人間は此れ迄、随分長い間欺され、惑はされて居たが、今は其偶像を破壊し、虚偽を排斥して、自分の爲に働かねばならぬのです。否自分計りの爲に働くならば寧ろ全く働かない方が宜いのです。即ち全く他人の爲に働く方が宜いのです。何となれば、他人の庭に仁愛の花を植る度毎に自分の庭の悪草が夫れだけ無くなつて仕舞ふのです。斯くすれば此「神佛の庭」即ち人道は、眞の樂園に成るのです。此事はあらゆる宗教や聖書に明らかに教へて有ります、然るに世間に奸猾の徒があつて、始めは之を曲解し、それから段々其の精神を無くし、物質化して、つひに賤しくして仕舞つたのです。併し之は新たに天啓で示す必要はありません。人は各々自分を自分への天啓とすべきものです。人間の不死の精神が一度其身を支配する様に成つて、あらゆる悪癖や悪事を追拂ひさへすれば、自分の神的人間は必ず自分を救ふ様に成るものです。何となれば此様にして、自分の「己」と一致して居れば、自分の「心内の神」を覺る様に成るからであります。」

問 之は眞の利他主義に違ひありません。

答 左様です、而して靈智學會員十人の中で、若し只一人でも此通に實行すれば、吾が會は、實

に立派な會に成るのです。併し局外者の中には靈智學と靈智學會、即ち理想と其理想の不完全な實現との間に存する、根本的の差異を、何時も區別しない人があります。其様な人は肉體が犯す凡べての罪や缺點を、之に光明を發つ純潔の精神に着せんとするものです。之は精神に對しても、身體に對しても、正當ではありません。理想に向つて進み、又之を弘めんとする會を、彼等は非常の多勢を恃んで、攻撃して居るのです。或者是靈智學會が他の教系、殊に教會及國家建立の基督教が今迄に失敗した事を爲し遂げようとするからとて、會を非難するのです。又或者是現今の狀態を維持する爲に、會を罵るのです。即ち彼等は羅馬の墮落時代の如く、高位に在る野心家或は非道の役人などです。兎に角、公平なる人は覺へて居なければならぬ事があります。即ち己れの全力を盡す人は、此世で最も多く働く人に劣らぬ丈の事を致します。之は自明の眞理であつて、耶穌が福音信者の爲に與へた銀錢の比喩が證明して居る公理です。即ち、銀二千を預かつて之を二倍にした僕は五千を預つた同僚と同じ報酬を受けたのです。人は誰でも自分の働に應じて報酬を受けるのであります。

問 併し世人は只行に依つて、判斷するものですから、此の場合では理想と行を區別する事は少し困難で有りませう。

答 それでは何う云ふ譯で、靈智學會を例外にするのですか。正義は慈善と同じく先づ自分の家から行ふ可きものです。社會や政治、又は宗教の法律が其主意のみならず、其文面に於ても耶蘇の「山上の訓」を實行しないからとて、此訓誡を非難するのですか。若し耶蘇教信者と自稱したいならば法廷や議會や軍隊や其他如何なる處で爲す誓をも廢して圭哥兒教徒の眞似をする方が宜いのです。又法廷其ものも廢した方が宜いのです。如何となれば若し耶蘇の誠めを守らんとすれば、上衣を剥ぐ人に外套迄も遣つて仕舞はねばならぬのです。又右の頬を打つ暴漢に左の頬をも出さねばならぬのです。「惡に敵する事なかれ」。爾曹の仇を愛し爾曹を憎む者を善し誣者を祝せよ。「人もし誠の至微さ一を犯し、又その如く人に教へなば、天國に於て至微き者と謂れん」。又「他人を狂妄よと言ふ者は地獄の火に干るべし」。自分が裁判されたくないなら、何故人を裁判するのですか。若し靈智學と靈智學會との差異がないと主張するなら、耶蘇教の教義及其精神にも同じ非難、否夫れより一層甚しい非難があると云はねばならぬのです。

問 何故に一層甚しいのですか。

答 靈智學運動の 주도者は、自分の缺點を十分に認め、自分の行を出来る丈改め、又其會の弊を根絶せんと努め、又其規則は靈智學の精神に基づいて出来て居るのです。然るに自ら耶蘇

教信者と稱して居る國民の教會及立法者は其主義に相反する事をして居ります。吾が會員の中で——最惡の者でも——普通の耶蘇教信者に劣る處はありません。而して西洋の人で靈智學を修むる者が斯學の教通りに世を渡ることが斯程困難なる譯は、彼等は此不道德時代の子孫であるからです。西洋の吾會員は何れも皆以前耶蘇教信者であつて、其教會の詭辯や社會風俗や又其不常理なる諸制度に依つて育てられたのです。彼等は靈智學者——否寧ろ靈智學會員——に成る前此の通りで有つたのです。それ故に理想と其實行者との間に大切な違があると云ふ事は幾度繰り返へしても宜しい主要の點であります。

有形と無形

問 此差異を今少し説明して下さい。

答 靈智學會は極めて類の異つた男女から成り立て居る一つの大きな團體です。靈智學は、其抽象的の意味では神靈の智慧、即ち宇宙のあらゆる智識及智慧の總數です。言ひ替ふれば「無窮の善」の純一合成です。又其有形的の意味では、此世に於て自然が人間に與へた此智識智慧の總數に過ぎないのです。會員中には熱心に靈智學を實行せんとする者もあり、又實行しないで只之を學

ぶ事のみを望む者もあり、又單に好奇心や一時趣味を感じた爲に、又は自分の友人に會員と成つて居るものが有る爲に、入會した者もありましょう。左様ですから、其資格がなくて、靈智學者の名義丈を用ひんとする人を標準として、何ふして靈智學其物を正當に判斷する事が出来ませうか。人の耳を惱ます拙惡の韻文を綴る自稱詩人を以て詩と云ふ物を判斷する事が出来ますか。吾が會は只靈智學の理想上のみ之を具體にしたるものと看做す事が出来ますが、其具體上人間の缺點や弱點が現はれて居る間は我が會は靈智學の完全なる機關で有ると自稱する事は決して出来ないので。若し完全だと言ふ様な事があれば所謂基督教會の大なる過失及非常な褻瀆の罪を再び繰返すに過ぎません。東洋の比喻を用ひて云へば、靈智學は、此世に光を反射する宇宙的眞理、愛及智恵の無限の大海の様なものであるが、靈智學會は其反射に現はれた只一箇の泡の様なものに過ぎないので。靈智學は現はれ又現はれない神靈の本性で、靈智學會は其神靈の根本へ達せんとする人間の性です。つまり靈智學は一所に常住せる無窮の太陽の様なもの、靈智學會は其眞理の太陽の引力範圍を絶えず回轉して、一つの軌道に定まつた遊星に成らんとして居る、彗星の様なものです。此會は靈智學の様なものがあると云ふ事を世人に示し彼等をして其無窮の眞理を研究、同化し斯學の方へ進む様に補助する目的を以て創立さ

れたのであります。

問 靈智學には自分の教説、教義が無いと御説きになつたでは有りませんか。

答 左様、會は主張し又は布教す可き自分の造つた教はないのです。會は有史以來及有史以前の先見者、智者及豫言者が唱へた總ての眞理を得られるだけ蓄積した倉庫です。夫れ故に會は人間の大神導者が唱へた眞理を此世に傳ふる媒介に過ぎないのであります。

問 併し其様な眞理に會外の者は達する事が出来ないのですか。總ての教會は夫と同じ様な事を唱へて居るではありませんか。

答 決して達せられない事はありません。世には神秘正受の偉人——眞の「神の子」——が儘に有ると云ふ事實を見れば孤立した人でもそんな智恵に往々達する事が分ります。併し最初に指導者がなくては達せられないのです。然し此指導者の弟子は自分で指導者と成つた時に、此普遍性の教を自分の狹隘なる獨斷的宗派にして仕舞つたのです。夫で總て他の指導者の教を排斥して或る一人の指導者の教計りを採用して之れに従ふ様になつたのです。併しその従ふと云つても「山上訓」の様には覺束なかつたのです。それゆへ何れの宗教も皆神的眞理の一片であります。併し其眞理を代表して他を排斥せんとする人間の空想が大分這入て居るのです。

問 併し靈智學は宗教でないとの仰では有りませんか。

答 夫は慥に宗教では有りません。如何となれば靈智學は總ての宗教及絶對真理の精粹で有つて、あらゆる宗教の信條には只其一滴のみが這入て居るのです。又比喩を以て云へば、此世に於ける靈智學は七色虹彩を作る根元の白光線で、各箇の宗教は其七色の一つに過ぎないのです。然るに其各箇宗教は總て他の信仰を非難して偽教と言ひ、自己の光線が第一位を占めるものと思ふのみならず、自分は其根本の白光線であると主張して居ます。併し太陽の様な大真理が人間の心に段々現はれて来て、其各一色の宗派は段々消えて、つひに根元の光線へ歸へる様になれば、人類は人造的宗派を脱して、純粹、永久の真理の光に浴する様になる。之が即ちTheosophyに成るので有ります。

問 それでは、總て大宗教は靈智學から出たもので此靈智學を同化すれば、遂に大なる幻想や誤解が世界に無くなると云ふ事を貴君は主張なさるのですか。

答 全く左様です。今一つ附け加へて言ひますが靈智學會は小さい種子見た様なものであるが、此種子を培養すれば、「不朽の樹」に接枝した「善悪を知る木」を遂に生ずるのであります。如何となれば世の種々の大宗教や哲學を研究し、又虚心公平に是等を比較して初めて人間は其真理に達する事が出来るのであります。殊に夫等種々の一致した點を發見し熟考して、此目的を遂げる事が出来るのであります。如何となれば自分で研究するか、又は誰か知つて居る人に習つて、其奧義に達する事を得れば、夫れと同時に大抵の場合では、其意味は何か自然の大真理を含んで居ると云ふ事が分ります。

問 昔し黄金時代が有つたと云ふ事を聞きました。貴君が仰の事は、何時か未來に現はれて来る黄金時代でせうか、何時現はれませうか。

答 人類一般が其黄金時代の必要を感じない内は現はれて來ません。Persia の Javidan Khirad (道德教訓の書)には此様な格言が有ります、曰く「真理に二種類有る。一は明白で自から明かな真理、他の一は新しい證明を不絶要求して居る真理」と。後者の真理は今不明で詭辯の爲に曲解せられ易いが、此れが世界一般に明白に成つて、此兩者が又一つに成る時に至らねば總ての人間が同様に覺る様に成りません。

問 併し此様な真理の必要を感じて居る少數の人々は、慥に何か極つて居るものを信じやうと決心して居るに違ひ無いでせう。貴君の仰つしやるには會には自己の教義が無いから、誰でも己れの欲する處のものを隨意に信仰するを得ると云ふ事ですが、夫れでは靈智學會はバベルの塔

に於ける言葉と信仰の混亂を再演する様に見えます。一般に共通する信仰は無いのですか。

答 會に自己の教義や信仰がないと云ふのは會員たるもの、是非信じなければならぬ特別の教義や信仰などはないと云ふ事です。併し之は會全般の上でのみ適用するのです。前に云つた通り、會は外部及内部に分れて居て内部の會員には無論其哲學或は宗教系統と言つても宜いものが有ります(註16)。

「註16」 會員は如何なる宗教或は哲學にても之を信じ、又信ぜざる権利が有る。此れは會員は相互の意見に對して寛容を示すの義務が有る」からです——世界同胞及靈智學會の憲法。

問 夫を説明して下さいませんか。

答 決して秘密には致しません、數年前に會で出版した本(註17)に其概略が書てありますが、「The Secret Doctrine (秘密教義)」と云ふ書に更に精しく載せてあります。其教は「智慧教」或は「古教」と稱する世界で最も古い哲學に基いて居ます。御望みならば夫に就て御尋ねになれば説明致しませう。

「註17」 書目は卷末を見るべし。

第五章 靈智學の根本的教義

神及祈禱に就て

問 貴君は神が有ると思ひますか。

答 夫は神と云ふ語の意味に依ります。

問 私の言ふのは、耶蘇教信者の神、耶蘇の父「造物主」即ち Moses が聖書の内で言つて居る神です。

答 其様な神は有ると思ひません。人間の様な神、宇宙外の神、人の形をした神などが有ると思ひません、其様な神は人の大きな影に過ぎぬので、それも人として最も善い人と云ふのでは無いのです。神學で言ふ神は、矛盾の集合で、理窟に合はないと云ふ事は證明が出來ます。夫故に吾々は其様な神は相手に致しません。

問 其譯を聞かして下さい。

答 其譯は澤山有つて、此所に皆述べる事は出來ませんが、敢て此處に少しく述べれば、此神は

無限、絶對で有ると其信仰者が言つて居るのでせう。

問 左様と存じます。

答 若し果して無限、殊に絶對で有るならば、其様な神は何ふして形を具へて、物を創造する事が出来ませうか。形と言へば、それには制限の意味が含まれ、又初も終もなければなりません。而して物を創造するには神は考へたり、計畫したり、しなければならぬのです。「絶對のもの」(The ABSOLUTE)が何ふして考へる事が出来るでせうか、即ち制限されて條件の附いたものに何ふして關係が有りませうか。之は哲學上、又理論上矛盾して居りまして、猶太の Kabbalah でも其様な考へを排斥して居ます。夫故其教では唯一絶對の神的本因を無限唯一として之を Ain Suph (註18)と云ふて居ます。

〔註18〕 Ain Suph は無限、無極、自然 (Nature) と同様で形を現はさずして存在するもの、併し a Being ではない。

物を創造するには造物主は活動しなければなりません。併し「絶對」にはそれが出来ぬから無限の本因は間接に進化(創造では無い)の原因になると言はねばなりません。即ち自分から Sephiroth と云ふ十の神靈が発現したと云ふ事になります(此矛盾は Kabbalah の解釋者に責任を負はせよう)

が有ります(註19)

〔註19〕 活動しない永久の原理は何ふして物を發生する事が出来ますか。吠檀多の無餘絶對は其様な事は決して致しません。又 the Chaldaean Kabbalah の Ain Suph も致しません。彼の活動的創造力(the Logos)を發するものは永久の定期的法則で、此ロギスは常に隠れて解すべからざる一の原理より宇宙循環期(Mahavantara)の始に顯れるのです。

問 併しカバラ教徒(秘傳學者)で有りながら、矢張りエホワー(神)即ち The Tetragrammaton

(エホワーの四字を秘密とし之を神の代表とす)を信じて居る人は何ふですか。

答 彼等は好きな事を信じて宜しいのです。如何となれば、彼等の信不信は自明の事實に少しも影響しないからです。基督教のゼシユイット派は、二に二を加へて必ずしも四に成らない、何んとなれば二に二を乗じて五とするのは神の自由で有るからだと云つて居る。夫でも吾等は彼等の詭辯を信するのですか。

問 夫では貴君は無神論者ですか。

答 左様でもありません。無神論者と云ふ名を人の形せる神はないと説く人に適用せずば、吾々は無神論者ではありません。吾々は萬物の根源なる宇宙の神的本因を信じます。それから萬物

が出て又「生の大循環」の終に皆之に歸へるので有ります。

問 之は大古から萬有神教(自然萬有を神とする教)が唱へて居る事です。若し貴君方が萬有神教論者で有るなら、自然神教論者(一神若くは多神の存在すべきことを許すと雖も然も之に就て何事も知らずと云ひ又默示を信せざる論)で有る筈は無い。而して若し自然神教論者で無いなら、無神論者で有るに違ひ無いのです。

答 必ずしも左様ではありません。萬有神教と云ふ言葉も其元の眞意が曲解されて居ります。若し此言葉の語原を耶穌教的に解釋し、此語は「皆」と云ふ意の Pan 及「神」と云ふ意の theos から出来て居るとして、其意味は自然界の石や木が皆悉く神、即ち一つの神で有ると云ふ事を信じて教へるならば、無論貴君の言はるゝ通りで其正當の名に加ふるに萬有神教論者と云ふ普通の名に「拜物教徒」と云ふ名を以てせねばなりません。併し吾々の云ふ通り奥義の解釋によりて萬有神教なる語の原を探るならば貴君の解釋は間違つて居ります。

問 夫では其語に付て貴君の定義は何と云ふのですか。

答 今度は私が一つ質問致します。Pan 或は Nature (自然)と云ふ語はどんな意味だと思ひなされますか。

問 「自然」とは宇宙のあらゆる事物で有ります。物質界、萬物或は宇宙の原因結果の集合で有ります。

答 夫れでは「自然」は智慮ある一造物主若くは多數造物主と全く關係の無い、總ての原因結果又總ての有限動力で有ると思ひなされますか、又或は百科全書に書いて有る通り單獨の力だと思ひますか。

問 はい、左様思ひます。

答 吾々は此有形物質的自然を朝生暮死の果敢無い幻影と稱して、重きを置かないのです。又 Pan と云ふ語は、「成る」(becoming)と云ふ羅甸語の natura (nasci = to be born = 「生まる」)から出た自然 (nature) と云ふ普通の意味に解釋しないのです。吾等が神は自然と同體で有ると云ふ時は、永久で創造されない「自然」を指すので有つて、貴君の言はるゝ如き果敢無い有限の幻の様な、自然を言ふのではありません。吾等の頭上に見ゆる天は神の玉座で吾足下の地は神の踏壇など、讚美歌の作者は勝手に言ふが宜い。吾々の神は天國にも居す又何れの木にも建物にも山にも居ませぬ。此宇宙間、目に觸るゝものと觸れざるものとを論せず、有りと有らゆる物の内外に遍在するのです。如何となれば吾々の神は進化内轉 (involution) の不可解力で有

つて、遍在、全能、全知の創造的可能力で有ります。

問 一寸待つて下さい、全知の力とは何かを考へる力のある物に限つて居ます。然るに貴君の所謂「絶対」には考へる力が無いと御説でした。

答 考へる力と云へば有限で状態が纏ふて居る。それ故「絶対」(THE ABSOLUTE)には其様な物は無いと確言致します。併し哲學では「絶対無意識」は又「絶対意識」で有ると云ふ事を貴君は儘に忘れて居られます。如何となれば若し左様で無いとすれば、其「無意識」は「絶対」では有りませんから。

問 夫では貴君の「絶対」は考へる事が出来ますか。

答 否、出来ません、如何となれば「絶対」は「絶対思考」其もので有りますから。又それと同じ理で「絶対」は存在して居るとは言はれません、如何となれば其絶対は「絶対的存在」で有つて「在る物」では無い「在る事」であり、Kaher Maluhuh と云ふ書に在る Solomon ben-Yehudah Ibn Gebrol が作つた立派なカバラ教の詩を讀めば分ります。「汝は總て數の根源なる單一で有る。併し算數の單位では無い、如何となれば唯一は倍加したり、變化したり、形を有したりする事は出来ぬ。汝は單一で有る、而して汝の唯一の秘密は如何なる賢人でも其單一を知らないから、之

を覺る事が出来ぬ。汝は單一で有る、而して其唯一は決して増減する事も又變化する事も出来ぬ。汝は單一で有る、余は如何に考へても汝を定限し又定義する事は出来ぬ。汝は存在すれど普通の意味の存在では無い、如何となれば人間の理解力や想像力は汝の存在に達する事は出来ぬ。又汝は何處に存在するか如何にして存在するか、又何故に存在するかと云ふ事をも了解する事は出来ぬ。「要するに我々の「神」は永久の宇宙造營者で有つて、不斷進化はすれど、創造はしません。宇宙其物が此本素から現はれて來るので有つて、創造されるのでは有りません。表號的に言へば「神」は周圍と云ふ限りを有たぬ「球狀」であつて、あらゆる屬性を包括せる唯一なる無窮活動の屬性を有つて居ります。即ち其自身で有ります。「神」は唯一の法則であつて現はれて居る永久不變のあらゆる法則を發動させるものであります。其法則は其顯現の時期に於ては不斷成就の「絶対」で有るが故に、表現せぬ絶対法則の中に含まれて居るのであります。

問 併て貴會の或る會員が宇宙の「神」は至る處に在るから、善い處にも悪い處にも在る。夫れ故に私の烟草の灰の中にも在ると、言つて居るのを聞きました。之は神聖を汚す甚しいものは有りませんか。

答 否、左様で無いと思ひます。直白な論理は神聖を汚すものとは決して言へません。若し宇宙

の何處からでも、又は何んな物質からでも、遍在の原理を除く事が出来るものならば、其れは無限と言はれませうか。

八〇

祈禱は必要なり哉

問 貴君は祈禱をするのは宜いと思ひなさりますか、又祈禱なさる事が有りますか。

答 祈禱はしません、口先で祈禱するよりも實行致します。

問 其れでは「絶對本因」に向つても祈禱をなさりませんか。

答 何でする必要が有りませうか。吾々はなかく忙しくて眞の抽象に祈禱などをする暇がありません。不可知體は其部分中で互に關係する事は出来ませんが、有限の關係を以て存在する事は有りませぬ。實現の宇宙の存在や、其現象は互に働いて居る萬物及其法則に依るもので有つて祈禱や祈禱者には依らないのです。

問 貴君は祈禱の功能は少しも無いと思ひなさりますか。

答 若し祈禱とは猶太人やバリサイ宗徒が祭る様に不明の神に向かつて、口先で祈禱する意味ならば、効能は無いと思ひます。

問 其他に祈禱の種類が有りますか。

答 無論有ります。吾々は其祈禱を「意思の祈禱」と申します、而して之は祈願と云ふよりも寧ろ心中の命令と云ふ可きものです。

問 貴君が祈禱なさる時は誰に向つてなさりますか。

答 秘密の意味にて「天にまします我々の父」に向つて祈禱します。

問 夫は耶蘇教の神學で言ふ神と違ひますか。

答 全然違ひます。秘密行者或は靈智學者は秘中の父に向ひ祈禱するので有つて（馬太第六章第六節を讀んで御覽なさい）、宇宙外有限の神に向つてするものではありません。而して其「父」は人間心中に在るのです。

問 夫では人間を一つの「神」にするのですか。

答 一つの神と言ふよりは只「神」と言つて下さい。吾等の意味で言へば、吾等に知覺し得られる神は人の内心より他に無いのです。又如何して此以外の義になる事が出来ませうか。若し神は宇宙間に遍在する無限の原理で有ると云ふことを許す以上は、其神が人間計りに這入り込まない様にする事は出来ないでせう。吾等は吾等心中、即ち吾心胸と靈性との意識中に認める神的本素

を吾等の「天に在る神」と申します。吾等の物質的脳髓或は其想像に浮ぶ人體同形の神とは全く違ふ物であります。「汝等は神の宿る宮殿で有つて、(絶對の)神の靈は汝等の體内に宿ると云ふ事を知らざるか」。(註20)併し吾等の心中に在る本素に人間の形をつけて考へてはなりません。若し靈智學者にして神的眞理を堅く守らんと欲すれば此隠れたる神は有限の人間、又は無限の本素から離れたものと思つてはならぬのです。即ち皆同一で有ります。又今言ふた通り、祈禱は願ひで有ると言てはなりません。祈禱は寧ろ不思議の神通術で有て、之に依り状態無き絶對精靈に同化す可らざる有限の状態有る思想や希望が靈性意思及心意に變通されるのです。此様な術を「靈性變通」と言ひます。吾等の烈しい熱望を以て祈禱すれば其効力は彼の鉛を純金に化する力ある鍊金石或は仙丹の如きものとなるのであります。純一無雜の唯一本素即ち吾等の「意思の祈禱」は我等の希望に従つて活動力、或は創造力となつて結果を生ずるのであります。

〔註20〕靈智學に關する文書中には人間に在る Christos (純清成就)の本因に就て往々矛盾の事を書いて有る。或る人は之を第六本因即ち Buddhi (宇宙心)と言ひ、又或る人は之を第七本因即ち Anan (至高魂)と言つて居る。若し耶穌教信者の靈智學者にして此様な言方を爲んと欲するならば、昔しの「智惠教」の記號に倣つて哲學上間違の無い様にせねばなりません。クリストスは其三つの上位本因の一つで有るのみならず、又其三つが三位一體と見做されたもので有ると吾等も申します。此三位一體は「聖靈」「父」及「子」を代表して居る。如何

となれば其三位一體は「抽象精靈」、分化精靈」及「成體精靈」を指して居る。哲學上で言へば Krishna 及び Christ (同じ本因で有る。 Bhagavad Gita と云ふ本にクリシユナは自分を宇宙心、抽象精靈 Kshetryna、真我及宇宙自己と言つて居る。此等の名を皆宇宙より人間に移して適用するならば至高魂 (Atma) 佛性 (Buddhi) 心 (Manas) に當ります。 Anugia と云ふ書には之と同様な教が書いて有ります。

問 貴君の御説は祈禱は有形的結果を生ずる神通術で有ると云ふ意味ですか。

答 其通りです。意思の力は活力と成ります。併し劣等の人我即ち肉體の希望を抑制せず、自分の上位の靈性我に従はないで、意思の力を私慾の爲に利用する秘密行者や靈智學者有らば彼等は恐る可き罰を招くのであります。如何となれば、之は惡魔の邪法で有るからです。然るに不幸にして耶穌教の政治家や軍人は此様な事を常に行ふて居るのです。殊に軍人が互に虐殺せんとて軍隊を送る時に、此を行ふのです。兩方の軍隊が今や軍を始めんとして同一の軍の神に各々祈禱を捧げて敵軍を殺すに助けを求むる時此様な術を行ふのです。

問 併しデーブッドはフキリスチン人を討ち、シリア人を殺すに軍の神に祈つて助けを求めました。而して神は至る處デーブッドを助けて遣りました。祈禱に就ましては吾々は聖書に書いて有る通り致します。

答 無論左様なざるでしやう。併しながら貴君は猶太人でなく自ら基督教信者と稱する以上は、何故耶蘇の言ふ通りにしないのですか。而して耶蘇は昔の人やモーゼーの法律に従つてはならぬ、自分の言ふ通りにせよと明かに命じ、剣を用ゐる者は又劍の爲に亡ぶべしと戒めて居ります。耶蘇は一つの祈禱を教へました。其を耶蘇教信者は只日先で唱へて得意に成つて居れど、眞の秘密教の學者でなければ、それは了解は出来ないのです。其祈禱をするのに耶蘇教信者は例の死文的の意味で「吾々が吾々の負債者を赦す如く吾々の負債を赦し賜へ」と言ふが、決して其通りにはしません。而して又耶蘇は「敵を愛し、汝等を憎む者に善をなす可し」と言ふて居ります。汝等の敵を殺して勝利を得さして下さる様に祈れと教へたものは、たしかに耶蘇ではありません。是即ち所謂祈禱なるものを吾々が排斥する譯で有ります。

問 併し何處の國の人でも皆各々信じて居る神に祈り、神を拜むと云ふ一般の事實のあるのは何う云ふ譯ですか。或る人は悪魔を拜んで崇らない様に祭つて居るが、是即ち祈禱には機能が有ると云ふ事を一般の人が信じて居る證據に外ならぬのです。

答 祈禱には耶蘇教信者が云ふ意味よりも他に種々の意味が有ると云ふ事實に依つて其譯が分ります。即ち祈禱には只願の意味のみならず、昔しは遙に夫以上の意味即ち祈願及念呪の意味

が有つたのです。曼荼羅(Mandala)即ち印度人が節を附けて唱へる祈禱には明かに此意味が有る。如何となれば婆羅門(Brahmans)は自分で普通の「Devas」神以上のものであると思つて居ります。祈禱は祝福を求めるのは無論で有りますが、又二つの軍隊が同時に相互の滅亡を祈る場合に於ける如く、呪詛を求める請願にも成ります。而して人間の大多数は非常に利己的なもので、自分の爲にのみ祈禱をして、日々の糧米を働いて取らず之を與へ玉へと希ひ、又誘惑に導くなかれ、罪より救ひ賜へと神に祈ります。故に其結果として今の人とする祈禱は二重に有害で有ります。即ち(第一)祈禱は人の獨立心を失ははしめ、(第二)人の生來有つて居る利己的觀念を増進するものであります。重ねて申しますが、吾々は「隠れたる神」と通じ又之と一致して働き、又歡喜恍惚の瞬間には吾々の良心が、其中心なる宇宙の本素へ引着られて混合するものだと云ふ事を信じて居ります。此状態を稱して存命中は三昧(Samadhi)と言ひ、死後は涅槃(Nirvana)と言ふので有ります。吾々は創造されたる有形のもの、即ち神、上人、天使などには、祈禱をしないのです。如何となれば此様な祈禱は一種の偶像崇拜で有ると思ふからです。又吾々は「絶對」に向つて祈禱することは出来ません。其理由は前に説明した通りで有ります。夫故に無益の祈禱をしないで有益の行をしやうと努めて居ります。

問 耶蘇教信者ならば之を傲慢と呼び、神聖を犯すものと云ひますが夫れは間違つて居りますか。

答 全然間違つて居ります。却て耶蘇教信者こそ「絶対」又は「無限」のものが(假りに状態無き物と状態有る物との間に其様な關係が出来得るものとして)馬鹿氣た利己的の祈禱を聞いて呉れるものと信じて居るのは甚しい傲慢ではありませんか。又彼等耶蘇教信者こそ、全知全能の神に向ひ神の爲すべき事を神に知らせん爲め聲を揚げ祈禱をせねばならぬと教へて實際神聖を犯して居るので有ります。此事は奥義の解釋によれば、釋迦も耶蘇も共に唱へて居る所で有ります。即ち釋迦は「無力の神より何物をも求むるなかれ、祈るよりも寧ろ行ふ可し。祈ればとて聞は晴れざる可し。沈黙せる者は口も無く耳も無し。されば之より何を求むる勿れ」と言つて居ります。而して又耶蘇は「汝等は余が名(即ちクリストスの名)を唱へて何物を求むるとも余は之を與ふ可し」と教へて居る。無論此引句は死文的に解釋すれば吾々の議論に矛盾して居ります。併し Atma Buddhi Manas (至高靈心) 即ち「自己」を代表して居る Christos と云ふ語の意味を好く呑み込んで之を奥義の意味に解釋すれば其歸する所の意味は次ぎの様に成ります。即ち吾等が認めて祈り否、寧ろ従ふ可き神は吾等の體を宮として其中に宿る神の靈魂より他に無いので有ります。

祈禱は自恃心を失はしむ

問 併し耶蘇自ら祈禱を爲し又祈禱をせよと教へたでは有りませんか。

答 書物には左様書いて有ります。併し其祈禱は今述べた通り、慥に人の「隠れたる神」と通ずる祈禱で有ります。若し左様で無いとして、耶蘇と宇宙の神とは同一のものとするれば、神自身自身に向つて祈禱をし、又其神の意思を自分の意思と全く分離したと云ふ事に必然成ります。夫は甚しい不合理な事で有ります。

問 今一つ議論が有ります。此議論は耶蘇教信者が多く唱へる議論で有ります。即ち彼等の言ふには「余は自分の情慾や弱點に自分の力では打勝てないと思ふ。併し耶蘇に祈禱をすれば耶蘇は余に力を與へ其力で打勝つ事が出来る様に思ふ。」と。

答 夫は敢て怪むに足ない事です。若し耶蘇が神で有り祈禱者に關係のない一個の別物で有るならば、無論全能の神は何事でも叶へて呉れるし、又叶へて呉れる力がなければならぬ筈で有ります。併しそれでは其様な勝利は何處に價值が有りますか、又如何してそれが正當でせうか。其の偽勝利者が只祈禱のみの勞を以てした事に賞を受くる譯は、何故で有りませうか。只

の人間の貴君でも雇た労働者が自ら何もせず自分のする仕事を貴君にして呉れと祈るばかりで、貴君は其仕事を大方して遣りながら、其者に丸一日分の賃銀を與へるでせうか。此様に自分の生涯を丸で精神的怠慢に過し、自分の一番苦しい仕事を神にまれば、人間にまれ、他の者にして貰はんと云ふ觀念は吾人の最も嫌忌する所で有り、且つ又人間としての品格を貶すの甚しいもので有ります。

問

恐らくは左様かも知りません。併し生存競争で人間と顯れた救世主に信頼して助を求むる事は、近世の耶蘇教の根本的觀念で有ります。而して其様な信仰は主觀的には儘に効能が有る、即ち其様な信仰者は實際神の助力を得て強みが出来ると思つて居ります。

答

又クリスチャン、サイエンスの信者或は心療學者と稱する徒「大否認者」(the great "Deniers")

(註21)も時として病氣が全快するのは、夫と同様に疑はありませぬ。又催眠術、心理學及巫術も其様な効能が有るのは、儘かな事です。貴君は効能の有る場合計りを擧げて論點を強め様となさるが、効能の無い場合が十倍も多いのは何ふ云ふものですか。貴君は狂信の耶蘇教徒間に隨分盲信が有るにも拘はらず効驗の無い場合は無いとは、まさか言はないでせう。

(註21)醫療の新派で宇宙には靈魂より以外の物は存在せず、靈魂は苦痛を感じ、又病む事能はさるものとし、病人が自分で否認する物は、決して存在するもので無いと云ふ事を信じ、如何なる病氣でも治す事が出来ると云ふ人。之は新自己催眠術である。

人が自分で否認する物は、決して存在するもので無いと云ふ事を信じ、如何なる病氣でも治す事が出来ると云ふ人。之は新自己催眠術である。

問

併し全く効能の有る場合は、何ふ云ふ譯ですか。靈智學者は自分の情慾や利己心を抑制する力を何處に求めますか。

答

自分の上位の自己、即ち自分の心内に宿る神的靈魂及自分のカルマ(業)に求むるので有ります。樹は實を以て知り、原因は結果を見て知ると云ふ事を何時迄繰り返さねばならぬのでせうか。貴君は神、或は耶蘇の助けに依つて情慾を制し善化する御説きですが、徳が有つて罪や惡の無い潔白な人は耶蘇教國と佛敎國と何方に多いでせうか。統計は之を示し、又吾々の説を證明して居ります。錫蘭と印度の最近の調査に依れば耶蘇教信者、回々教徒、印度教徒、歐亞雜種人や佛敎信者等が犯した罪の比較表中各々より手當り次第に二百萬人を指摘するに、其五六年間の犯罪比較表は耶蘇教徒の十五に對して佛敎信者は四の比例を示して居ります(註22)。如何なる東洋學者、知名の歴史家、佛敎國の旅行家でも、即ち Bishop Bigandet や Abbe Hue より Sir William Hunter 其他公平なる役人に至る迄、一人として耶蘇教徒よりも佛敎信者の方が道徳の點に於て遙に優つて居ると云ふ事を否認するものはありませぬ。併し佛敎徒(少くも眞

の暹羅佛教派)は神も信せず、又此世以外の未來の果報は無いと信じて居る。彼等は——僧侶も俗人も——祈禱をしません。「祈禱などしますか、誰に又何に向つて祈禱するのですか」と彼等は驚いて問ふでせう。

九〇

〔註〕一八八八年四月發行の雜誌 L'Inde の一四七頁に「佛教に關する基督教徒の演説」と云ふ論文を見る可し。

問 夫では彼等は眞の無神論者です。

答 全く左様です。併し彼等は又地球上最も徳を愛し、又徳を守る人です。佛教では他人の宗教は之を敬ひ、自分の宗教は之を能く守る可しと言つて居ります。併し耶蘇教では他國の神は之を惡魔の如く非難し、異宗の人は皆地獄へ往く者だと言つて居ります。

問 佛教の僧侶も夫と同じ事を言ひませんか。

答 決して言ひません。彼等は法句教(Dhammapada)に在る教訓を能く守つて居るから、其様な事は言ひません。即ち「學者にまれ無學者にまれ、自ら誇りて他人を賤しむ者は蠟燭を持てる盲者の如し、己を暗まして他人を照らす」と云ふ事を知つて居ります。

人間靈魂の源

問 夫では、人間には靈魂が有ると云ふ事は何ふして説明が出来ますか、即ち靈魂は何處から來るのですか。

答 宇宙の靈魂から來るのです、決して人間の形した神が與へるのでは有りません。水母の水分子は何處から來るのですか、無論中で呼吸をして存在し、又溶解すれば夫に歸する所の海から來るのです。

問 夫では靈魂は神に依つて與へられ、神に依つて人間の中に吹き込まれると云ふ教に反對するのですか。

答 反對しなければならぬのです。創世記第二章第七節に言つて有る「靈魂」はあらゆる動物と同じく人間にも神(吾々の所謂自然と不變の法則)が與へる所の「生靈魂」、即ち希伯來語の *nephesh* 即ち動物靈魂で有ります。其靈魂は決して思考する「靈魂」或は「心」ではありません、況んや不死の精靈で無いのは勿論です。

問 夫では言ひ方を替へて質問しませう、人間に理性的不死の靈魂を與へるのは神ですか。

答 其質問の仕方が既に間違つて居ります。吾等は人間の形した神は無いと信じて居るのに、其無い神が人間に物を與へると言ふ事を何ふして信じる事が出来ませうか。今議論の便宜上此處に新たに生まれて來る赤子に各々新たに靈魂を作つて遣らうなどとする神が有るものと假定して見たならば其様な神には早既に自分に智慧も先見も無いと看做す外は無いのです。此説及び其神は慈悲、正義、公正、全知で有ると云ふ説とを一致せしむるのは不可能であり又他に矛盾の點もあるのですから此神學の獨斷は常に打ち壊されるのです。

問 何と言ふ意ですか。何んな矛盾が有りますか。

答 或る時私の面前でシンガリー(セイロン邊の人類)の有名な佛教僧侶が耶蘇教宣教師に向つて返答に困る六ヶ敷い議論を仕掛けた事が有るのを、今思ひ出しました。其宣教師は其様な問題を堂々と討論するに決して引を取る様な人では有りませなんだ。場所はコロムボの近くで有つたが、其宣教師は僧 Negitawati に向ひ佛教信者は何故耶蘇教の神を信じてはならんかと云ふ理由を聞かして貰ひたいと、問ひました。所で例の通り其宣教師は其有名な討論で例に依りて遂に負けました。

問 何ふして負けたのか聞きたいものです。

答 夫は何でも無い、慙ふでした。其僧侶は先づ前提に耶蘇の神がモーゼーに十戒を與へたのは、人間計りが之を守つて、神自らは之を犯すと云ふので有つたか何ふかと云ふ事を、其宣教師に問ひました。宣教師は其様な事は決して無いと怒つて答へました。そこで僧侶の言ふには「併し神の意思がなくなつて靈魂は決して生れる事が出来ない、此の規則には神は決して外例を設けぬと御説きなさる。今神は他の禁戒と共に姦姪を禁じて居ると貴君は言つて置ながら、直ぐ其口で生れる赤子は皆神が造るので其赤子に靈魂を與へるのも又神で有ると御説きでは有りませんか。夫では親が罪惡姦姪を犯した結果で生まれる幾千萬の子供は皆貴君の云ふ耶蘇の神が造るのだと云ふ譯ですか。又貴君の云ふ神は其設けた法律を犯す事を禁じ之を犯す者を罰し乍ら、其様な子供に毎日、毎時靈魂を作つて遣るのですか。平易な論理で言ふても貴君の神は罪の共犯者で有ると謂はねばならないのです。若し神が助も干渉もしなかつたなら、其様な穢い子供は生まれる筈は無と云ふ事は明かな道理です。神自身が爲た事の爲に、其有罪の親のみならず、無罪の子供迄を罰すると言ふは、正當な理由が何處に有るのでせうか。夫でも其神には罪が無いと貴君は御説きですか」と。此時に宣教師は時計を出して見て、突然もう時刻が晚くなつたから、後の議論は、又此次にしやうと言ひました。

問 其様な説明の出来ない場合は、皆神秘で有り、又神の秘密を探る事は、吾々の宗教に依つて
禁じられて居ると云ふ事を貴君はお忘なされた。

答 否、吾等は忘れて居るのではなくて、只其様な不可能の事を排せざるのです。又吾等が信じて居る様に貴君方にも信じて欲しいと云ふのでも有りません。吾等は只貴君の質問に答へる計りです。併し貴説の「神秘」と云ふことには吾等からは別名を附します。

以上に関する佛教の教

問 佛教は靈魂に就て、何云ふ事を教へますか。

答 其問は佛教の通俗の顯教を言ふのですか、又は其秘密教の事を云ふのですか、其意味次第に依ります。前者の教に依れば、人間は變化するもので有る、夫れ故に物質の點丈は永存しないものとせられて居る。併し生れ變る度毎に、現はれる新たな人格或は人我は Skandhas (五蘊) 即ち元の人我の屬性が聚合したもので有ると云ふ問題、又 Skandhas (五蘊) の此新しい聚合は元の分子が少しも残つて居ない、新しいもので有ると云ふ問題に至つては、其解釋は隱微の形而上學で有つて、決して靈魂否認説ではありません。

問 此様な事は秘密佛教に言つて有りませんか。

答 言つて有ります。何となれば此教は秘密佛教、即ち秘密の智慧と顯部佛教、即ち釋迦の宗教哲學に屬して居るのです。

問 併し大概の佛教信者は、靈魂不滅論を信じて居ないと云ふ事を、明かに聞いて居ります。

答 若し靈魂とは人我、又は「生靈魂」即ち希伯來語の Nephesh と云ふ意味ならば其不滅は、吾等も信じて居ないので。併し達學の佛教學者は誰でも我等の如く神的自己 (真我) を信じて居ります。信じない者は其判断が間違つて居るのです。其様な人が此點に於て間違つて居るのは、丁度永罰や地獄に就て聖書の編輯者が後に書き込んだ教を、耶蘇が言つた事と間違へて居る耶蘇教信者と同じ事です。釋迦も耶蘇も自分では何も書いた事は有りません。釋迦も耶蘇も比喻を用ゐて教へて居るので有ります。斯の様な教へ方は實際眞の得道者 (Initiates) が今迄用ゐ來つたものであるが、未來に於ても、失張り其の通りでせう。佛教や耶蘇教の聖書には其様な形而上の問題は餘程注意して書いて有ります。然るに佛教及び耶蘇教の書物は餘り顯教的で死文的の意味を濫用して人を誤まらして居ります。

問 夫では釋迦や耶蘇の教は今迄に正當に解釋されて居ないと云ふのですか。

答 私のこと

私のこと

九六

私のこと事は即ち今ま貴君の仰せの通りです。佛教や耶蘇教の福音は同じ目的を以て教へられました。釋迦も耶蘇も熱心な博愛者で利他主義を實地に行ひ、最も高尚な社會改良論を唱へて、徹到底尾犠牲主義を教へました。「人の禍を救ふ事が出来れば世の中の罪と穢は吾身一つに受けん」と釋迦は言つて居ります。又「吾が救ふ事の出来る人を余は泣かせはせぬ」と皇衣を捨て、墓場の襤褸を着た釋迦は言つて居る。又「重荷を負ふて働く者よ、余に來たれ、さらば汝に慰を與へん」とは頭を横たふ所さへなき耶蘇が貧人に與へた言葉で有ります。耶蘇や釋迦の教は人類に對する無限の愛、慈悲、寛恕、自我忘却、及不幸の人を憐む事です。兩者とも同じく富を賤しむ自分の物と他人の物との區別を致しません。彼等の希望は秘密正受 (Initiation) の神秘を人に洩さないで、愚癡の凡夫と世を過つて果敢なめる人に希望を與へ、眞に導き、悲の時に救を與へる事で有りました。併し此兩者の目的は彼等の弟子等の熱心が過ぎた爲に、挫かれたので有ります。大智識の言は誤解誤釋されて、其結果は今日の様な有様で有ります。

問 併し若し東洋の學者及僧侶が左様云つて居るならば、釋迦は急度靈魂の不滅を認めなかつたに違ひ無いのです。

答 釋迦の弟子等は初めに釋迦の主義を守つたが、彼等の教に従つた僧侶の大多數は、丁度耶蘇教徒と同じ様に、其教の奧義を正受せなんだ。夫故に段々と其大奧義の眞理は殆んど失はれる様に成りました。其證據には錫蘭に二つの宗派が有る、其中の暹羅宗派では死と云ふ事は眞我及び人我の全然消滅なりと信じ、又他の宗派では吾々靈智學者と同様に涅槃を解釋して居ります。併し夫れでは、何故に佛教と耶蘇教は、其様な正反對の教を代表して居るのですか。

答 其譯は佛教と耶蘇教とは布教された時の境遇が同じでなかつたからで有ります。印度では波羅門 (Brahmins) が己れの勝れたる智識を誇り、其階級外の人には誰にも之を教へないで、幾萬と云ふ多くの人に偶像崇拜や凡物崇拜を注ぎ込んだので有ります。そこで釋迦は無智識から起る古今未曾有の不健康の妄想や狂的迷信の蔓延を防止しなければならなかつたのです。神に訴へても聞かれず相手にせられないで、精神的絶望の中に世を送る人々には其様な蒙昧な崇拜よりも、寧ろ哲學的無神論の方が優つて居ります。釋迦は何よりも先に、此迷信の毒流を堰き止め、眞理を教へる前に先づ誤信を絶やさなければならなかつたのです。而して釋迦は其眞理を皆教へる事が出来なかつたが爲に、餘り用心して多くの事を秘密にして置きました。其譯は丁度耶蘇が天の秘密は無智の人民には分らず、只だ特選の者計りに分る事で有るとで、弟子等に教へ

一般の人には譬喩で(馬太第十三章第十及十一節)説教した通りで有ります。釋迦は僧Vaecchingot-
に人間「自己」の有無をさへ教へなかつた位です。無理に問はれた時に彼は只沈黙を守つて
居ました。

釋迦は其の奥秘授傳の弟子 Ananda が此沈黙の理由を問た時に、意味明瞭なる答をしました。
其對話は Oidenburg が Samyuttaka Nikaya と云ふ經から譯出して居ります。即ち『Ananda(阿
難)よ、若し余が旅僧 Vaecchingotta に「我」と云ふものは有るかと問はれた時「我は有る」と答
へたなら「無窮」を信じて居る Sunamus や婆羅門(Brahmanas)の教義を確定して遣つた事にな
る。若し旅僧が「我」と云ふものは無いかと問ふた時「我は無い」と答へたならば「消滅」を信
じて居る人々の教義を確定して遣つた事になる。若し旅僧が「我は有るものか」と問ふた時
「我は有る」と答へたならば、夫で彼は一切の「存在」(Dhamma)は「無我」で有ると云ふ事を
會得して、余の目的に適つたで有らうか。併し若し「我は無いものだ」と答へたならば旅僧は
益々迷ふ計りで「余の我は前には存在して居たのに、今は最早存在しない」と思ふ様に成るに
相違ない。』
之に依つて見れば、釋迦が人々に此様な六ヶ敷い形而上教義を教へなかつたのは、彼等を益々

迷はさない様にする爲で有つたと云ふ事が最も善く分るので有ります。彼の言つた事は「人格
的一時の我」と「不死の我」即ち人間の「精靈的我」を照す「上位自己」との區別を言つたので有
ります。

問 之は釋迦の言ふた事を指すのですが、聖書に何の様な關係が有りますか。

答 歴史を讀んで宜く考へて御覽なさい。聖書に書いて有る事柄が起つたと云ふ時代に、文明國
到る所に、同じ様な思想の勃興が有つた、併し東洋と西洋とで反對の結果を生じました。
古い信仰は段々と廢たれて來て、文化した方の人々は、彼の頑迷なるサドカイ人の轍を追
ひ、パレスタインでは物質的斷無の見や、又死文的の猶太教に迷ひ込み、又羅馬は道德頹廢の
渦中に捲込まれ、又下等の人々は、魔術や奇怪の神に夢中と成り、或は偽善者と化する者あ
り、尙夫以上に墮落したものも有ります。そこで精神界改革の時機は、再び到來して居た。彼の
猶太人の人間の形せる殘忍、猜疑にして嫉妬深い神は第二位に下げ、慈悲深い「隠れた神」を之
に代へなければならなかつたのです。併し此「隠れた神」は宇宙外の神として、はたなく、貧富を
問はず、人の心魂に宿れる、人間の神的救主として現はされなければならなかつたので有ります。
併しパレスタインでも印度と同じく奥義の秘密を現す事は出来なかつた。如何となれば、

若し犬の様なものに神聖な事を教へ、又猫の様なものに小判の寶を遣つたならば、示現する人も示現其ものも共に一文の價値も無いと卑まれる恐が有つたからで有ります。此様に釋迦や耶蘇が秘密を現はさなかつたが爲に（耶蘇は歴史で云ふよりも長生きをしたにせよ、せぬにせよ、彼は釋迦と同じく生と死との秘密を現示せなんだ）佛敎の方では、南方佛敎の一切を斷無する見解に陥らしめ、又耶蘇敎の方では耶蘇敎會の三大反對敎派が出来、英國の新敎計りでも宗派が二百も出来たので有ります。

第六章 自然と人間に關する靈智學の敎

萬物唯一論

問 神、靈魂及人間に就て貴君の消極的意見は聞きましたが、之等に關する靈智學に説く積極的の敎を聞きたいものです。

答 此三つのもの、即ち神、靈魂及人間は、其根元と無窮の點に於ては、宇宙及び宇宙の萬物と同じく「絶對唯一」、即ち以前云ました、不可解の「神的本因」と同一のもので有ります。吾等は

宇宙創造説を信じません、併し宇宙が莫大の時を経て、定期に主觀的狀態から客觀的狀態に幾度も現れ出るものであると信じて居るのです。

問 夫れを精しく説明して下さいませんか。

答 正確な理解の一助とする爲め、先づ太陽年を第一の比較に取り。夫から第二の比較としては北極で、晝と夜が六ヶ月間宛續く如く其太陽年を、晝夜の二つに分かつて御覺なさい。其次には三百六十五日の太陽年の代りに、「無窮」と云ふものを想像して御覺なさい。夫から太陽を宇宙とし、又各六ヶ月の北極の晝と夜とを唯の百八十二日づつとせず、各百八十二無數年づつに勘定して御覺なさい。左様すると太陽が吾等の脚底相對の所から、吾等の見る地平線上に毎朝昇る如く、宇宙は相對せる主觀的地位から出て、客觀的地位に時を定め、現はれるので有ります。之が即ち「生の循環期」と云ふものです。而して太陽が吾等の見る地平線上から見えなくなると同様に、宇宙も時を定めて隠れます。其時は即ち「宇宙の夜」が來るのです。印度人は斯様な變化を「Brahma (梵)の晝夜」即ち Manvantara (摩奴期)及 Pralaya (退化)の時期と言つて居ります。西洋の人は其變化を「宇宙の晝夜」と言つても宜しいのです。後者即ち夜の時期には萬物は皆唯一に成る、即ち總ての物は悉く同質のものに歸して仕舞ふので有

進化及幻影

問 併し其度毎に宇宙を創造するものは何者ですか。

答 誰も宇宙を創造するものではありません。科學では其方法を進化と言ひ、耶蘇以前の哲學者や東洋學者は夫を「發現」と言つて居ります。吾等秘密學者や靈智學者は之を唯一の宇宙的及永久的「實在」と云ひます。其「實在」は期を定めて無限の「空間」に自分を映すのであります。貴君方が「物質的宇宙」と云ふ此反映を、吾等は一時の幻影に過ぎないものと思つて居るのです。如何となれば、永久のものでなければ、「實在」とは云はれませんから。

問 夫れでは貴君も私も又幻影で有りますか。

答 始終變つて居る「人格」としては左様です。北光の閃光は見た所では現實に相違無いが、之を「實在」と貴君方は言ふでせうか、決して言はないでせう。若し無窮で有るならば、其北光の原因が實在で有つて、其結果は只一時的の幻影に過ぎないものです。

問 併し之を聞いた計りでは、宇宙と云ふ此幻影か何ふして起るのか、私には未だ分りません。

即ち「知覺」に成るものが、無知覺のものから、何ふして現はれるのか、分りません。

答 其「無知覺」と云ふのは、只吾等の有限知覺にのみ無知覺で有ります。聖書のセントジョン第一章第五節を言ひ直せば、實に「絶對の光」(吾等には暗黒なる)は暗黒(幻影的物質の光)に輝き、其暗黒は其光を認めず」と云ふ意味に成るのであります。此絶對の「光」は又絶對にして、不變の法則です。宇宙は「發光」或は「發現」に依つて其純一の主觀態から、第一段の發現に移ります。其發現の段階が七つ有ると言ふ事です。其段階を経過する度毎に宇宙は段々濃密に、又物質的に成つて、終には、此の吾等の世界の狀態に達するので有ります。併し今の此段階に於ける世界で、科學により其物質的構造の主要を理解されて居る部分は、遊星系統即ち太陽系統計りです、其太陽系は只一種のもので外に類似せるものは無いと云ふ事です。

問 一種とは何ふ云ふ意味ですか。

答 其意味は自然根本の法則及其法則の宇宙に亘る活動は一樣で有るけれども、吾等の此太陽系は——宇宙に於る無数の他の系の如く又吾が此地球の如く——其發現する物の取合が特種で有つて總て他の系の取合とは違つて居ると云ふ事です。世の人は他の遊星にも生物が住んで居ると言ひ、若し其ものが思考力の有るもの、即ち人間で有るならば、吾々の様なものに違ひ無いと

申します。詩人や畫家や彫刻家が天使を想像して之を表すには、必ず美しい人間で、それに翼が附けて有ります。吾等が言ふと此様な事は、皆間違つた幻想で有ります。如何となれば、此の小さい地球上計りでも、植物は海草から杉の樹、動物は水母から象、人間は黒人から羅馬法王宮のベルベデルに在る希臘の Apollo (神像の如き姿色秀麗なる人間) に至る迄、様々の變體が有つて、宇宙及遊星の状態が變るならば、其結果として、植物や動物や人類も全く異つたものが有るに違ひないので。同じ法則で、太陽系の諸遊星も合んで居る此吾等の宇宙段階にでも全く異つたものが出来た。して見れば他の太陽系に於ける自然界は、尙更異つて居るに違ひ有りません。それ故科學がする様に吾々の見る星や世界や人間を標準として他の星や世界や人間を判断するのは、實に馬鹿らしい事で有ります。

問 併し何ふ云ふ論據が有つて其様な斷定をお下しなさりますか。

答 其論據は一般の科學では決して證據として認めぬものです。即ち古來無數の達觀者が段々と證明を重ねて來て、此事實を證據立て、居るものです。彼等の靈性の天眼に映じたるもの——即ち肉體の盲障を受けない心靈的、靈性感覺——に依つて實際に探知したものを正確に比較し、又其性質を吟味したものであります。左言ふ經驗が皆な一致しないで、證明の出來ぬ

ものは、總て之を取除き、時の古今場所の東西に拘はらず、不絶觀察をした結果、一致して居る而已ならず尙ほ夫以上の證據が擧るものでなければ、眞理としては確定して居ません。吾々心靈學者や研究者が用ゐる方法は、普通科學の研究者が用ゐる方法と異なる所は無いです。只吾等の研究の區域が違ふて居るのです。又吾等の用ゐる器械は人造の物では有りません。此點から言ふと吾々の器械は恐らく一層正確なものかも知れません。何となれば、科學者や博物學者の器械は歪ふ事があり、又天文學者の望遠鏡や計時器は毀れる事が有ります。併し吾等の用ゐる器械は氣候や水火の影響を受けることは有りません。

問 夫では之を全く信仰なさるのですか。

答 信仰と云ふ語は靈智學の字典中にはありません。其事を吾々は觀察と經驗に基づいた智識と云つて、其間には次ぎの差異が有ります。即ち科學の觀察と經驗は之を研究する人の數だけ多くの「假設」が有ります。然るに吾等の所謂「智識」は明白に成り、且つ何處迄も十分に證明されたものでなければ其領分に加へません。吾等の「智識」で云ふと、同じ問題に就ては信仰も假設も一つで有て二つで無いのです。

問 其様な論據に依つて貴君は昔の靈智學の書物に書いて有る奇妙な理論を信する様に成つたの

ですか。

答 全く左様です。此等の理論は其枝葉に於ては少しく正確を缺く點もあり、且つ普通研究者の説明には間違ふた點が有りもしませう。併し其理論は自然界に於ける事實で有つて、如何なる科學的假設よりも眞理に近いものであります。

地球は七部より成ると云ふ説

問 貴君は此地球は幾箇かの地球が連鎖して居る其一部分で有ると仰つしやる様ですが、左様ですか。

答 左様です、併し他の六つの「地球」は、吾等の此地球と異なる客觀的狀態にあるのです。夫故に他の六つの「地球」は見る事が出来ません。

問 夫は距離が非常に遠いからですか。

答 決して左様ではありません、吾等の肉眼で遊星のみならず、夫より遙かに遠い星さへも見る事が出来ます。其見えない譯は、其六つの地球が肉體的の觀察力、即ち此の物質的存在以外に在るからです。其物質的密度、重量、構造は吾等の地球や他の遊星のもの、全

く異なるのみならず、云はば、其空間に於ける「層」が、吾等から言ふと、異つて居るからで有ります。即ち其「層」は吾等の肉體の感覺で分らないもので有ります。私の「層」と云ふは、重なつて居る地層の様なものだと、想像しない様に願います。如何となれば其様なものと思ふと、只誤解を重ねるのみとなります。私の言ふ「層」は無限の空間の段階で有つて、其性質は吾等尋常覺醒中の精神的又は肉體的感覺にては、分らぬもので有ります。併し吾等の普通知識以外の自然界に存在して居て、吾々が云ふ「空間」や時の觀念以外にあるものです。空間の七つの根本的層は各其客觀及主觀的狀態、其場所と時、其意識、及び感覺が備はつて居ります。が、無論其空間は大體に於て Locke (と云ふ人) の定義の「純空間」として論ずるので、吾等の有限空間としてではありません。併し此事は現今の考へ方に育て上げられた人には理解し難いでしょう。

問 各異つた感覺とは何ふ云ふ意味ですか。此人間界に貴君が御説きの事を例證するものがありますか、即ち今云はれた「空間」や感覺は如何なるものですか、一層明白に説明する事が出来ませんか。

答 説明せんとすれば、只反對の説を唱へる機會を今の科學に與へるのみです。夢では吾等の感

覺は違つて居りませう。夢では吾等の五感其他一般の動作が通常とは其狀を異にして居ます。夢中に於ける吾等の意識狀態が異つて居る事は次の事實に依つて證明が出來ます。即ち幾年間にも亘る種々の出來事が、吾々の心中では一瞬間に起るのです。斯の如く吾等の心及其他の動作が非常に迅速で有ても、夢ではそんな事が自然に見へるのは、吾等が全く別天地に居る事を示すものであります。吾等の哲學に依れば、自然界に、七つの根本動力と七つの存在段階が有る如く、人間が生存し、思考し、記憶し、其存在を有する段階も七つ有ります。併し之を此處に列擧する事は出來ません。之を知らんと欲する人は、東洋の形而上學を研究しなければなりません。併し哲學者から野蠻人に至る迄人間には此現と夢との二つの狀態が違つて居ると云ふ事は誰にでも能く分つて居ります。

問 夫では生物學や生理學で夢の狀態を普通に説明して居る事をお信じになりませんか。

答 信じません、吾等は心理學者の憶説を排して東洋哲學の教を信じます。大宇宙に就て、宇宙的的存在及意識の狀態が七つ有ると云ふ事を信じますが、之を論ずるには、第四の段階で止めて置きます。如何となれば夫以上は確實の研究をする事が出來ないから有ります。併し「小宇宙」即ち人間に關しては、其七つの狀態及本因を自由に考究する事が出來ます。

問 何ふして其狀態及本因を説明しますか。

答 先づ、第一に人間には全く異つた二つの「性」、即ち靈及び肉體の「性」が有ります、之を言ひ替ふれば、思考する「人」と、其思考した事を成るべく同化する「人」との二つで有ります。夫故に一人の人間を全く異つた二つの性質に分けます、即ち三つの本因から成る、上位の靈性的なもの、四つの本因から成る下位の肉體的のものと有ります。夫で兩方を合はして七つに成るのです。

人間の七性

問 人間の「七性」とは吾々の所謂精神、靈魂及肉體の事ですか。

答 左様では有りません。夫は昔しのプレートに分け方です。彼は秘密正受の人で有つたから禁秘の細かい點を教へる事が出來なかつたのです。併し昔の哲學に通じて居る人は靈魂精神の種々に結合することを論じたるプレートの文中に其七性の事を合んで居ると云ふ事が分ります。彼は人間は二つの部分から成り立つて居ると致しました、即ち一つの部分は永久で絶對と同一の性から成るもの、他の部分は死して朽つ可きもので、其成分を「下位の創造された神」

(“Created” Gods) から受けるものであります。プレート上の証明に依ると、人間は「第一」死す可き肉體、「第二」不死の本因、「第三」死滅す可き分立せる一種の靈魂で有ります。吾等は其三つのものを「第一」肉體的人間、「第二」精神的靈魂(希臘語 nous)、「第三」動物の靈魂(希臘語 psuche)と云ひます。之は別の正受者なるホルルの分け方で有ります。其ホルルと云ふ人は、腐朽す可き肉體の中に「心靈體」が含まれて居り、又腐朽せざる物質に「靈性體」が有ると主張して居ります。聖書のムジエームスの第三章第十五節にも此事を證明して有ります、即ち吾等の(劣等なる靈魂の)「智慧」は、天から授けられたものでなくて、下根下界のもので有り、他の「智慧」は高尚で天上のもので有ると言つてあります(希臘語の聖書を見よ)。扱て、プレートやピタゴラスも此の三つの本因のみを論じて居るけれども、其種々の結合に七つの相異つた役目有りとして居る事は明かであり有ります。夫れ故吾等の教と對照して見るならば、此事は全く明白になります。此等七つの状態を略表にして左に示しませう。

靈智學に於ける分け方

梵語	普通の意味	説
<p>(一) Rupa 或は Shidala Shirira (二) Prana (生氣) (三) Linga Sharira. (四) Kama Rupa (欲色)</p>	<p>(一) 肉體 (二) 生の本因 (三) 靈氣體 (四) 動物的情慾の中心</p>	<p>(一) 生存中に總ての本因を包括するもの。 (二) 一、三、四及下位の Manas(意)の働きの必要で、其の Manas は肉體的腦髓に限れる總ての働を含む。 (三) 複體即ち靈氣體 (四) 之は動物的人間の中心で、死すべき人間と不死の實在との區畫線がある所である。</p>
<p>(五) Manas—上下二の官能を有する本因(意)</p>	<p>(五) 心、智力、人間の上位の心。其の光が生存中 Manas を死すべき人間に連鎖する。</p>	<p>(五) 人間の未來と因果應報は Manas が動物的情慾の中心なる Kama Rupa の方へ墜落するが、又は靈性自我なる Buddhi の方へ向上するかに依る。後者の場合に於ては Manas の上位の向上心は Buddhi と同化し、又之に吸收せられて Devachan (註3) の状態に居る「自我」に成る。 純粹の宇宙靈魂の機關。 純粹の光で「絕對」と同様なもの。</p>
<p>(六) Buddhi (七) Atma (至高魂)</p>	<p>(六) 靈性靈魂。 (七) 精靈(Spirit)</p>	<p>(六) (七)</p>

〔註23〕或る書物で靈智學研究者は(四)(五)(六)を夫々動物の靈魂、人間の靈魂、靈性靈魂と謂つて居るが、夫でも同じ事です。本因には普通番號を附けて有るけれども、實際には無益で有る。最高の番號六、七と番號九事が出来るのは、Atma BuddhiなるMonadのみで有る。各人間の最も強い本因を、第一番と看做されればならぬから、總て他のものには一般の法則として、番號を附る事が出来ない。或人には第五番目のManas、即ち上位の智慧が他の本因を支配して居る。又或る人にはKama Rupaなる動物的靈魂が、勢力を逞ぶして、甚しい状態などを表して居るので有る。

扱てプレートは何ふ云ふ事を教へて居りますか。プレートは内身の人間は二つの本因から成つて居ると言つて居ります。一つは「神」と同じ實質(substance)から出来、常に同一にして不變のもので有り、又他のものは死滅腐朽す可きもので有ると言つて居ります。此の二つの本因は右に擧げた表中、上位の三本因及下位の四本因に含まれて居ります。プレートの説明に依ると人間の「靈魂」(psyché)がNous(神的精神或は實質 Substance) (註24)と一致する場合には何事も正しくします。併し「靈魂」がAnoia(愚或は非理の動物的靈魂)と一致する場合には何事も正しく致しません。此説明にはManas(或は靈魂の二つの状態が表はして有る、即ち靈魂がAnoia(吾々のKama Rupa)或は動物的靈魂とも云ふ)に一致する場合には人我としては、全滅に傾くものであります。併し靈魂がNous(Atma Buddhi)に一致する場合には、不死我に這入て、其

元の人格の靈性的意識が不死に成ります。

〔註24〕Nousはプレートの云々Nousを「靈魂」(spirit)と謂つて居る。併し此の靈魂は「實質」(substance)で有る。故に無論Buddhiの事を言つたのでAtmaの事では無い。何となれば後者は哲學上では、如何なる場合でも「實質」とは言はれない。吾々がAtmaを人間の本因の中に入れる譯は、繁雜を避ける爲で有る。併し實際Atmaは、人間の本因でなくて、宇宙絶對の本因である。Buddhiは其Atmaを成るもので有る。

靈魂と精神との區別

問 或る亡魂論者が非難して居る通りに貴君方は人我は悉く消滅して仕舞ふと實際教へて居りますか。

答 教へて居りません。吾々の反對論者が、此様な妄誕な攻撃を始めた譯は、神的我の無人我と動物的人間の人我との、此の複性の問題は眞の不死の自我が、爲形幽魂と成つて魂呼の會室(stance room)に現はれ得可しと云ふ事と關係が有るからです。併し此事は吾等は前に述べた通り否認するので有ります。

問 靈魂が若しanoiaと一致するならば、全滅に至ると仰つしやいしましたが、プレートや貴君方は此事を何ふ云ふ意味で言ふのですか。

答 人格的意識の全滅は、例外で、滅多に無い事だと私は思ひます。殆んど一般に定つて居る場合は、人格の意識が冥我即ち不死の意識に這入つて、化成或は神的變容を來たすのであります。而して下位の四本因のみが、全滅して仕舞ふので有ります。夫でも肉體の人間、即ち一時の自我、其靈氣體、其動物的本能及肉體生命は精神的自己と共に殘存して、無窮に成るものと思ひますか。自然の理として、此等は肉體が死ぬると同時に或は死後間も無く、消滅します、即ち遂には全體としては消滅して仕舞ふので有ります。

問 夫では肉體の復活も又信じませんか。

答 夫は無論信じません。吾等は古代の秘密哲學を信じて居るのに、何ふして埃及や希臘のノスタック派の顯教から取つた耶蘇教神學の非理を信する譯が有りませうか。

問 埃及人は氣鬼を崇め、葱をさへも神にしました。例の印度教信者は今日に至る迄も偶像を崇拜して居ります。又、ゾロアスタル教の信者も、昔から太陽を拜んで居ります。希臘の最も偉い哲學者、即ちプレートトやデモクリタスは夢想信者に非れば唯物論者で有ります、貴君方は何ですか。

答 所謂近世の神學や科學の書物では、左様書いて有りもしようが、公平の人が云へば左様では

有りません。埃及人は「唯一」(the "One-Only-One")を崇めて Nout と稱して居りました。而して此の Nout と云ふ語から Anukagnos が nous と云ふ名稱を取つたのであります。即ち之を「自能的精神」或は「主動力」と言つて居ります。彼れの言ふ nous は神で有つて、logos は神の發現した人間で、nous は宇宙或は人間の靈魂で有ります。ロゴスは宇宙なるにもせよ又靈氣體なるにもせよナウスの發現にして肉體は只動物性に過ぎないので有ります。吾等の五感や物體の現象を知覺し、吾々の nous のみが現象の實體を認知し得るので有ります。而して殘存するものは logos、即ち實體計りです。其譯は其本質が不死で有るからで、人間の logos は無窮の「我」であります、即ち生れ變つて永久に存在するものです。然るに消滅す可き下位の幻影、即ち其根元に歸する神的發現の一时的外皮が何ふして無窮で有る筈が有りませうか。

問 夫でも矢張り貴君方は人間の精神的心靈的組成分に就て新分析法を作り出したと云ふ非難を免かれる事は出来ないでせう。如何となれば、其んな分析法をする哲學者はないけれども、プレートトはして居ると貴君方はお信じなさる様です。

答 プレートトは左様教へて居ります。プレートトのみならず、ピタゴラスも、其分析法を採用して居

ます(註25)。ピタゴラスは靈魂は三元、即ち Nous(魂 = spirit)、Phren(心 = mind)及 Thumos(生或はカバラ教徒の Nephesh)から成り立つて居る自動の唯一 (monas) で有ると言つて居ります。其三元は吾等が言ふ Atma-Buddhi (上位の精神—靈魂)、Manas (the ego = 自我) 及 Manas の下の部分と結合したる Kama-Rupa に一致して居ます。昔の希臘の哲學者が靈魂と稱へたものは、一般に吾等は魂 (Spirit) 或は靈性魂 (Spiritual Soul) と云ひます。即ち Atma を傳へる Buddhi 及 Phren が至高の神と云ふ To Agathon で有りませす。ピタゴラスや他の哲學者が Phren 及 Thumos は人間にも動物にも有ると言つて居る事實から見れば、此場合では下位の Manas 見た様なもの(本能)及 Kama-Rupa 即ち動物的情慾(情慾)を指して居ることが分ります。而してソクラテスやプラトーンが此端緒を探り之に従ふた如く、若し此の五つのもの、即ち To Agathon (神或は Atma)、Panche(廣い意味の靈魂)、Nous(靈或は意)、Phren(物質心)及 Thumos(Kama Rupa 即ち情慾)等に秘密教の Didolon(即ち幻像若くは人間の複體)及肉體を附け加へて見るならば、ピタゴラスとプラトーンとの思想は吾等のと同一で有ると云ふ事を、容易に證明する事が出来ます。埃及人でも七重の分析法を信じて居ました。彼等の教に依ると靈魂(即ち我)が離れ出るのには跡に残して行く本因及一所に携へ行く本因とを七つ經ねばならぬのです。只異な

る點は彼等は秘密教を洩したならば、死刑を受けると云ふ事を何時も記憶して、其要點計りを教へたのですが、吾等は之を布衍して精しく説明するのであります。併し吾等は規則の許す限りは、教へて居りますが、吾等の教にも矢張大切な部分で教へない所も有ります。此所は秘密哲學を研究する人で緘を約束したものでなければ教へられないので有ります。

〔註25〕 プルタークは「プラトーン及びピタゴラスは靈魂を理性的(noetic)及非理性的(ignora)の二つの部分に分つて居る。人間の靈魂の理性の方は、無窮で有る。如何となれば其ものは神で無けれど、無窮の神から出来たもので有る。併し靈魂の理性を取り去つた部分(agnora)は消へ失せる」と言ふて居る。
近世の不可思議論者と云ふ語は、Agnora と同原の A-gnosticos と云ふ語から起つたので有る。其語を造つたハックスレー氏は何故に自分の大なる智力を理性を取り去りたる死す可き靈魂と言つたでせうか、之は近世唯物論者が餘り謙遜し過ぎるのでせうか。

希臘教

問 世に希臘、羅甸、梵、希伯來語の立派な學者は有るが、彼等の翻譯書には、貴説の解釋となるべきものが何も無いのは何ふ云ふ譯ですか。

答 其譯は例の翻譯者等は、大學者なるにも拘はらず、其哲學者(特に希臘の哲學者)の奥義の

意味を能く解する事が出来なかつたからであります。一例としてブルータクの人間の本因論を讀んで御覽なさい。其翻譯者は彼が言つて居る事を文字通りに解釋して、之を形而上學の迷信、無智に依るとして居ります。ブルータクから取つた一例證を擧げて見ませう、「人間は複合物であるが、之を只二つの部分から出来て居ると思ふ人は、間違つて居る。如何となれば此の様な人は理解力〔即ち腦の力〕は靈魂〔即ち上位の三本因〕の一部分で有る様に思つて居る。併し此の點に於て、彼等の間違つて居るのは、丁度靈魂を肉體の一部分と思つて居る人〔即ち其の三位を死滅腐朽す可き下位の四本因の部分と思つて居る人〕と同様で有る。如何となれば靈魂が肉體よりも優つて居るのは、丁度理解力〔nous〕が靈魂よりも、優つて居ると同様で有るからである。扱て靈魂〔psuche〕と理解力〔nous〕との結合が理性と成り、又靈魂と肉體〔humus 動物靈魂〕との結合は情慾に成る。一方は快樂と苦痛との根元で、他の一方は徳と罪惡との基で有る。人間は此等三つの結合したるものより肉體を地球から受け靈魂を月から受け、理解力を太陽から受けて居る」と言つて居る。此終りの所は、全く比喩的の有つて、符合學理の奧義に通じ、又何の遊星が人間本因の何れにも關係して居るかを知らなければ、之を解する事が出来ないのである。ブルータクは本因を三部に分つて居ります。其第一部は人身即ち肉體、靈氣

體及び氣の結合で有ります。之は地球から出て地球に歸する下位の三本因です。第二部は月から受けて月〔註26〕の影響を被る中本因及本能的靈魂で有ります。第三部は Atma 及 Manas の分子の有る靈性魂〔Buddhi〕なる上位の本因で有ります。而して至高の神〔To Agathon〕を代表する所の太陽から直接に發現したものは之のみであると言つて居ります。

〔註26〕 生命と子孫を生ずるエホヅー(神)の月に對する關係及月の生殖に及ぶ影響を知つて居るカメラ教徒は此の點を解するで有らうし、又或る占星學者も之を解するでしよう。

此の事はブルータクが次ぎに言つて居る事に依つて明らかであります。即ち「人間が死ぬると、其の三つの本因は二つ残る。而して又死んでから後に、只一つに成る。其死ぬる事は Demeter の支配に依る、夫れ故に秘密教に附けた名稱は死に附けた名稱に似て居つた。夫れ迄は、アゼン人も死んだ人は Demeter に捧げられた様に思つて居つた。其死後に分れる事は月、或は Demeter sephone の領分に屬す。」と言つて居ります。之は吾等の教の通りで有つて、人は生存中七本因を有し、死後欲界〔Kamaloka〕で五本因に成り、而して天國〔Devachan〕では三本因即ち自我、靈性魂及意識に成ると云ふ事を示して居ります。此分離は一番最初にブルータクの所謂「冥途の草地」〔Meadows of Hades〕なる欲界〔Kamaloka〕で起り、夫れから天國〔Devachan〕で起

る、それは神聖秘密儀式中に行なはれたもので有りませす。其時に得道の候補者は、聖化したる精神即吾々の所謂意識と成つて、死及復活を演じたものであります。次のブルータクの云ふ事は即ち此意味です。『Hermes (希臘の神名)は一時淨世的狀態及天國的狀態に留まる。死は肉體から靈魂を俄に奪ひ去るが Proserpina (死後の分離の意味)は靈魂から精神を徐々に分つ(註27)。夫れ故に Proserpina (死後の分離)は Monogenes 即ち「獨子」で有る、若くは寧ろ「獨子を生む」と云ふ意味で有る。何となれば人間の上位の部分は、死後の分離に依つて孤獨と成る、死及死後の分離は天理に依つて起る。總て人間の靈魂は悟性(心)が有つても無くても、肉體から離れた時には——其間の長短は有るけれども——地球と月との間〔即ち Kamaloka〕(註28)に徘徊する様に運命(Fatum 或は Karma)に依つて定まつて居る。如何となれば、罪惡を犯した人は、相當の罰を受ける。併し道徳を行ふ善人は、肉體の穢れが無くなる迄、其處に留めて置かれる。後者は「冥途の草地」と言へる最も溫靜な處に定時の間留まらねばならない。夫から丁度長旅から本國へ歸へる様に神聖なる秘密教の得道者が常に受ける様な歡喜を得る。其歡喜には思案、崇拜及び各自特種の希望などが混じて居る』

〔註27〕 Proserpina 或は Persephone は此の場合では死後のカルマの意味で有る。此のカルマに依つて下位の

本因が上位の本因から分離される、即ち Kamaloka に一時留まる Nephesh、即ち動物性的の氣が天國(Devachan)の狀態に進入する所の上位の複合自我から離れるので有る。

〔註28〕 消滅する迄 Kamaloka に留まつて居る所の下位の本因から上位の靈性本因が離れる迄。

之は涅槃の冥福で有つて、何んな靈智學者でも Devachan の精神的愉快を秘密的ながらも之より明らかに言ひ表す事は出來ないのです。其 Devachan では誰でも、自分の意識で作つた極樂が有るので有る。併し之れに就ては吾等靈智學者でも、随分陥る普通の過を用心しなければなりません、即ち人間は初めは七本因、夫から五本因、又夫から三本因に成るもので有るとは云へ、七、五或は三の實體より成り立つて居るものと想像してはなりません。又或る靈智學者が能く形容して居る通り、其實體は葱の皮を重ねた様なものではありません。〔死すると消ゆる肉體、生及び靈氣を除けば〕本因は前に述べた通り、只意識の異なつた狀態に過ないもので有ります。眞の人間は只一つで生の循環期に持續し形は死すとも本因は不死のもので有ります。之が即ち意(Manas)、「心人」或は形態に宿る意識で有ります。物質がなければ心と意識は活動する事が出來ないと云ふ唯物論者の反對論は、此場合では取るに足りません。吾等は彼等の議論が間違つて居るとは言はないけれども、彼等に一つ聞きたい事が有ります、即ち「今迄は物

質の状態は只だ三つの外知らなかつた貴君方は、それ以上の總ての状態を知て居りますか。而して又永久見る可らず解すべからざる「絕對意識」(ABSOLUTE CONSCIOUSNESS) 或は神と、吾等が言ふ所のものは人間の限有る概念が及ばないでも矢張り絕對、無限程度に於ける宇宙的靈性物質、或は物質靈性で有るか、之が何ふかして分かりますか。夫では幻影的極樂にせよ、天福の状態を自ら作り出す所の意識ある自我は「大輪期」中に此靈性物質の分裂したる最下位の分子の一つで有ります。

問 併し Devachan とは何んなものですか。

答 文字通りに言へば「神の國」即ち心の「福」の一状態で有ります。哲學上で言へば夢に似て居る心の状態で有るが、夢よりも遙かに實際的で有ります。之は大概の人間の死後の状態です。

第七章 死後の状態

肉體的及靈性的人間

問 貴君は靈魂不滅を信じて居られると聞いて喜ばしく存じます。

答 「靈魂」でなく神的精神の不滅、否な寧ろ生れ變る自我の不滅を信じて居るのです。

問 其れには、何れ程の差異が有りますか。

答 吾々の哲學では非常な差異です。併し此の問題は、奥妙で六ツかしい問題ですから、輕々しく論せられませんか。之を論ずるには靈魂と神的精神を一つ宛分解し、それから又結合して論じなければなりません。先づ精神の方から始めませう。吾等の説では「精神」即ち耶穌の言ふ「隠れたる父」或は至高魂(Ahman)は人間が各特有して居るものでなく、體も形もない神の本素で之を量り之を見又之を分つとの出來ぬ佛教で所謂涅槃の道を申す如く、存在せぬと然かも有るものです。其の「精神」は、只人間を照すばかりです。人間の中に這入り、全身に行き亘るものは其の遍在の光線、即ち光で有つて、それが Buddhi を通じて發射して居るのです。而してブデイはアトマンの機關であり、之より直接に發輝したものです。之は昔しの殆ど凡ての哲學者が説いた奥義の意味です。其の奥義とは即ち人間靈魂の有理性(註29)の部分は人間の中に全く這入り込むものではなく只「無理性」(註30)の靈性魂即ち Buddhi を通過して人間を多少照すに過ぎないので有ります。

(註29) 廣い意味で有理性とは「永久の智慧」から發現するものを云ふ。

〔註30〕 無理性とは「宇宙心」の純粹の發現として此の物質の世に於ては自分特有の理性を有たぬと云ふ意味で有る。併し月が太陽から光線を借り、地球から生を受ける如く Buddhi は至高魂 (Atma) から智慧の光を受け、意 (Manas) から有理性の性質を得る。其物一箇丈では純一無雜で特有の性質は無い。

問 動物靈魂のみが無理性で神的靈魂は有理性で有ると私は思つて居ました。

答 分化して居らぬが爲め消極的或は受動的に無理性のもの、餘、發動及積極的過ぎるが爲に無理性なるものとの區別を知らなければなりません。人間は吾等の所謂本因に依つて活動させらるゝ化學的及物理的動力の連關で有るのみならず、又靈性能力の連關で有ります。

問 私は此問題に就て、随分書物を調べて見ましたが、昔の哲學者の考は中世のカバラ教徒の考とは非常に違つて居る様に思ひます。併し或る點に於ては兩方共一致して居ります。

答 カバラ教徒と吾等の考の重なる處は、次の點に有ります。即ち吾々は新プレート派及東洋哲學の言つて居る通り精神即ちアトマの本性は活て居る人間には決して這入らないで、只だ人間の内部を多少照すのみに過ぎないと信じて居ります。其の内部とは、靈氣の本因の心靈的及靈性的複合で有ります。然るにカバラ教徒は人間の精神は宇宙の精神から離れ出で、人の靈魂に這入り、人間の生存中靈氣體に閉ぢ籠められて居ると、主張して居ります。基督教カバ

ラ教徒も矢張り夫と同じ事を主張して居ります。其譯は彼等は神人同形的死文字通りの聖書の教を全く脱する事が出来ないからで有ります。

問 貴君の意見は何ふですか。

答 吾等は靈氣體の在るものは「精神」、即ちアトマの光のみで有ると申します。而して其れも靈性の發光に關してのみ言ふのです。人間と靈魂とは若し成功せば遂に此の靈性唯一と結合し、果には言はば吸収されてしまふ。左も無くば不死に成る事は出来ないのです。人間の死後に個性となることは其の精神に依るので、靈魂や肉體には依りません。普通の意味に於ける「人我」と言ふ語を文字通りに吾等の云ふ不死の本素に適用することは不合理的で有る、けれども此本素は吾等の「個性自我」としては、不死永久獨特の實體で有ります。子供が生まれると同時に精神と人我的靈魂とを連鎖する緒が出来ます。それが急に断ち切れ、其の離れた精神が人我的靈魂から放たるゝのは救ふ可からざる罪人或は悪魔術者の場合に限つて居ります。此の場合には人我的靈魂は眞我の上に少しも跡を残さず全滅して仕舞ふのです。下位即ち人我的意 (Manas) と生まれ變る眞我との此の結合が、若し死る迄に遂げられぬ場合には、前者は下等動物と運命を共にします、即ち段々と精氣に發散して、全滅するので有ります。併し此の場合に於ても靈性自我

は矢張り獨特の實在です。靈性自我(或は眞我)が其の場合に於ける無益の一生を過した後に失ふものは、此の結合を遂げざるれば理想的人我として必ず受くべき Devachan の状態のみで有ります。而して此の場合に靈性自我は遊星的精靈として暫時自由を受くる後、直ちに生まれ變るので有ります。

問 Isis Unveiled と云ふ本に遊星的精靈或は天使(部教の神或は基督教の天使長)は此の地球では決して人間に成らぬと書いて有ります。

答 全く左様です。其の様なものでなくて、或る種類のものが成るのです。此の精靈は此の地球では、人間に成りません。如何となれば彼等は前世から放たれて自由に成つた「精靈」で有つて、此の如きものとしては、此の地球で再び人間に成る事が出来ないからです。併し總て此等は此の「大一生」及び其ブラマの大休息(Brahmic Pralaya)即ち幾億年と云ふ期間(が終つて後に遙に高等な次ぎの大魔奴期(Mahamantara)に再び出るので有ります、東洋哲學の教では人間は其の身中に閉じ籠められて居る其の様な「精靈」で有ると云ふ事を無論御聞きに成つたでせう。動物と人間との差異は次ぎの點に有るので、即ち動物は可能的に靈魂を入れられ、人間は現實的(註31)に靈魂を入れられるので有ります。之で其の差異が分りましたか。

〔註31〕 此の事は Secret Doctrine と云ふ本の第二巻の註解に詳しく説明して有る。

問 分りました。併し此の分類法は昔から形而上學の難關で有りました。

答 左様です。佛教哲學の秘密教は全く此の靈妙の教に基づいて居つて、之を解するものは少なく、又近世の學者は、大概之を全く誤解して居るので有ります。形而上學者すらも結果と原因を兎角混同しがちです。「靈性」として其の不死の生を得た自我は此の世の何れの再生中いつも同じ内自我(Inner Self)で居ります。併し此の事は自分の個性を保つ爲に、嘗て此の世に居た時の田中とか伊藤とか云ふ人が何時迄も其の人に成つて居らねばならぬと云ふ意味ではありませぬ。其れ故未來には人間の「靈氣魂」及び肉體は純化したる宇宙の分子に歸し、而して若し向上の資格がなかつたならば其の最後の人我を失なつても、神的自我は矢張り不變のもので有ります。併し其の神的自我の發現なる自我が淨世で嘗めた經驗の覺へは、其の賤しい人格から離れると同時に全く消滅するので有ります。

問 Origen や Synesius や他の半耶蘇教徒や半プレート派哲學者が教へて居る通りに、若し精神即ち靈魂の神的部分が、無始以來獨特のものとして先より存在し且つ又形而上學より見て客觀的

靈魂に外ならずとせば、如何して無窮たらざるを得ませうか。若し左すれば人間が何んな事をしても、自分の個性を失ふ氣遣が決して無いならば、潔白の生活を送らうとも、又動物的生活を送らうとも、何の仔細が有りませうか。

答 此の教の結果は貴君の云はれた通り、耶蘇の身代りの教と同じく有害で有ります。耶蘇の身代の教と吾人は皆不死なりと云ふ妄想とを相併らべ其真相を世界に證明したならば、人類は其の布教に依つてもつと改良されたでしょう。

繰返して申しますがピサゴラス、プレート、Timaeus of Iocris 及び昔のアレキザンドリア派の哲學者は人間の靈魂(即ち上位の本因及屬性)は宇宙靈魂から出たもので有ると言つて居ります。而して彼等の教に依ると、其宇宙靈魂は Aether (Pater = 父 = Zeus = 神) で有ります。其れ故に此等本因は何れもピサゴラスの云ふ「唯一元」(Monas) 或は吾々の云ふ Atma-Buddhi の純粹本素で有る筈が無いのです。如何となれば anima mundi は「唯一元」から生じたもの、即ち其主觀的發現、或は寧ろ光に過ぎないもので有ります。人間の精神即ち個性或は生まれ變る靈性自我と Buddhi 即ち「靈性魂」とは兩方共先より存在して居るもので有ります。併し前者は獨特のもの、即ち個性として存在して居るが、「靈性魂」の方は先存せる「氣」即ち智能ある

全體中未知の部分として存在して居るものです。此の兩者共根元は無窮の光から出来たもので有ります。併し「火神哲學者」即ち中世の靈智學者が言つて居る通り、火には見へる精氣と見えない精神との兩つが有つて、彼等は獸魂と神魂との區別をして居ります。エンペドクリスは總て人間や動物は二つの靈魂を有つて居ると確信して居ました。而してアリストートルは一つを理性の靈魂、他を動物靈魂と言つて居ります。此等哲學者の教に依ると理性の靈魂は宇宙の内部から、又動物靈魂は其の外部から來ると言つて居ります。

問 靈魂即ち人間の思考する靈魂、或は貴君の所謂自我は物質で有ると言ふのですか。

答 物質でなくて無論本質で有ります。併し「物質」と云ふ語に「本原」と云ふ形容詞を附けるならば差支ないのです。此の物質は精神と共に無窮で有つて、吾々の目に見へ手に觸れ、又分ち得可き物質ではなくて、其の崇高の極處で有ると吾々は言ふのです。純粹の精神は「無精神」即ち「絶對全部」から只一步の差で有ります。人間は此本原の「靈性物質」から進化したので有つて「超越精神」から下等の物質に至る迄此の本因の各階段を代表して居ると認めざれば、何ふして吾々は「内部の人間」は不死で有り又同時に靈性實在で且つ死す可き人間であると認める事が出来ませうか。

問 其れでは何故に神も其の様なもので有ると、言はれませんか。

答 其の言はれぬ譯は、無限にして無條件のものは形を有ち又「物」或は一現體で有る筈は無いからです、兎に角哲學と稱するに足る東洋哲學にはそんな事はありません。「實體」は不死で有るが、其終極の本素丈が不死で有つて、其一箇體としては不死ではありません。其生の循環期の最後に到れば、實體は、其本原の性質に歸し、實體と言はれなくなれば靈(Spirit)に成るのです。形體としての其の不死は生の循環期間、即ち大摩奴期中丈で有ります。其の期間が過ぐれば、宇宙靈と同一に成つて、獨特の實體ではなくなるのです。人魂(即ち最後の人我と云ふ觀念を靈性自我中に殘して置く意識を意味す)は獨特のものとしては Devachan に居る期間丈續くので有ります。其後は眞我の無数の生まれ變りの連續に加へられるのです。其れは丁度一年中の一日の事が吾々の記憶に留まる様なもので有ります。貴君の云はるゝ神は無限だと主張なさるが其無限を有限の状態に結び合はすと仰ですか。Atma に依つて接合されたるもの即ち Buddhi-Manas 計りこそ不死で有ります。人間(即ち人我)の靈魂其のものは不死でもなく、無窮でも無く又神聖でも無いのです。Nohar(と云ふ本)に次ぎの如く言つて有ります。「靈魂は此の世に来れば此の世の衣を着る、又天へ行けば光明の衣を得る。夫れは光の

根元から來る光に照されても害を受けない様に有る爲で有る。又 Nohar の教に依れば靈魂は其の生れ出でたる實質、即ち精神と再び結合せねば、極樂へ達する事は出来ません。總て靈魂は複性です。而して靈魂の本因は女性で有つて、精神の方は男性で有ります。人間は精神から分離せられる程に、墮落しなければ、肉體に包まるゝ間は、「三位一體」です。「神聖なる夫即ち「精神」よりも、浮世の肉體と賤しき結婚を好む靈魂こそ不幸で有る」と Book of Keys と云ふ鍊金術の書物に書いて有ります。其の不幸で有ると云ふ譯は其人格の何ものも眞我の不滅の記憶に留まらないからで有ります。

問 神が人間に吹き込んだのでなくても、貴君の云はるゝ様に「靈性」と同一の實質なるものが如何して、不死に成れないのでせうか。

答 實質のみならず、物質のあらゆる分子は、其の性が不滅で有るけれども、其の個性的意識は不滅でありません。不死と云ふ事は連續したる意識に過ぎないもので有るが、人我の意識は人我其のものよりも長く續く事は出来ないので有りませんか。既に述べた通り、其の様な意識は Devachan に居る間丈續くので有つて、其の後は第一に眞我の意識に歸し、夫れから宇宙意識に歸するので有ります。猶太の聖書を甚しく誤解したのは、何ふ云ふ譯であるか、例

の神學家に聞いて見る方が宜いのです。聖書を讀んで御覽なさい、左様すると舊約聖書の初の五卷、殊に創世記の著者が生靈(nephesh)即ち神がアダムに吹き込むもの(創世記第二章七節)を不死の靈魂と決して看做して居ない事が宜く分るのであります。其例を擧げて見れば「神は總ての生靈(nephesh)を…創造りたまへり」(創世記第一章二十一節)と言つて居るが、之は動物を意味して居るのです。又「人は生靈(nephesh)となりぬ」(創世記第二章七節)と言つて居るが、之に依ると Nephesh と云ふ語は不死の人間にも又死す可き動物にも差別なく用ゐられて居る事が分ります。「汝等の生命(nephesh)の血を流すをば我必ず討ん、獸之をなすも人これを爲すも我討ん。」(創世記第九章五節)「逃遁て汝の生命(nephesh)を救へ」(創世記第十九章十七節)「我儕これを殺すべからず」(創世記第二十七章二十一節)併し希伯來語の原書には「彼の nephesh を殺すべからず」と書いて有る。「nephesh を殺せば nephesh を取る」と利未記に書いて有ります。「人を殺す者はかならず誅さるべし」(利未記第二十四章十七節)之を文字通りに言へば「人の nephesh を殺すもの」の意味で有ります。「獸畜(nephesh)を殺す者はまた獸畜をもて獸畜を償ふべし」(利未記第二十四章十八節)。然るに原書には「nephesh を以て nephesh を償ふべし」と書いて有ります。人間は何ふして不死のものを殺す事が出来ませうか。之に依つて見ればサ

ドカイ教徒が靈魂の不滅を認めなかつた譯が分ります。而して又モゼス教の猶太人(兎に角與義を知らない者)は靈魂の不滅を少しも信じなかつた事が分ります。

永久賞罰及涅槃

問 耶蘇教の地獄極樂の教、即ち正教會の教へて居る未來賞罰を貴君が信じて居らるゝか居られぬか聞く必要は殆んど無いと思ひますが如何ですか。

答 耶蘇教で用ゐる問答書に書いて有る様な賞罰の教は、絶對的に吾々は否認します。況して其の賞罰が永久に續くと云ふ事は信じません。併し吾等は所謂「應報の理」即ち karma の法を支配する絶對の正義と智慧とを固く信じて居ります。其れ故に殘酷にして不哲理なる永久賞罰の教を斷然信じません。吾々はホレースの言ふ事に賛成します、即ち「怒を制する規則を作り而して過はそれ相當の罰を以て之に課せよ、併し只だ鞭を加ふ可き人の皮を剝ぐ勿れ」。此の規則は公平で有つて、總ての人に適します。智と愛と慈悲との權化で有ると貴君方が言はるゝ神は人間よりも之等の性質が少なくと云ふ事が如何して信じられませうか。

問 此の教を排斥する理由が尙ほ他に有りますか。

答 吾等が之を排斥する重なる理由は、輪廻説の事です。既に述べた通り、子供が新たに生まれる度に、新しい靈魂が造られると云ふ事を、吾等は排斥します。人間は皆、總て他の自我と同時に出来た或る一つの自我を有ち傳へると云ふ事を吾々は信じて居ります。如何となれば、總て自我は其の本因が同じで、同一の宇宙的無限自我から、元來發現するのであります。其の無限自我は「*Logos*」(即ち第二發現の「神」)であるとプレートは言つて居る、而して吾等は之を發現したる神の本因で有ると言ふ。之は宇宙心或は魂と同一で有るが、多くの有神論者が信ずる神人同形の宇宙外の神ではありません。之を混同しない様に願ひます。

問 發現したる本因を信ずる以上は、人が生まれる度に靈魂が其の本因に依つて造らるゝと云ふ事を信ずるのに何の困難が有りませうか、有りますまい。靈魂は元皆造られたものでは有りませんか。

答 其の譯は非人格的なるものが、意の儘に物を創造し、計畫し、思考する事は出来ないからです。其の法則は宇宙的法則で、其の定期發現(總て新生の循環期の初めに於ける其の本因の發現)の間は不変で有るから耶蘇教の神の様に人間を造つて置て、數年後らに之を悔ゆる様な事はしません。もし吾々が神の本因を少しでも信じなければならぬならば、其は絶対の

愛、智及公平で有り、又絶対の調和、合理及正義の本因でなければ信じられません。而して一方には富貴、幸福の人を生かし、他方には罪なくして生涯に沈む不幸の人を造ると云ふことの思遣なく、只其の體を短い一生の間支配すべき靈魂を造る様な神(註32)は、寧ろ無情なる惡魔で有ります。モーゼスの聖書を信ずる(無論與義的に)猶太の哲學者すらもそんな考へは決して有て居なかつた、それのみならず彼等は吾々と同様に輪廻説を信じて居りました。

〔註32〕 以後の「自我發露論」を見よ。

問 例を擧げて輪廻説を證明する事が出来ますか。

答 無論出来ません。フキロ、ヂュナイアスは次ぎの如く言つて居ります。「空中には靈魂が満ちて居る……地球に最も近いものは、肉體に合つせんとて下たり來り他の體中に生存せんと欲しそれへ歸へる」(註33)

〔註33〕 De Signat, p. 292c; De Somnis, 456l.

又 Zolner と云ふ本には、靈魂は神に自由を乞ふて居る様に書いて有る、即ち次ぎの様に言つてあります「宇宙の神よ、余は此の世にありて幸なり、僕となりてあらゆる汚辱を受く、されど他の世には行く事を欲せず」(註34)

「運命必然」の教即ち其の永久不變の法則は、神が答へて確言して居る、即ち「汝は本意ならずも胎子と成り、又汝は本意ならずも生まるる」(註35)

〔註35〕 Mishna, Ahoth, iv, 29.

光は之と對照して表はすべき闇がなければ見ることを得ず、又善は其の無限の福利を對照して表はすべき悪がなければ善とは言へません。夫と同じく又人間の徳も誘惑の苦みを経なければ、何んの功も有るとは言へません。隠れたる神の外は如何なるものも、永久不變ではありません。始めが有つたからとて、又終りがなくてはならぬからとて、有限で有るものは如何なるものも静止して居る事は出来ません。そんなものは進歩するか退歩するか何れか爲ねばならぬのです。而して不死の力を興ふる唯一つの精神と再合を渴望する靈魂は天福と永久の安靜を得る爲め輪期轉々の中精進しつゝ、自ら淨めなければならぬのです。其の天福と永久の安靜を得る所を Zohar では「愛の宮」と云ひ、印度教では之を「木又」(Moksha)と言ひ、Gnostic 教徒は之を永久光明界(Pleroma)と言ひ、又佛教では之を涅槃と言つて居ります。總て之等の状態は一時的で有つて永久的ではありません。

問 併し今貴君が云はれた事には輪廻説の事は何も言つて有りません。

答 現在の處に留まりたいと願ふ靈魂は先存して居つて、其の時に造られたもので無いに違ひありません。併し Zohar には之より一層確かな證據が有ります、即ち生まれ變る自我即ち理性靈魂(即ち最後の人格が全然消滅しなければならぬ靈魂)の事に就て次ぎの様に言つて有ります。「此の世で罪の有る靈魂は既に天に於て「神聖の唯一」から離れて居る。之等の靈魂は生れた時から、深淵に陥つて、再び此の世に出るべき時を豫期して居るので有る」(註36)。其の「神聖の唯一」とは此の場合では與義的に Atman 即ち Aksh-Buddhi の意味です。

〔註36〕 右の文は K. R. H. Mackenzie's Masonic Cyclopedia の "Kabalah" から取つたのである。

問 そして有名な東洋哲學者の説に依れば、涅槃は全滅と同意義であると言ふに、今涅槃は天國或は極樂と稍や同じ様なものと言ふのは、大變奇妙では有りませんか。

答 其の全滅と云ふのは、人我や分離した物質に關して、文字通りに解したなら、其の通り有るけれども、他の場合では左様ではありません。此の輪廻説及び人間の三位一體説は昔の基督教の師父等が多く信じて居りました。新約全書、又は靈魂及精神に關する昔の哲學論の翻譯者が間違をしたが爲に、此の事に就て多くの誤解が出来たのです。而して又釋迦やプロチナスや他

の多くの得道者が其靈魂の全滅を渴望したと誤解されて居る譯は、此の涅槃に就ての間違つた教から來るのである。即ち彼等が「神」に歸すると云ひ、宇宙魂に再合すと云つた事を現今の考にして見ると、只「全滅」の意味になるのです。無論人我の靈魂は分解して分子とならなければ、其の純粹の本素を無窮の精神へ永久に結合する事は出來ないので。併し天國の教の基礎を作つた使徒行傳や其書翰の翻譯者、及び「正義の國の基礎」と云ふ佛敎書の近世の解説者等は、耶蘇の言つた事も、釋迦の言つた事も誤解して居ります。前者は Psychikos と云ふ語の意味を曖昧にしたから、聖書を讀む人は此の語は靈魂と何んの關係も無い様に思つて居るので。而して此の様に靈魂と精神とが混同されて居るから、聖書を讀むものは、此の問題に就て何事も皆誤つた解釋をするのであります。又一方釋迦の教を解説した人は、佛敎の禪の四種の意味と目的とを誤解して居ります。生命と活動を生じ、光の性有る精神を消滅する事が出来るか、又記憶力を有する動物の機敏な感覺ある精神（理性的能力の一つ）ですらも、死んで全滅する事が出来るかをピサゴラス派の哲學者に問へ、と秘密學者は言つて居ります。佛敎哲學では「全滅」と云ふ事は、如何なる形又形の様なもので有つても、只だ物質分散の意味に過ぎないのです。如何となれば形の有るものは、何でも一時的であるが故に實に幻影で有るので。其の

譯は無窮に於ては、幾ら長い期間でも、瞬間の様で有るから。形も夫れと同じで之れを見たと云ふ事を感じる前に早や電光の如く過去りて永久なくなつて仕舞ふのであります。靈性實體が物質のあらゆる分子から—實質或は形體から—永久に脱れて靈氣に歸して、初めて永久不變の涅槃に這入るので有ります。而して其の涅槃の狀態は、生の循環期と同じ間續く、即ち眞に永久と言つても宜い位です。夫れから「精神」の中に存在する所の其の「氣」は全體で有るから、或る一つの物と言はれないのです。形としては其の「氣」は全滅して居るが、「絶對精神」としては、尙ほ存在して居るのです。如何となれば夫れは「存在」其のものに成つて居るからで有ります。「宇宙本素に歸す」と云ふ事は靈魂を「精神」として言つた場合では、「結合」と云ふ意味です。其の事は「全滅」と云ふ意味では決してありません。如何となれば「全滅」と言へば「永久の分離」と云ふ意味に成るからです。

問 左様云へば貴君は全滅説を唱へて居ると言はれる恐は有りませんか。只今、人間の靈魂は其の原素に歸すと言はれたでは有りませんか。

答 併し夫れでは「靈魂」と云ふ語に色々意味が有るのを區別し、又「精神」と云ふ語は、之れ迄漠然たる意味に譯されて居ると私が言つて置いたのを貴君はお忘れなされました。吾々

靈智學者は動物靈魂、人間靈魂、及靈性靈魂と言つて皆其間に區別を致します。例せば、吾等が Buddhi と云ふものをプレートは「理性的靈魂」と言つて居るけれども其の語に「靈性的」と云ふ形容詞を附て居ります。然るに吾等が生まれ變る「真我」即ち Manus と云ふものを、彼は「精神」即ち Nous 等と言つて居るのです。然るに吾々は「精神」と云ふ語は、獨立して居て、形容詞の附いて居ない時に、Anima 計りに適用するのです。ピサゴラスが「真我」(Nous)は「神」と共に、永久で有ると云ふも、又靈魂は神の様な完全な状態に達するには、種々の状態を経る、併し Ennos は地球に歸り、Phren 即ち下位の Manus すらも捨てられるので有ると云ふのは、吾等の所謂昔の教を繰り返して居るに過ぎないので。又プレートは「靈魂」(Buddhi)の定義を下だし「自動する事の出来る動力で有る」と云つて居ります。又彼は「靈魂は萬物中最も古くて、動力の原始で有る」と言つて居ります (Laws 第十章)。此様に Anima-Buddhi を「靈魂」と言ひ Manus を「精神」と言つて居るが吾等は左は言はないのです。プレートは次の如くに云つて居ります。「靈魂は體よりも、前に出來たので有つて、體は自然の法則に依つて、靈魂に支配されて居るから、第二位で有る。總て活動するものを支配する所の靈魂は、等しく天をも支配する。それ故に靈魂は活動して、天地に於ける總てのものを導く。其の各活動の名を擧ぐれば曰く決心すと

云ひ、商量すと云ひ、注意すと云ひ、相談すと云ひ、真又偽の意見を立つと云ひ、喜、怒、愛、憎、信、恐を起すと云ひ、又此等に似たる根本の諸活動をすると云ふ。…自分が女神で有るから靈魂は Nous なる男神と常に結合して總てのものを、正しく且つ程好く支配する、併し Anima(nous) に非ずと結合する時には、總てのものを逆さまにする。此の文には佛經の本文と同じく、消極は眞の存在として論じて有ります。而して全滅も之れと同類です。積極的狀態は眞の存在で有つて、其の現象ではありません。佛敎で言ふと「精神」が涅槃に這入れば客觀的存在は失ふが、主觀的生存を持続します。客觀的の考へから見れば之は絶對「無」に成るが、主觀的の考へから見れば「無物」になつて、感覺で分らないものです。後者の涅槃は「精神」の個人的不死を確證します、併し之は靈魂に云ふのではありません。何となれば、靈魂は最も古いもので有るけれども、總て他の神々と共に實質としてでなくとも形及び個性としては有る限的發現で有ります。

問 其の意味が未だ宜く分りませんから、何か例を擧て此の事を説明して下さい。

答 無論之を了解する事は、甚だ六ヶしいのです、殊に耶蘇敎會の敎を受けたものには、六ヶしいのです。尙ほ其上申さねばならぬことが有ります。貴君は人間凡ての本因が爲す働及

び死後に於ける之等の状態を宜く研究しなければ、吾々の東洋哲學を實際に覺とする事は出来ません。

人間の諸本因に就て

問 貴君の所謂「内部の人間」の成立に就て随分説を聞きましたが何の事か少しも分りませぬ。

答 無論吾々の所謂「真我」の本因なる種々の状態を、正確に理解して區別する事は、大層六ヶしくて、貴君の言はるゝ通り紛はしい事で有ります。而して之等本因の數へ方は東洋の各派に依つて非常に違つて居るから、尙更ら六ヶしいのです。併し其の根本の教は同一で有ります。

問 貴君は譬へば、吠檀多(Vedanta)派の事を言はるゝのですか、其の派は貴君の言はるゝ七つの本因を只五つに分つて居るでは有りませんか。

答 左様です。併し私は吠檀多派の學者と此の點に就いて敢て論争は致しません、彼等は明かな理由が有つて、左様分離して居るので有ると私は思ひます。彼等は苟しくも人間と云ふもの

は、種々の心的状態から成り立てる靈性複合體に過ぎずして、肉體は取るに足らない、只幻影的のもので有るとして居ります。而して本因を此の様に計了する哲學者は吠檀多派計りでは有りません。老子も「道德教」と云ふ本に、只五つの本因の外居りません、如何となれば彼は吠檀多派の様に二つの本因即ち「精神」(Atma)及び「肉體」を數に入れないのみならず、後者を「屍」と言つて居ります。夫れから Tantra Raja Yoga 派も有ります、其の教に依ると、本因は語り三つの外にない。併し其の三つは實際其の覺醒の状態に於ける sushupti (本因) 即ち「肉體」と svapna 即ち「夢」の状態に於ける sukshmaputti 及び Karanopadhi (本因體) 即ち輪廻するもので有ります。而して之等は皆其状態が二つで有るから、六つになります。此の六つに Atma、即ち「宇宙魂」と同一なる人間の無人格的的本因、或は不死の原素を加へたなら同じく七つになるのです(註37)。之は彼等の分解法で有つて、彼等は彼等の分解法によるべし、吾等は又吾等の分解法に従ひます。

〔註37〕 尙ほ精しい事は The Secret Doctrine と云ふ本の第一章百五十七頁を見る可し。

問 夫では、其分解法は、神秘的耶穌教の肉體、靈魂及精神の分解法と殆んど同じ様に思はれますか。
答 全く同じです、吾等は肉體を「靈氣體」の機關とし、之を「生」即ち Prana の機關とし、

「動物靈魂」を上位及下位の「心」の機關とし、又此の三つを六つの本因として、其全體に不死の「精神」を加はへる事が容易に出來ます。秘密教で言ふと吾等の意識状態に變化が起る度毎に、人間は新しい状態を得る。而して此の状態が續いて、活動する「自我」の一部分と成るならば、其の状態に於ける人間と他の状態に遷る時の人間とを區別する爲に別の名を附けなければなりません、又實際秘密教では附けて居ります。

問 了解し難いと云ふのは、即ち其處です。

答 併し人間は如何なる意識の状態に在ても、自分の心意及精神状態と一致して働くと云ふ大體の意味が分りさへすれば、造作ない様に思ひます。併し今の世は唯物論の世で有るから、吾々が説明すればする程、人々は吾々の云ふ事を益々了解する事が出來ない様に思ひます。人間と云ふ下界のものを、三つの重なる状態に分けて御覽なさい、而して其の人間を純粹の動物としなければ、三つより少なくなる筈は有りません。即ち其の一つは人間の肉體今一つは動物の本性的原素に殆んど過ぎない思考力、即ち活氣ありて意識する靈魂、第三は動物より遙に勝れて居る所以のもの、即ち其の理性的靈魂或は精神で有ります。扱て、之等の三つの集合、或は代表實體を、秘密教に依つて、小分けすれば、何う成りますか。第一に絶對で有るから、分つ事が

出來ない「全」と云ふ意味の精神即ち *Animus* が有ります。此の精神は無窮に存在して居て、宇宙に於ける如何なる小點にも満ち亘つて居るもので有つて、哲學上では、位置も定められず制限も出來ないから、實際「人間」本因と決して言ふ可きものでありません。夫れは寧ろ形而上學で、人間の「元子」(monad) 及其の機關なる人間が生期間毎に取る所の空間の點で有ると言ふ方が一番近いので有ります。其の空間の點は、人間と同じく想像的で有つて、實際は幻影、即ち *Idem* で有ります。併し吾等は他の人我と同じく「生存」と云ふ幻影の期間には現實で有ります。而して想像にせよ兎に角吾等は現實で有ると思はなければならぬのです。秘密教では此の事を初めて研究するに當つて、人間の智識に宜く分る様にする爲に、又人間の不可解の第一歩を解く爲に、此の第七の本因を第六の總合と言つて居ります。而して其の機關として靈性魂(Budhi)を之に附けて居ります。其の靈性魂には、深い秘密が含まれて居ます、而して其の秘密は堅く誓つて居る徒弟 (disciple) 或は大丈夫信用の出來る者でなければ、決して教へないのです。若し其の秘密を教へる事が出來さへすれば、無論紛らわしい所が少なくなりますが、併し之は人間の靈氣複體を自由に出す力と直接に關係が有ります。又此の力は之を有つて居る人のみならず、又一般の人間に取つては、非常に危険に成るから、其秘密は洩さない様

に大事にして有ります。併し本因論を続けませう。夫では此の神的靈魂、即ち Buddhi は精神の機關で有ります。結合して居れば、此二つは一つで有つて、無人格で屬性が無いのです（無論此の世で）。併し乍ら二つの靈性本因に成るのです。夫れから人間靈魂、即ち Manas 或は nous の事を言ふに當つて、人間の智慧は少くとも二重性で有ると云ふ説には、誰も異論が無いでせう、即ち心の高尚な人間は劣等の心に成る事は出来ません。而して心が非常に智力的で精神的の心と心が動物的でなくとも、鈍くて物質的人とは雲泥の差が有ります。

問 併し何故、人間を二つの本因、或は二つの状態を以て現す事が出来ないのですか。

答 人間には、誰でも此の二つの本因が有つて、一方は他よりも餘計に活動します、而して偶には其の一方が他の一方の勢力の爲に、其の發達を全く妨げられ、言はば癡痺せられて居る場合が有ります。之が即ち、吾々の所謂 Manas の二つ、即ち上位と下位の本因、或は状態で有ります。前者即ち上位の Manas、或は思考する意識ある自我は靈性魂(Buddhi)の方へ向上し、後者即ち本能的本因は Manas、即ち人間の動物的情慾の中心に引き付けられて居ります。之で本因は四つで有ります。残りの三つは「第一」複體或は變形自在靈氣體と云ふもの、即ち「第二」生の本因の機關及「第三」肉體で有ります。無論生理學者や生物學者は之等の本因を認めて

居りません。又之を理解する事も出来ません。而して之は恐らく彼等が變形自在複體の物質機關なる脾臓の働をも知らず、又上に述べたる、慾の宿在する人間の右胸に位する或る機關の働をも今日に至る迄も知らないから有ります。而して又彼等の所謂砂を含める角質の核なる松子腺に就ても彼等は何事をも知りません。然るに之こそ實に人間の最も高尚で最も神意的意識、即ち其の全知にして靈性なる全括的の「心」の中心で有ります。而して之に依つて見れば、之等の七つの本因は吾々が發明したものでなく、又哲學界で新しいのでも無い、と云ふ事が一層明かに分ります。此の事は吾々が容易に證明し得るのであります。

問 併し貴君は生まれ變るものは、何だと思ひなされますか。

答 夫れは、人間に在る無窮の本因で靈性にして思考する自我、即ち Manas の宿る所で有ります。それは Atma で無く、又個性的、或は神的人間なる複性の元子(monad)と看做されて居る Atma-Buddhi でも無く、Manas で有ります。如何となれば、Atman は「宇宙全」で有つて、其の機關なる Buddhi と結合した時計りに人間の上位の自己と成つて、Atma を真我或は神的人間に結合するのは Buddhi で有ります。而して「上位の自己」が此世に於て、其宿れるあらゆる人格と結合する所のものは Muddhi-manas で有ります。其 Buddhi-Manas は第五本因と第六本因と結

合したもので有つて、Vedantin 派では之を緣由體或は本原體(Causal Body)と言ひ、之は「意識」
 で有ります。夫れ故に「靈魂」と云ふは意味の廣い語で有つて、人間には靈魂の三つの状態が有
 ります。即ち「第一」現世或は動物靈魂、「第二」人間靈魂、「第三」靈性魂で有ります。之等を正
 確に言へば三つの状態に現はれたる一つの靈魂で有ります。第一の状態は死後に於て何も
 残らず。第二の状態、即ち nous 或は Manas は、其の神的本因が穢されずに居れば、残存しま
 す。然るに第三の状態は不死で有るのみならず上位の Manas と同化して、意識ある神のもの
 に成ります。併し此の事を明かに説明するには、先づ第一に輪廻説の事を少し言はなければな
 りません。

問 貴君方の敵が烈しく反對するのは、此の輪廻説ですから、説明が必要でです。

答 敵と言ふのは、亡魂論者の事です。彼等の雑誌には不合理の反對論が随分出て居ります。
 或る亡魂論者は愚鈍で、執念深く有りますから、何んな事でも言ひ兼ねはしません。或る
 一人は吾が會員の講演中に言つた事を、反駁し、其の事を Light と云ふ雑誌で眞面目に
 論じて居ります。彼は次ぎの二つの文は矛盾して居ると思つて居ます、即ち「早期の生まれ變り
 が起るのは其の場合の因果應報の理が複雑して居る爲かも知れない」及び「進化を支配する神、

的正義の働には過が無い」の二つです。此の様な大思想家は若し人が子供の頭に石が落ちて來
 るのを止る爲に手を差し出したならば之は引力の法則に反對すると急度思ふでせう。

第八章 輪廻説に就て

靈智學の教では「記憶」は如何なるものか

問 輪廻説などを信する理由を擧げて一々之を説明する事は貴君には最も六ヶしい事と思ひま
 す。如何なる靈智學者でも、私の懷疑説を打毀す可き慥な證據を一つとして擧げた者はあり
 ません。第一此輪廻説の理論に相反して居る事は、即ち前生を覚えて居る人、況して前生中に
 誰で有つたかを覚えて居る人などは一人も無いと云ふ事です。

答 貴君の議論は同じ古るい反對説に歸へる様です、即ち前生の記憶を吾々が失ふと云ふ事は、
 吾々の教を破壊すると思ふのです。併し私は破壊しないと答へます。兎に角其の様な反對説
 を以てしては此の問題を解決する事が出来ません。

問 貴君の説を伺ひたいものです。

答 私の議論は簡單です。併し貴君が「第一」如何に偉い近世の心理學者でも「心」(Mind)の性質を説明する事は全く出来ない事と「第二」心の可能力と上位の状態とを全然知らない事とを考へて見るならば、此の反對は重にも事情より推した皮相の證據を盾として作つたる獨斷的決定に基づいて居ると云ふ事を認めねばならぬのです。そこで、貴君の考へでは「記憶」(memory)とは如何なるものでありますか。

問 其れは普通用ゐられて居る定義が説明して居る通りです、即ち過去に考へた事、爲た事、起つた事等を感じて、其の智識を留めて置く所の吾々の心の働です。

答 「記憶」(memory)には三つの種類が有つて大なる差異が有ると云ふ事を感じて置て貰ひたいのです、即ち「一般」云々「記憶」(memory)の外に「想ひ浮ぶ」と「rememberance」(recollection) 及「想ひ出す」と「reminscence」も有るでせう、之等の差異を宜く考へて見た事が有りませんか。「記憶」(memory)は廣い意味の名稱で有ると云ふ事を忘れない様に願ひます。

問 併し之等は皆同意義の語で有りますか。
答 決して左様で有りません。兎に角、哲學上では違ひます。「記憶」(memory)とは思考する能あるもの、又動物に於ける天賦の力です。而して客観物により、或は吾等の五官に對する刺激に

依つて提醒されたる連想の爲め過去の印象を呼び起す働です。「記憶」(memory)は脳髓の多少健全にして順當なる働に全く依る所の能力で有ります。而して「想ひ浮ぶ」と「rememberance」及び「想ひ出す」と「recollection」は此の「記憶」(memory)の附屬物で有ります。併し「想ひ出す」(reminscence)は全く違つたものです。近世の心理學者の定義に依ると「想ひ出す」は「想ひ出す」と「想ひいで」との中間のもので有ります。即ち「過去の出来事を意識的に思ひ起す作用であつて「想ひいで」の特性の様に極つた事を一々覚えて居ません。』

Locke云ふ人は「想ひいで」と「想ひ浮び」との事を次ぎの様に言つて居ります、『同じものが五官に再び觸れないで、或る考へが再び起る時には、其れは「想ひ浮び」で有る。而して其の考へを心で求めて、故意的に再び呼び起すなら其れは「想ひいで」で有る』。併しLockeでも人も「想ひ出す」には明かな定義を付けないで居ります。如何となれば、「想ひ出す」は吾々の脳髓の働又は屬性でなくて、吾々の脳髓以外から來る所の直感で有ります。即ち吾々の「靈性自我」が何時も有つて居る智識に依つて活動され、異常と看做されたる人間の總ての天觀を含む所の視覚で有ります。其の天觀は天才の想像から、熱病や狂氣の忘想に至る迄を含んで居まして、科學では之等のものは吾等の空想以外には存在しないものと言つて居ります。併し秘密教

や靈智學では「想ひ寄」は全るで違つたものと致します。吾々の説では「記憶」は物質的、且つ空幻的で、脳髓の生理的狀態に依るものです。之れは近世科學的心理學者の後援を受けて居る記憶術學者の根本的の説で有ります。併し「想ひ寄」は靈魂の記憶で有ります。而して人が了解しても、しなくても、前生及未來の存在をあらゆる人間に確信させるのは、即ち此の「記憶」です。實にフーズフォースと云ふ詩人が言つて居る通り、「吾等が生まれるのは一時の睡眠及忘却に過ぎない、吾等が有つて生まれる靈魂、即ち吾等を導くものは何處かで隠れたので有つて、遠くから來るので有る。』

問 若し此の様な「記憶」、即ち貴君の云ふ所に依ると、詩想や狂氣の空像の上に貴君の説の基を築くなら、恐らくは之を悟る事が出来る者は少ないでせう。

答 私は其れは「空像」であると云つたのでは有りません、私は只一般の生理學者や科學者が、其の様な「想ひ寄」を幻想や空像と看做して居る、そして其の立派な断定は彼等の勝手であると言つた許りです。其の様な過事の天觀や、昔の微力な記憶は吾等の現在普通の經驗や物質的記憶に比ぶれば、異常で有ると云ふ事は吾々は否認しません。併し W. Knight 教授が言つて居る通り、「前生にした事を記憶して居ないと云ふ事は、前に生存して居なかつたと云ふ事を斷

定する反對論には成らない』と云ふ議論は、吾々も主張します。而して公平な反對論者は誰も Butler (と云ふ人) の「フレート派哲學論」中に言つて居る事に賛成するに違ひないので、即ち「吾々が輪廻説を變に思ふのは、吾々の唯物論的偏見に依る』と言つて居ります。加之吾々は、Olympiodorus が言つた通り、「記憶」は「感想」(Phantasy) (註38) に過ぎなくて、人間性質中最も當にならないもので有ると云ふ事を主張します。

アンモニアス、サカスは豫言或は預知の大敵は「記憶」丈で有ると言つて居ります。又「記憶」と「心」或は「考」とは、全るで違つたもので有ると云ふ事を忘れてはなりません。「記憶」は記録器で有つて、非常に狂い容い機械です、併し乍ら思想は永遠不滅です、貴君は肉眼で見た事が無いからとて、或る物や人の存在を信じないでせうか、例へばジュエリヤス、シーザーを見た人々が昔から言つて居るのは、ジュエリヤス、シーザーが昔し世に居つたと云ふ證據に十分成らないでせうか。人々が有つて居る心靈の知覺は、それと同じ證據に依つて、何故に認められませんか。

〔註38〕 フレートの Phaedo と云ふ本の中でオリギオトラスが言ふには「感想」は吾等の思想の妨害物で有る。それ故に吾等が神の靈感を受けて居る時に若し「感想」が立ち入るならば、其の感奮は止んで仕舞ふ。

如何となれば感奮と入神の態とは相反して居る。若し靈魂は「感想」がなくとも活動する事が出来るかと問はれたら「靈魂」が宇宙真理を悟る事を見れば「感想」がなくても、活動し得ると云ふ事を證して居ます。夫れ故に「靈魂」は「感想」に依らない獨立の知覺を具へて居る。併し夫れと同時に丁度暴風が船を追ふ如く「感想」は靈魂の精力に伴なふもので有る。

問 併し之等の區別は餘り精細で、一般の人間には分らないと思ひませんか。

答 寧ろ一般の唯物論者に分らないと言つた方が宜いのです。而して其の唯物論者に、吾々は次ぎの事を言つて遣りたいのです。即ち、尋常短い生存の期間でも、「記憶」は餘り弱いから、一生涯の總ての出來事を覚えて居る事は出來ない。最も大切の事柄でも、或る連想、或は他の聯絡に依つて、呼び起される迄は「記憶」は之を忘れて居る事が度々有るのです。此の様な場合は常に記憶力の弱い老人には殊に多いので有ります。吾々は人間の肉體的及び精神的本因に就て、吾々が知つて居る丈の事を考へて見たならば、吾々の「記憶」が前生の事を覚えて居ないと云ふ事が不思議でなくて、却つて若し覚えて居つたならば、それこそ不思議で有ります。

何故に吾々は前生の事を記憶せざるか

問 七本因の概略は聞きましたたが、吾等の前生の事を全く忘れて仕舞ふのは何ふ云ふ譯ですか。

答 夫は容易く分ります、吾等の所謂物質的本因(註39)は、死後にはそれを組成して居る分子と共に分離し、「記憶」は腦髓と共に分離するので有ります。夫れ故に無くなつた人我の此の消滅した記憶は「眞我」の後の生まれ變りには殘つて居ないのです。生まれ變りと云ふ事は「眞我」に新しく肉體、腦髓及記憶が出來ると云ふ事です。夫れ故に此の新しい記憶が前の覺の無い事を記憶すると思ふのは、丁度人殺が以前に着た事の無い着物に犯罪の血痕を求めると同じく無理で有ります。調べなければならぬ物は、新しい着物で無くて、其の犯罪中に着て居た着物で有ります。併し其の血痕の着いて居る着物を焼いて仕舞つたなら、何ふして夫れを調べる事が出來ませうか。

〔註39〕 即ち肉體、生命、情慾、動物的本能及び人間の靈氣體の事で有る(心の目に見へても、又客觀的で肉體から離れて見へても)。之等の本因を吾々は「肉體」(Shūla Sharira)、「生因」(Prana)、「情慾」(Kama Rupa)及「靈氣體」(Jinga Sharira)と云ふ。科學では之等の本素に別名が付けて皆認められて居る。

問 左様です、而して又其の罪を犯したと云ふ事や、又新しい着物を着て居る人が前に生きて居たと云ふ事を、何ふして確かめる事が出來ますか。

答 無論夫れは物質的作用や、又既に存在して居ないものを當にして確める事は出來ません。併

し乍ら吾等の法律が或は過重なる事情より推して得た所の證據と云ふものが有ります。生まれ
變りや、前生の事實を確める爲には、吾等は吾等の朝生暮死の「記憶」でなくて、其の眞の永
久的「眞我」と接近しなければならぬのです。

問 併し、人が知りもしない、又見た事も無いものを何ふして信じる事が出来ませうか、況して
其の様なものに接近する事は何ふして出事ませうか。

答 若し、或人々殊に大學者が科學で云ふ引力、精氣、力等、即ち五官に觸れた事の無い抽象的
のもの及假設の臆説を信するなら、他の人が無窮の「自我」、即ち何よりも遙に合理的で大切な
「臆説」を何故夫れと同じ道理で信じられない譯が有りませうか。

問 此の神秘的永久の「自我」は、つまり何ですか。誰人にも分る様に其の「自我」の性質を説明し
て下さる事は出来ませんか。

答 生まれ變る所の「自我」は眞我(人我に非ず)で不滅の自我、即ちアトマンデーの元子 (Monad)
の機關で Devachan で賞せられ、此の世で罰せらるゝもの、又生まれ變りをする度毎の五蘊
(skandhas) 即ち屬性(註40)の反射が合同する所のもので有ります。

〔註40〕 佛教には(五)蘊(skandhas)即ち屬性が五つ有る、即ち(一)Rupa(色、體或は形)、即ち「物質的性
質」。(二)vedana(受)即ち「感覺」。(三)Sanna(想)即ち「抽象的思想」。(四)Sankhara(行)即ち「心の傾向」。

(五)Vimana(識)即ち「心力」で有る。吾々は之等の五つから成り立ち、又之等の五つに依つて吾々は存在を知
覚する、又之等に依つて外界に接するのである。

問 蘊(Skandhas)とは何ふ云ふ意味ですか。

答 今言つた通り、屬性の事です。其の内に「記憶」も這入て居ります。之等の屬性は皆花の様
に少しの薫を残して消滅して仕舞ふのです。「東洋哲學が教る意味を捕へる事は、西洋人に取つ
ては大層六ヶかしい事です。如何となれば、西洋には物質界計りの科學が有つて、物の内部の
性質に就ては頼るべきものとしては、形而上學の外に何も無いのです(抽象的のものや、思想
計りを論ずるものを科學と云ふ事が出来るならば)。西洋では人間の人格に成る心や情慾や總て
の分子を現實に存在して居るものとして論ずる事を知らないのです。併し此れ等のものは現實
であります。而して天眼通の目には物質が近世科學者に見える如く、之が客觀的に見えるので
有ります。若し人間の消滅すべき人我でさへも、吾々の科學では全く未知界に屬するならば、
況して不滅の自我は尙更ら分らないに違ひ無いのです。ジャツジ氏は次ぎの如く論じて居り
ます、「肉體、靈氣的人間及慾(Kama)の本因は、各五蘊(skandhas)が有る、又他の本因

も他の五蘊が有る。生まれ變りの運命を支配し、又生まれ變る度毎に生命の種々の状態を引起し、活動的で重要なスカンダースは Kama 本因に在る。其のスカンダースは或る法則に依つて日々に造くられる。其の法則に依つて人間のあらゆる考は、天然の本原力の一つと直ちに結合する、而して一實體と成つて、脳髓を放れる時の思想の力に應じて残る。之等のスカンダースは皆な之を造つた者と固く結合して、逝れる事は出来ない。吾々は善い思想を抱くより外に仕方が無い、如何となれば何んな「大仙」でも此の法則を遁れる事は出来ない。故に彼等は善良なるもの計りを考へる。

扱て、「欲界」(Kama-loka)には此の情慾と思想は消滅して仕舞ふ迄現存して居る。夫れから其の残りが、之等のスカンダースの精から成り立つて居つて、無論之等を造つたものと結合して居る。而して宇宙を消滅する事が出来ないと同様に、之等のスカンダースを放棄する事が出来ない。夫れ故に之等のスカンダースは之等を造つた者が Devachan から出る迄残つて居ると云ふ事である。夫れから彼等は新生命の新スカンダースの基と成つて夫れを造つた者に直ちに引力の法則に依つて引き附けられる……肉體から離れ出る人間は「欲界」(Kamaloka)に這入て其處で下等なるスカンダースから再び遁れ出る……意(Manas)の性質其ものは肉體がなくなると同

時に Devachan の状態が必要になる。而して其の状態は、只肉體的及靈氣的の心の束縛がなくなつたものに過ぎない。吾々は生存中に毎時懐く所の思想を只た小部分丈外實行する事が出来ないもので有る。況して日々の渴望に依つて生ずる所の心靈の精力を盡す事は出来ない。斯の様にして生じた精力は、消滅しなくて意(Manas)に貯へられるので有るが、肉體、脳髓及靈氣體は、其の力の發達を妨げる。夫れ故に死ぬる迄潜んで居つて、死んでから其の妨げが弱くなると其力が出て来る。而して之に依つて Manas、即ち「思考者」が生存中貯へて居つた、思考力が膨脹し、使用せられ、且つ發達するので有る。之に依つて見ると次ぎの事が分る、即ち人我の不死の性質、即ち愛、善、慈悲等の様なものは不死の「真我」に結合して前の人間の神的状态の變らぬ保を其の不死の「真我」に寫す。併し其の人間の物質的スカンダース、即ち最も著しい Karma の結果を生ずるものは電光の様に一時的のもので有つて、新しい人格の新しい脳髓に跡を残す事は出来ません。併しそれでも生まれ變る「真我」の同一なる事は決して變りません。

問 残存するものは貴君の所謂「靈魂記憶」計りで有つて、(靈魂と「自我」とは同一のもので)人我は何も残らないと貴君は言ふのですか。

答 少し違ひます、各人我の部分は幾らか残るに違ひ無いのです(其の人我が少しも靈性質無き

全くの唯物論者でないなら)。如何となれば其の残るものは生まれ變る永久の「真我」或は「靈性自我」(註41)に無窮の跡を残すからです。人我は其のスカンダースと共に新しく生まれ變る度毎に、始終變つて居ります。即ち夫れは前にも述べた通り「真我」が只一時務めた役に過ぎないのです。之が即ち吾等の前生の記憶が吾等の脳髓に残つて居ない譯です。併し「真我」は其の前生を経て來たから皆知つて居ります。

〔註41〕 夫れは「人我」と區別したる「靈性自我」で有る。此の「靈性自我」と「上位の自己」とを混同してはならぬ。其の「上位の自己」は Atma、即ち人間心中の神にして、宇宙魂から離る可からざるもので有る(本書第九章の「死後及生後の知覺論」を見よ)。

問 夫れでは何ふして「真我」或は靈性人間が自分の新しい人我に此の智識を印象しないのですか。

答 貧しい農家の下女が知らない希伯來語を話したりバイオリンを弾いたりするのは、何う云ふ譯なのです。其の譯は古學派の本當の心理學者(例の近世派の無い)は誰でも言ふ通り「真我」は「人我」が痲痺して居る時計り活動する事が出来るからで有ります。人間の靈性自我は全知のもので有つて、あらゆる智識を有つて居ります。然るに「人我」は其の周圍のものゝ産物で有つ

て、肉體的記憶の奴隷です。若し靈性自我が妨害せられないで發現する事が出来たならば、此の世には人間はなくなつて吾々は皆神に成ります。

問 夫れでも例外が有つて、前生の事を覚えて居る者が有る筈です。

答 實際有るのです。併し誰が其の人々の話を信じますか。其の様な者は近世の唯物論者に依つて狂氣の神經病者、或は狂熱せる信仰者や詐僞者の様に大概看做されて居ります。併し其の様な唯物論者には此の問題に關する書物、特に D. Walker の書いた「輪廻説—忘れた真理の研究」と云ふ本を讀むことを勧めます。著者は其書中に此の困難な問題を解決するに必要な多くの證據を載せて居ります。靈魂の事を或る種の人に言つて御覽なさい。左様すると靈魂とは何で有るか、又貴君は靈魂の存在を證明した事が有りますか、と彼等は問ひます。無論唯物論者と議論をするのは無益です。併し唯物論者にも次ぎの事を問ふて見たい、即ち赤子の時分に何んなもので有つたか、又何んな事をしたか覺へて居りますかと、又生まれてから一年半或は二年の間の貴君の生活、思想、行或は抑々生きて居つたと云ふ事を少しでも覺へて居りますかと、無論覺へて居ないでせう。そんなら、夫れと同じ道理で赤子で有つたと云ふ事を何故否認しませんか。而して生まれ變る自我或は真我は Devachan に居る期間に、此の世で得た經驗或は人格

のみを失はないで、肉體的經驗の全體は可能的の状態に歸し言はゞ靈性のものに變化すると云ふ事を上の事と合はせ考へ、又二つの生まれ變りの間は千年か千五百年に亘り、其間物質的意識には活動すべき機關なく、從て外界に生存して居らないから、全く靜止して居ると云ふ事も合はせ考へるなら、純粹の肉體的記憶に少しも覺が無いと云ふ事は明瞭になります。

問 貴君は今靈性自我は全知のもので有ると言はれました、夫れでは貴君の所謂全知力は Devachan に居る間に何う成りますか。

答 其の間は全知力は潜んで、可能的で有ります。如何となれば、第一に Buddhi-Manas の混合體なる靈性自我は「上位の自己」ではありません。其の「上位の自己」は宇宙靈魂或は「心」と同一で有つて、夫れ計りが全知で有るからで有ります。又第二に Devachan は最後の下界に於ける生命の理想的繼續にして、應報調和の期間で有り、又其下界に故なくして受けた仇又は苦の償で有ります。「靈性自我」は Devachan に居る間は只可能的に全知で有つて「自我」が「宇宙靈魂」と結合して涅槃の状態に居る間丈、實際全知で有ります。併し自我は此の世で、或る肉體の異常の状態、或は生理的變化の爲に物質の束縛から脱した間は、半全知的に再び成ります。之で上に擧げた睡遊、即ち一人の貧しい下女が希伯來語を話したり、又一人がバイオリンを

奏したりする例は此の問題の例證に成つて居ると云ふ事が分ります。併し之は此の二つの事實に對する醫學の説明には少しも眞理が無いと云ふ事を意味するものではありません。如何となれば一人の下女は幾年も前に其の主人の牧師が希伯來語の本を音讀して居たのを聞いた事が有つたので有り、又一人の下女は自分の家で音楽家がバイオリンを奏して居つたのを聞いたので有ります。併し若し此の二人に「宇宙心」と性質同じき爲め全知なるものの靈が這入て居なかつたならば、何方も其の様に上手に出来ないもので有ります。前者の場合では、上位の本因が五蘊 (Skandhas) に作用を起して活動させたので有り、而して後者の場合では人我が癡痺して居つて眞我が發現したので有ります。此の二つの場合を混同しない様に願ひます。

眞我及人我に就て

問 眞我と人我とは何んな區別が有るのですか、實は未だ分りません。

答 此の二つの區別を人に分らせやうと私は長い以前から努めて居ります。併し殘念な事には、或る人々は只基督教を信じ、基督教は世間體が宜いと思ふから彼等に之を分らせるのは、此んな小供らしい宗教を信じさせるよりも尙更ら困難で有ります。此の點を宜く了解するには先づ

本因の二つの部分を研究しなければなりません、即ち「第一」靈性的本因或は不滅の自我に属するもの、「第二」物質的本因、或は其の自我の常に變化する體、即ち人我の連續を構成する所の本因で有ります。此の二つのものに定まつた名を附けて次ぎの様に言ひませう。

【第一】Atma 即ち「上位の自己」は誰れ彼れの精神でなくて、日光の様にあらゆる人を照す。夫れは宇宙的遍在の神的本因で、絶對的「超精神」(Meta-spirit)から離るべからざるものでもあります。夫れは丁度太陽の光線は太陽の光から離るべからざるのと同じであります。

【第二】Buddhi 即ち靈性魂は Atma の機關に過ぎません。若し此の神的本因が、或る意識に同化されて、之に映じなければ Atma と Buddhi とは離ても又結合しても、人間の體には何んの効用もありません。夫れは丁度地中に埋まりたる石の塊に日光が照つても何んの役に立たぬのと同様で有ります。Karma は Atma と Buddhi にも達する事が出来ません、如何となれば Atma は Karma の最高の状態であつて、或る状態に於ける自動力で有ります。而して Buddhi は此の世の状態では無意識で有ります。以上述べた意識或は「心」は

【第三】Manas (註4) 即ち Alamkara から出来た反影的産物、即ち自我或は「自我たる事」の觀念で有ります。夫れ故に、Manas は Atma Buddhi に離れない様に結合した時に、「精神的自

我」或は Ego (輝くもの)と言ひます。之は即ち真我或は神的人間で有ります。彼の無意識の人間の體から眞の人間を造つたのは、此の「自我」であつて前に無意識の人體に這入つたので有ります。其の人體は意識が無かつた爲に Atma Buddhi が自分に宿つて居ても知らずに之に活動されて居つたので有ります。而して Karma が生まれ變はらしむる所のあらゆる人格を掩ふものは、此の自我、即ち此の「緣由體」(Causal body)で有ります。あらゆる體や人我(即ち生まれ變りの長い連續中に、眞我を隠す一時的の假面)が生存中に犯した罪の責任は此の自我に有るのであります。

【註4】 MAHAT 即ち「宇宙心」(Mind)は Manas の源で有る。後者は人間の Mahat 即ち「心」(Mind)で有る。 Manas は又 Kshetrajna、即ち有靈の精神と稱せられる。如何となれば吾々の哲學に依ると、此の「輪廻」(Round)の第三の「種類」(Race)に這入つて思考する人間、即ち「manu」を作つたのは Manasa-putras 即ち「宇宙心」の子で有る。夫れ故に眞の生まれ變る永久の靈性自我、即ち眞我は Manas で有る。而して吾々の種々無数の人格は其の外面に過ぎないのである。

問 併し之は公平ですか。此の自我は自分のした事を忘れて仕舞つたのであるから罰を受ける譯は無いでありますせんか。

答 自我は自分のした事を、忘れたのでは無くて、其のした事を丁度貴君が昨日した事覚えて

居るのと同じ様に、宜く知つて居るのです。貴君が眞の自我は其の行を忘れて仕舞つたと想像なさるのは、體と云ふ彼の肉體の複合物が其の祖先、即ち前の人我がした事を記憶して居ないからですか。林檎を盗んで打たれた子供が新しく着替へた着物へ其覺の無い罰を被らせるのは不公平だと云ふのと同然で有ります。

問 併し靈性的意識と人間普通の意識との交通方法は無いのですか。

答 無論有ります、併し其の方法は例の近世科學的心理學者に認められて居りません。若し直覺(良心の聲)預戒、漠然たる名の附かない「思ひ寄」等は其の様な交通の屬性に外ならないのです。兎に角、教育を受けた人の多數がコレリツヂの様な緻密な靈性知覺を有て居れば宜いのですが彼の言ふ事を讀むと彼は如何に直覺的の有るかと思ふ事が分ります。總て思想其のものは不滅で有るか否哉と云ふ事に就て、彼が言ふ事を讀んで御覽なさい、即ち「若し智の能力(昔の事を急に思ひ出す力)を一層能く分る様にするには、即ちあらゆる前生の經驗を總ての人間の靈魂に示すのには、今とは異つた適當な人身の組織、即ち肉體でなく天身が必要である。」而して此の天身が、即ち吾々の言ふ Manas 的自我で有ります。

自我の賞罰に就て

問 人間が此の世で何の様な生活をして、其の自我は死後の罰を決して受けないと貴君は言はれました。

答 例外で非常に稀な場合の外は決して受けません。併し其の様な場合は此處では述べません。それは罰の性質が例の耶穌教の罰の觀念とは全く違ふからで有ります。

問 併し若し自我が前生に犯した罪の爲に、此の世で罰せられるとすれば、此の世に居ても、又あの世に居ても、賞を受く可きは亦此の自我で有ります。

答 實際其の通り自我が賞を受けるのです。吾等が此の世以外の罰を認めないのは「靈性自己」が死後に知つて居る状態は、純粹の天福の状態のみで有るからです。

問 何と云ふ意味ですか。

答 只次ぎの如くです。「客觀的及び物質的世界で犯した罪は、純粹の主觀的世界で罰を受ける事は出来ません。吾々は地獄又は極樂と云ふ場所が在るものとは信じません、即ち不死の火や鬼が居る地獄、又は街に寶石が敷いてある極樂が在るとは信じません。吾等が信するものは、

吾等が夢で現々と見る様な死後の状態、即ち心の状態であります。吾等は絶対の愛、正義及慈悲の不變の法則を信じます。而して之を信じて、吾等は次ぎの如く言ひます、「罪は何で有らうとも、又今生まれ變つて居る自我の元の Karma の罪(註43)の種々の結果が何で有らうとも、人間(即ち「靈性實體」の外面物質的にして一時的の體)に自分の生まれた事の責任を公平に歸する事は出来ません。人間は好んで生まれもせず又生む親を擇ぶ事も出来ません。何の點から見ても人間は外界の犠牲で有り、自分の支配する事の出来ない「事情の子」で有ります。若し彼れの罪を一々公平に調べて見たならば、十中の八九は罪を犯したと云ふよりも、寧ろ罪を被ふむつて居る方で有ります。人世は善く見た所で無情な狂言、暴風の海、又堪へ難い重荷で有ります。幾ら偉い哲學者でも人生の原理を量り知らんとして(其の奥義を知つて居る東洋の聖人を除けば)皆出来なかつたのです。人生は沙翁が言つて居る如く、「只歩るく影法師で舞臺に出て居る間は威張り散らして、後は音も沙汰もない、哀れな狂言者に過ぎない。人生は白癡の物語の様で大騒ぎをしても何の意味も無い事である」。其の人生に意味の無いのは、各々獨立のものとして有るが、集合連続したものとしては、非常に重要なもので有ります。何の場合でも、人生は大體に悲で有ります、而して憐な弱き人間は、人生の荒浪に木の葉の如く揺られ

ておいて、若し之に堪へなかつたならば、永劫の罰、否一時の罰でも受けるので有ると吾等は信じられませうか、決して信じる事は出来ません。罪穢の有る人は其の大小、善悪、有罪無罪に拘はらず、一旦肉體の荷を卸ろしたならば、疲れ切つた Mann 即ち思考する自我は絶対の休息及天福の期に這入る権利を得たので有ります。慈悲深いと言ふよりは寧ろ過らない公平の法則に依つて、自我は前生中に此の世で犯したあらゆる罪の爲に Karma の罰を受けるのです。而して又此の法則に依つて今肉體を脱して居る「實體」は長い間心の休息を許され、又あらゆる悲しい事は些細な苦しい思に至る迄も全く之を忘れる事が出来ます。其の悲しい事は、其の自我が人我に這入て、前生に居た間に起つたので有るが、「靈魂記憶」には天福で有つた事或は幸福に成つた事の記憶のみが残るので有ります。「吾々の體は眞の「忘川」で有る。如何となれば其の川に這入た靈魂は總ての事を忘れる」と言つた Plotinus は深い意味で言つたのです。如何となれば吾々の下界の肉體は此の世で「忘川」の様で有る通り Devachan でも、吾等の「天體」(Celestial body)は矢張り其の通り、否夫れ以上で有ります。

〔註43〕 聖書に書いて有る地獄に落ちた天使の殘酷で不合理な教は此の罪に基づいて居る。其の事は The Great Doctrine と云ふ本の第二卷目に説明して有る。吾々の自我は皆な思考する理性的のもの(Manus-pitrus)で

有つて前生の摩奴期 (Manavanti) に人間或は他のものに成つて、生存して居つたので有る。而して此の摩奴期 (Manavanti) で人間に還入るのは彼等のカルマで有つた。併し此の法則に背いたから (即ち印度教で Kumaras や耶蘇教の Michael と云ふ大天使の傳説の事を言つて居る通り) 創造する事を拒んだから (即ち定つた時に其の體に還入らなかつたから、其の還入る可き體は汚がされる機に成つたので有る。即ち無感覺の體の元の罪及自我の罰は之れから來るので有る。謀叛を起した天使が地獄に落されたと云ふ事は、只之等の潔白なる精神的のものや自我が汚がれたる體、即ち肉體に閉ぢ籠められたと云ふ事に過ぎない。

問 夫れでは殺人者、或はあらゆる天の法則や人間の法律を犯す人は、罰を受けないで居ると云ふのですか。

答 誰が其んな事を言ひましたか。吾等の哲學には、最も嚴重なカルヴィン派の信者に劣らぬ、嚴しい罰の教が有ります。併し吾等のは遙かに哲理的で有つて、絶對の正義に叶つて居るので、如何なる悪行でも又如何なる悪考でも、決して罰を受けないで居りません。又實際後者は前者よりも一層嚴しく罰せられます。如何となれば考は行よりも惡を爲すに一層有力であるからです (註44)。吾々は Karma と云ふ因果應報の過りなき法則を信するので有ります。其の法則は原因有れば必ず結果が自然に伴ふ様にする法則であります。

〔註44〕 されど余は汝に言はん、惡しき心を有ちて婦女を見るものは心中既に姦通せり (Matt., 5, 28)

問 其の法則は何ふして、又何處で適用せられるのですか。

答 「人が働けば、働いた丈の報酬を得る。」と聖書に言つて有り、又「何んな行でも善かれ惡かれ結果を生ず。」と吾々の哲學に言つて有ります。此の二つの教を合はせて見ると、其の譯が分ります。Karma は靈魂が人生の苦痛を脱した時に十分、否百倍の償を之に與へて置いて、其五蘊の大軍 (Skandhas) を引連れ、Devachan の入口に待つて居ります。而して自我は其の Devachan から出て、新たに生まれ變るのです。自我は其の Devachan から出れば、活動するカルマの法則に再び支配されますから、今迄休息して居た自我の未來の運命が、公平なる因果應報の理に依つて、定められるのは此の時です。自我の前生の罪が罰せられるは此の生まれ變つた生涯の間です。而して其の生まれ變りは、判決の公平を誤らない此の法則に依つて擇ばれ定められるので有ります。自我が落される地獄は、芝居に出る様な滑稽な尾や角の有る鬼が居る想像的地獄では無くて、己が罪の世界なる此の世へ落されるのです。自我は此の世であらゆる悪い考や、行の償をしなければならぬのです。即ち自我は自分が蒔いた物を刈り取るのです。自我が生まれ變れば其の前生の人我の爲に、直接間接に害を受けた他の自我が己の周圍に集ります。此等の自我は因果應報の理に依つて、前生の人我や永久の真我を匿して居る生まれ變つ

た人に廻り合ふのです、而して……

問 此等の新しい人我が罪を犯し、或は罪を被むつた事を知らないとするれば、貴君の言ふ公平は何處に有るのですか。

答 人が盗んた着物を着て居るのを其の持主が認めて之を剥ぎ取り、切々に引き裂いたなら、其の着物に對する處置は公平と看做されますか。新しい人我は色、形、質等の特徴有る新衣に過ぎないのです。併し其の着物を着て居る眞の人間は、昔と變らぬ罪人で、其の人格の爲に苦を受けるのは眞我で有ります。人生の運命を人に配合するに、甚しく不公平と見ゆることは此の事に依つて初めて分ります。正直な善人らしい者が、一生涯只苦しむ計りの爲に生まれることが多いのは何故で有るか、又多くの人が貧乏に生まれ、天にも人にも見放され、都會の貧民窟に飢へ苦しむは何故で有るか、又之等の人々は乞食に生まれるのに、他の人々は貴族に生まれるのは何故で有るか、又最悪の人間が往々貴族、金持に生まれて、其の價値有る人の稀で有るのは何故で有るか、又最高最貴の人たるべき心を有ちながら乞食で居るは何故で有るか總て之等の事のみならず、他の多くの事を例の近世哲學者、或は神學者が、十分説明する事が出来る様に成れば初めて輪廻説の理論を排斥する事が出来るので有つて夫れ迄は決して出来ないもので有りま

す。非常に偉い詩人等は此の眞理中の眞理を暗に悟つて居ります。シエリーは之を信じて居たし、沙翁も生まれのつまらない事を書いた時に、此の事を思つて居つたに違ひ無いのです。彼は次の様に言つて居ります、「余の生は如何して余の向上心を抑へやうか、總てのものは、時の爲に支配されるのでは無いか、前生では王公で有つて、此の世では乞食の者が澤山居る、而して親が昔はやくざ人間で有つて、今は王公に成つて居る者も澤山有る。」此の「親」と言ふ語を自我に替へて見ると其の眞理が分ります。

第九章

Kamaloka 及 Devachan 論

102

103

下位本因の運命に就て

問 Kamaloka とは何ですか。

答 人間が死ぬると、其の三つの下位の本因、言換ふれば肉體、生命及生命の機關、即ち靈氣體、或は肉體に伴ふ氣體は永久に去つて仕舞ます。夫れから人間の四本因即ち中位の本因（動物的靈魂或は Kama-rupa）と中位の本因が下位の Manas と上位の三本因から同化したものがカマ

ロカに這入るのです。カマロカは靈氣的の處で有つて、煩瑣理學派の神學で云ふ Limbus 昔の人の云ふ冥府 (Hades) で正確に言へば、只比較的の意味に於ける「處」で有ります。Kamaloka は定まつた、地域も境界も無いが主觀的空間内に存在するもの、即ち吾々の肉體の感覺では分らぬ處で有ります。併し矢張り存在して居つて、動物でも何でも總て生きて居たものの靈氣的幻像體が二度目の死を待つのは此の Kamaloka です。動物には其の靈氣的分子が離散して全く消え失せると同時に其の第二の死が來るのです。人間には Atma-Buddhi-Manas の三本因が Devachan の状態に這入て、其の下位の本因、即ち元の人我の反影から、分離すると同時に、其の第二の死が始まるので有ります。

問 其の後は何ふ成りますか。

答 夫れから、Kama rupa の幻像が上位の Manas と下位の Manas の思考力を失なつて、潰れて仕舞ふのです。如何となれば、動物的の智慧が上位の Manas から最早光明を受けないで、働をなすべき肉體の腦髓が最早無くなるからで有ります。

問 何う云ふ有様に、其れが潰れるのですか。

答 左様、夫れは腦髓の或る部分を解剖者に取り出された蛙の様な状態に陥いつて、下等の動物

としても、最早考へる事が出来ないのです。此の様に成ると最早下位の Manas でも無いのです。如何となれば下位の Manas は上位の Manas が無ければ、役に立たないからで有ります。

問 而して、魂寄せの場に媒介に依りて現はれるのは、此の無體で有りますか。

答 夫れは此の無體で有ります。併し推理や思考力の點のみから云へば、眞の無體で有ります。併し靈氣的で流動的で有りながら矢張り實體です。此の事は此の實體が或る場合に於て媒介者に磁力で知らずく引き附けられて一時復活して、其の媒介者に、言はば、代理させて生きる事が有るのを見れば分ります。此の幽霊、即ち Kama Rupa は水中(媒介者の特殊の氣 AURIC)に居る間は稀薄な膠質と見ゆる水母に比べる事が出来ます。併し其の水母は水から出して、掌中或は砂上に置くか殊に日光に晒らすならば、忽ち溶解して仕舞ふのです。其の實體は媒介者の氣中に有つて、一種代理的生命を有し、媒介者或は居合はせる人々の、腦髓を借りて推理し、又ものを言ふので有ります。併し此の事は、餘り横道へ這入つて他人の領分を侵す事に成るから、私は之を望みません。矢張り輪廻説を續けませう。

問 生まれ變る『自我』は如何程永くデヴカンの状態に留まつて居りますか。

答 吾等の教に依ると、それは人が前世に居た間の靈性の度合及功德無功德の度合に依ると云つ

て有ります。前に述べた通り、大概は千年乃至千五百年です。

問 併し亡魂論者が言ふ通り、何ふして此の「自我」が現れて、人間と交通する事が出来ないのですか、例へば母が死に別れた子供と、又夫が死に別れた妻と何故に交通する事が出来ませんか。之が出来ると信すれば極めて慰安に成る事と思ひます。而して之を信する人が此の信仰を打ち捨てる事を厭とふは怪むに足りません。

答 又其の様な人は、作事が何の位慰安に成つても、之を捨て、真理の方を擇ぶ事を欲せざれば自分の信する事を無理に打ち捨てなくても宜いのです。吾等の教は亡魂論者の氣に入らないかも知れませんが、吾々の信じ、又教える事は何事でも、彼等の言ふ半分も自分勝手に残酷ではありません。

問 貴君の言ふ事は分りません。何が自分勝手にですか。

答 「精神」、即ち彼等の所謂ゆる眞の「人我」が歸還すると云ふ教が自分勝手にです。今其の譯を言ひませう。若しデブカン、或は極樂と言つても宜い、それが即ち若し場處であるとすれば、天福と無上の祝福の場所であつて、論理上悲や苦の陰さへも感ずる事が出来ない様な處否状態で有ります。「神は極樂の人の悲は總て之を拭ひ去るべし」と聖書に書いて有ります。而し

て若し死んだ人の「精神」が歸へつて来て、此の世、殊に自分の家の有様を皆な見る事が出来たなら、如何なる祝福を見るでせうか。

靈智學者が純粹精神 (Spirits) の歸還を信ぜざる理由

問 何んの事を言ふのですか、其の有様を見たとして彼等の祝福を妨げる譯が何處に有りますか。

答 其の譯は明かです。例を擧げて見ませう。例へば母親が自分の可愛い、弱い子供、又或は其愛する夫を後に残して死ぬると假定しませう、左様すると、吾等の教では、其の母の「精神」或は「自我」―即ちデブカンの期間中其の人我が有つて居た最も高尚な感覺や、自分の子供に對する愛情や、又悲める人に對する憐の情等で今充分満ちて居る彼の眞我―は今此の悲しい浮世から全く離れて居て、其の未來の祝福とは後に残し去つた總ての悲を全く知らない事であると言ひます。併し亡魂論者の教では之に反して、其の「精神」は其の悲を前と同じく、否前よりも一層、分明と覺えて居る。其譯は肉體の人間よりも能く見る事が出来るから有ると言つて居ります。吾々の教ではデブカンに居る人の祝福は、其の人が此の世を去つた事は無く、又死と云ふものは無いと云ふ事を全く確信して居る事に在るのです。又母が

死んだ後其の「精神」の意識は、自分の子供、又自分の可愛い者に取り囲まれて生きて居ると云ふ事を信せしめ、又其の母の死後の状態を最も幸福ならしむるに何の不足も無いので有ります。併し亡魂論者は此の事を全く否認して居ります。彼等の教に依ると、不幸にも人間は死んだとて、此の世の悲を去る事は出来ないで、悲や苦を悉く嘗めなければならぬ、而して死ねば總てのものが見えるから否でも應でも其の悲を皆嘗め盡さねばならぬ、夫れ故に生存中に命を掛けても、自分の夫には悲をさせまいと思つて居る程愛の深い妻は、死ねば夫の失望を見ながら、何ふする事も出来ないで、自分の死を歎く夫の苦しい涙を一々數へなければならぬ。憂き目は夫れのみでない、自分の死を歎いた夫の涙は早乾き果て、自分の子供の父たる夫が後妻を迎へて、愛し愛され、自分の事は全るで打ち忘れられて居るのを見ることも有りませう。而して又自分の生んだ子供が、可愛がつても呉れぬ人を呼ぶに神聖なる「母」と云ふ名を以つてし、虐待はせられずとも、打ち棄て置かれるのを見なければならぬので有ります。此の教に依ると死は何等の状態變化無しに更に精神苦痛の状態に入る道となるのです。然るに米國の亡魂論者の機關雜誌 Banner of Light には、死んだ可愛い人から来た非常に幸福で居ると云ふ通信が一杯載せて有ります。其の様な事を知て居つて祝福を得る事

が出来ませうか。若し得る事が出来るとすれば、「祝福」と云ふ事は、其の様な場合では、最大の不幸の事を言ふので有つて、耶穌教の地獄は其の様な不幸に比べると、實に軽い罰で有ります。

問 併し貴君の理論では、是を何ふして避けますか、即ち靈魂は全知で有ると云ふ理論と、靈魂は此の世の出来事は知らぬと云ふ理論と、何ふして一致させる事が出来ますか。

答 是は愛と慈悲との法則で有ります。「自我」は自分では、全知で有るけれども Devachan に居る期間毎に、言はゞ以前の自我の反影で身を覆ふので有ります。今云つた通り、自我が具へて居た總て抽象即ち不死無窮の性質或は屬性―愛と慈悲、善、眞、美の愛の如きもの―の理想的精は、死後自我に結合して、夫れと共に Devachan に這入るので有ります。夫れから自分の間、自我は此の世で、前の人間の理想的反影と成ります。而して其の反影は、無論全知ではありませぬ。若し夫れが全知で有つたなら、吾々の所謂 Devachan の状態に決して這入る筈がないので有ります。

問 其の譯を聞きたいのです。

答 若し貴君が、吾々の哲學で言ふ正確な答を聞きたいなら、其の理由は形も色も制限も無い無窮の眞理以外では、總てのものは皆幻影(迷)で有るからですと言はなければなりません。

ん。其迷を超越した人、即ち大仙(Adonis)の様な人には Devachan が無いので有ります。併し普通の人間には Devachan の祝福は完全であります。其の Devachan の状態では前生中に苦痛、悲を興へたものを絶対に忘れて仕舞ふのみならず、苦痛、悲の如きものが有ると云ふ事を全然忘れて仕舞ふので有ります。今 Devachan の状態に居る人は、再び生まれ變る迄は此の世で望んで得られなかつたものを總て興へられ、又此の世で愛した人々と一所に成つて暮して居ます、即ち此の状態に居る人は自分の望を全く満たしたので、幾世紀も長い間純粹の幸福を得て居ります。其の幸福は、此の世に居た間に受けた苦痛の償です。詰り、絶えず幸福に浴し變化と言はゞ只だ一層大なる幸福が来る許りです。

問 併し之は只の幻想どころではなく、精神錯亂で有ります。

答 貴君の立場から見ると、左様見えるかも知れませんが、哲學の立場から見ると左様は見えません。加之吾等の此の浮世は其の様な幻想に満たされては居りませんか。貴君は幾年間も、極樂に居た氣で暮して居る人に逢つた事は有りませんか。而して或る婦人が自分では夫を愛し又夫に愛されて居ると思つて居るのに、其の夫は妻に對して、實意が無いと云ふ事を偶々知つたからとて、遠慮なく其の事實を明かし、其の女の幸福の夢を破つて、失望させる氣に成れます

か。迎も成れないでせう。重ねて申し上げますが、其の様な忘却、敢て言へば、幻想は、自然と緊嚴なる正義との慈悲深い法則に過ぎないので有ります。兎に角此の状態は例の耶蘇教で言ふ、翼の生へた人が黄金の琴を弾するよりも、遙かに楽しいもので有ります。彼の「生きたる靈魂は屢々昇つて、天國を徘徊し、教長や豫言者を訪ひ、使徒に會ひ、殉教者を嘆賞す」と云ふ教は、或る人に取つては、一層有難い様に思はれるかも知れません。併し其の教は遙に幻想的のものです。如何となれば、母は其の子を無窮に愛する事は吾々は皆知つて居りますが、耶蘇教の「天國」に居ると云ふ、此の人々は少しく、疑はしいものです。併しながら、私は彼の亡魂論者の殘酷なる教を信するよりも、街に寶石が敷いて有ると云ふ、例の「天國」(New Jerusalem)の方を寧ろ信するので有ります。人の父母兄弟の智力あり意識ある靈魂は亡魂論者の所謂「夏の園」(Summer-land) — 其の形容は彼の天國 (New Jerusalem) よりも少しは自然的で有るが、矢張り之と同じく滑稽で有る — で其の祝福を得ると云ふ考は、早既に死者に對する尊敬を失なはしむるに足るのです。純粹の精神ともある者が死別れた最愛の人の罪惡、過失、叛逆殊に苦痛を見ながらも之を助け遣る事が出来ぬのに、自らは幸福に思ふ事が出来ると云ふ事を信するのは、實に狂氣の沙汰で有ります。

問 貴君の議論には、幾らか真理が有ります。實際私は今迄其の問題を此の様な方面から解釋して見た事が無いのです。

答 全く左様でせう。而して其の様な事を想像して居た人は、中心利己的で、公平な因果應報の觀念が全く無いに違ひありません。吾々は肉體から言へば、死んだ人から離ないで、實際は其の人が此の世に居つた時よりも、遙に接近して居るので有ります。而して此の事は或る人が思ふ様に Devachan に居る人の想像計りでは無く實際で有ります。如何となれば純粹の神的爱は人情の精華で有るのみならず、其の根元は無窮で有ります。靈精の神聖の愛は不死で有つて、Karma は早晚其の様な靈精の愛情を以つて互に愛した人々を、又再び同じ家族に生まれ變らしむるので有ります。重ねて云ひますと、貴君は幻想だと言ふかも知れませんが、死んだ人の愛には、生きて居る人に及ぼす不思議にして神的力量が有ります。母の自我が其側に想像に見る子供を愛し、此の世に生きて居た時と同じ様に其の子供が幸福に暮して居るものと思へば、實際生きて居る子供も、其の愛の影響を受け、之が其の子供の夢又往々種々の出来事、即ち天祐の避難等に現はれるので有ります。如何となれば愛は強き保護で有つて、場所や時によつて限らるゝものでは有りません。全く自己的或は物質的人を除けば、以上の外人間相

互の關係、及び情愛は此のデワカンの母の通りに成るので有ります。類例に依つて他の場合が分るでせう。

問 夫れでは何んな場合にでも、生きた人は死んだ人の精神と交通する事が出来ないと言ふのですか。

答 出来ないとは言ひません。出来る場合が一つ有つて、夫れに例外が二つ有るのです。其の一つは人が死んでから二三日間、及び自我がデワカンの状態に未だ這入らぬ間で有ります。精神が此の世に歸へつたが爲に、生きて居る人間が利益を得た事が有るか無いかと云ふ事は、別問題で有ります。恐らくは小數の場合では利益を得た事が有りもしませうが、其の場合では、死んだ人が何か或る目的の爲に此の世に歸へりたいと非常に熱望したが爲に、上位の意識は、無理に覺醒して居たので有ります。而して夫れ故に、生きて居る人間と交通したのは、全く眞我、即ち精神で有ります。併し一般の場合では精神は死後に痿されて、夫れから直きに吾々の所謂「前 Devachan」の無意識の状態に這入るので有ります。第二の例外は應化身(Nirmanakayas)に有ります。

問 應化身(Nirmanakayas)とは何ですか。